

美女を落とすための会話術

マインドコントロールの一步手前まで

理論編

相沢蓮也

著作権に関する注意

- ・「美女を落とすための会話術（理論編）」（以下、本書と表記する。）は、**著作権法により保護されている著作物です。**
- ・本書の著作権は、株式会社R&Gに帰属します。
- ・株式会社R&Gが事前に書面をもって許可した場合を除き、本書の一部、または全部を、あらゆるデータ蓄積手段（印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー等）により複製、流用、転載、転売することを固く禁じます。
- ・著作権の侵害につきましては、**著作権法第119条等の罰則が適用されますのでご注意ください。**

第百十九条 著作権、出版権又は著作隣接権を侵害した者（第三十条第一項（第百二条第一項において準用する場合を含む。第三項において同じ。）に定める私的使用の目的をもって自ら著作物若しくは実演等の複製を行つた者、第百十三条第三項の規定により著作権若しくは著作隣接権（同条第四項の規定により著作隣接権とみなされる権利を含む。第百二十条の二第三号において同じ。）を侵害する行為とみなされる行為を行つた者、第百十三条第五項の規定により著作権若しくは著作隣接権を侵害する行為とみなされる行為を行つた者又は次項第三号若しくは第四号に掲げる者を除く。）は、十年以下の懲役若しくは千万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。

2 次の各号のいずれかに該当する者は、**五年以下の懲役若しくは五百万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。**

一 著作者人格権又は実演家人格権を侵害した者（第百十三条第三項の規定により著作者人格権又は実演家人格権を侵害する行為とみなされる行為を行つた者を除く。）

二 営利を目的として、第三十条第一項第一号に規定する自動複製機器を著作権、出版権又は著作隣接権の侵害となる著作物又は実演等の複製に使用させた者

三 第百十三条第一項の規定により著作権、出版権又は著作隣接権を侵害する行為とみなされる行為を行つた者

四 第百十三条第二項の規定により著作権を侵害する行為とみなされる行為を行つた者

3 第三十条第一項に定める私的使用の目的をもって、有償著作物等（録音され、又は録画された著作物又は実演等（著作権又は著作隣接権の目的となつているものに限る。）であつて、有償で公衆に提供され、又は提示されているもの（その提供又は提示が著作権又は著作隣接権を侵害しないものに限る。）をいう。）の著作権又は著作隣接権を侵害する自動公衆送信（国外で行われる自動公衆送信であつて、国内で行われたとしたならば著作権又は著作隣接権の侵害となるべきものを含む。）を受信して行うデジタル方式の録音又は録画を、自らその事実を知りながら行つて著作権又は著作隣接権を侵害した者は、二年以下の懲役若しくは二百万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。

本書の使用に関する同意書

本同意書は、本書を閲覧した個人または法人（以下、甲と称す）と株式会社R & G（以下、乙を称す）との間で、本書の使用に関する一切の關係に適用します。

本書を甲が受け取り、パッケージを開封した場合には、本同意書に記載されたすべての事項に同意したものとみなします。

第1条（本同意書の目的）

甲は、本同意書に基づき、乙が著作権を有する本書に含まれる情報（ノウハウ、テクニック等）を使用することができます。

第2条（知的財産侵害の禁止）

甲は、本書に関するすべての知的財産権が乙に帰属することを承諾し、その権利を侵害しないことを約します。甲は、乙の書面による事前許可が得られない場合は、以下の行為を行ってはけません。特に本書を他者に貸与、譲渡、販売、公開することを固く禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社及び関連組織（販売店、代理店等）においてのみ、本書に関する情報を使用できるものとします。

- (1) 本書の複製、転写、転載、改ざん、部分使用
- (2) 本書の内容の一部または全部に関する出版、講演、広報活動
- (3) 本書の内容に関して取材を受ける行為
- (4) 本書の内容に関して不特定多数人に告知する行為
- (5) その他、前各号に該当するおそれのある行為、またはこれに類する行為

第3条（損害賠償）

甲が本同意書の第2条に違反した場合、甲は乙に対し、その違約金として、違反件数と販売価格を乗じたものの10倍の金額を払うものとします。また、甲が本同意書に反した行為、または不正、違法な行為によって乙に損害を与えた場合は、甲は乙に対し損害賠償の請求を行うことができるものとします。

第4条（責任の範囲）

乙は、甲に対し、本書の情報の使用により発生した一切の損害について責任を負わないものとし、損害賠償の義務もないものとします。

第5条（本同意書の変更）

乙は、本同意書の内容をいつでも変更、追加、削除できるものとし、文書、電子メールによるお知らせなど乙が適当と考える方法により甲に通知します。本同意書の内容の変更がなされたことの通知を甲が受け取った後に、甲が本書の使用を継続する場合は、本同意書の変更を承諾したものとみなします。

第6条（裁判管轄）

本同意書に関して訴訟の必要が生じた場合には、乙の所在地を管轄する地方裁判所を第一審の管轄裁判所とします。

もくじ

- [1、会話の目的は何ですか？](#)
- [2、サル山から抜け出してください](#)
- [3、二種類のマインドコントロール](#)
- [4、本当の孤独ってなんだろう…](#)
- [5、幼少期の親との関係性](#)
- [6、他人と比べた自分を見てみると](#)
- [7、それでも劣っている自分](#)
- [8、無能なスパイとは？](#)
- [9、理解とは勘違いである](#)
- [10、逆らえない魅力](#)
- [11、もっともシンプルで根源的なもの](#)
- [12、教祖の役割](#)
- [13、人見知りの構造](#)
- [14、アドレナリンの恋](#)
- [15、鏡に映っているのは誰ですか？](#)
- [16、恋愛感情を抱いてしまう仕組み](#)
- [17、友達を飛び越える](#)

18、到達点は洗脳です

1 会話の目的は何ですか？

これからあなたには、
会話の上達に向けて、
突き進んでもらうのですが、

ところで、そもそも、

- 会話が上手い

とは、どういう事でしょうか？

…

…

…

どういう事だと思います？

ただ漠然と、

「会話がうまくなりたいな…」

って思っている、

それだと、ゴールがフワッと

していて、どこに向かっていいのか
分からないじゃないですか。

みなさん、漠然とした
イメージはあるんですけども、

でも、よくよく考えてみると、

「会話が上手いって何だろう??」

って思いませんか。

たぶん、色々な答えが
あると思うのですが、

・色々な答えがある、

ということは、非常に
よろしくありません。

色々な答えがある

= (イコール)

色々なゴールがある

ですので、

これだと、みんながみんな、
どこへ向かえばいいのか
分からないまま、

右へ行ったり、

左へ行ったり、

ウロウロと走り続けるしか
ありません。

なによりも、教材を提供する僕が、

その部分をハッキリさせないと、

学ぶみなさんは、

ゴールがあいまいな教材を学んで、

どこへ向かって走らされているのか
すら分からないまま、

ウロウロして、

「なんか、たくさん勉強したから
レベルアップしたかも」

みたいな、あいまいなイイ気分
になって終わる、

という、

結局どうなりたくて、
何がしたかったのか？

よく分からない状態で終わって
しまいます。

会話ってというのは、

なにかしらの『目的』を
達成するための『手段』
ですから、

営業マンには営業マンの、

政治家には政治家の、

医者には医者、

先生には先生の、

経営者には経営者の、

社員には社員の、

親には親の、

コンサルタントにはコンサルタントの、

と、それぞれの『目的』が
違うのですから、

『手段』だって違うはず。です。

つまり、『目的』が確かではない、

「なんだか凄い会話術」

というものは、あり得ないわけです。

で、これ、いま僕が、具体的に
何を指して批判しようとして
いるのかっていうと、

・モテるための会話術

です。

「モテる」って何なんですかね？（笑）

これは非常に、あいまいです。

人によって「モテる」の定義が
違いすぎますので、

ゴールがよく分かりません。

ゴールが曖昧だと、

手段も曖昧なまま、迷走します。

答えが色々ある状態だと、

方法論というのは、
成立しないんですよ。本来。

「幸せになる方法は何ですか？」

って聞かれても、困りますよね？

逆に、
「あなたにとっての幸せって何ですか？」

という回答というか、質問というか
その程度の答えしか用意できないか、

もしくは、具体性に欠ける、

抽象的な、自己啓発的な、

「イイ感じっぽいこと」

を並べ立てるしか
なくなってしまうわけです。

で、

「それって本当に役に立つの？」

と。

なので、まず最初に、

僕は最大限、

会話の『目的』というものを
具体的に示そうと思います。

[もくじに戻る](#)

2、サル山から抜け出してください

恋愛における、会話の目的とは
いったい何なのか？

今回、1つの提案として
僕が設定する『目的』は、

**マインドコントロールの一步手前
まで持っていく**

です。

で、今回の教材のテーマ、
この会話術の『目的』をなぜ

・マインドコントロールの一步手前

に設定したのかっていうと、

この手法であれば、
どのようなタイプの女性であっても、

ほぼ、99パーセント通用するからです。

女性の内面的な、性格的な部分

が違って、ほぼほぼ関係なく
使えますし、

みなさんが、よく口にする

「美女が落とせない」

「外見レベルが高くなると落とせない」

とかも、関係無くなります。

なぜ、そのような事が成り立つのか
っていうと、

今回の会話術は、

人間という生き物の『根源』
にアプローチしてゆくからです。

**またそれは、女の子の幼少期の
『原型』みたいなものに対して
アプローチすることでもあります。**

なので、今までの恋愛テクニックとは
考え方の枠組みが違ふんです。

よく、

「美人は落とすのが難しい」

「美人だと落とせない」

って言いますよね？

みなさん。

で、ここには、どのような
前提が隠れているのかっていうと、

男性側が、

対等な大人として、

同等な社会人として、

女性に接している、

というものです。

ちょっと、分かりにくいかも
しれませんが、いったん、
そのまま大丈夫です。

順番に説明しますので。

とにかく、女性と「対等」
なんですよ。

世の中のほとんどの恋愛ノウハウは、
女性と「対等」であることが前提です。

よく、

「好きになったら下になっちゃう」

「好意を示したら、下になる」

とか、

「女性を上から転がしたい」

「女性の上になって追いかけさせたい」

とか、

そういう事を言う人が
いますけれども、

で、普通の恋愛ノウハウは
こういうステージで、

つまり、こういう枠組みで、

ああでもない、こうでもない、

って頑張っているんです
けれども、

僕に言わせるとですね、

「下になってしまう」

とか

「どうしたら上になれるか」

とか、

そういう事を論じている時点で、

・実は対等

です。

同じステージで、

つまり、同じ枠組みの中で、

同じルールの中で、

同じ世間の中で、

上下を気にしているだけ、

です。

サル山で、

誰がボスになるかとか、

会社の中で、誰が出世するか
しないとか、

そういうのと同じです。

どんなに上下関係を作って
みたところで、

しょせんは狭い、
サル山の中でのお話だし、

サル山という枠組みを
出られていませんし、

しょせんは狭い、
その会社の中だけでの
上下関係なので、

その狭い会社の枠組みを
出られていません。

...

もっともっと、根源的なところで、

完全に、男性側が「上」になる
ためにはどうすれば良いのか？

サル山でも、どんな組織でも、

その枠組みを超越して、

女性の「上」に立つには
どうすれば良いのか？

そのために、まずは

人間という生き物の中にある、

『ある本能』の部分をしっかりと
理解してもらいます。

で、『ある本能』の部分に
アプローチして、

あらゆる枠組みを超えて、

絶対的な上下関係を作り
あげてしまう、

1つの具体例が、

- 宗教

です。

宗教って、他の枠組みを
超越してますよね？

ハマればハマるほど、

社会的なあらゆる組織を
超越してしまいます。

その究極が、出家です。

家族も、会社も、地位も
財産も全て捨てて、

**場合によっては、命すらも
捨てて、そこに従属します。**

あなたが、テニスサークルに
いようが、

会社組織にいようが、

学校にいようが、

家庭にいようが、

まったく関係ありません。

こういった組織の中の上下を
すべて無視して、

その宗教団体の枠組みに、
その宗教団体の上下関係に、
からめとられます。

で、なぜこのような特別な
ことが起きてしまうのかって
いうと、

さきほどお話した、

人間の根源にある、

『ある本能』

を、強烈に満たしてくれるからです。

とくに、

年齢的に若かったり、

何かしらのコンプレックスを
抱えていたりするひとほど、
(つまりほとんどの人間ではありますが…)

きっかけさえあれば、誰でも、
どっぷりとはまります。

詐欺師にとって、一番だましやすいの、

「自分は、大丈夫。だまされない」

と思っている人間なのですが、

それと同じで、

「自分は大丈夫っしょ」

って人ほど、簡単です。

ちょっとした心のスキを見つけて
スルスルっと、入り込めます。

この辺のお話が、

今回の会話術には

非常に重要なテーマと
なってきますので、

宗教のお話と関連して、

・マインドコントロール

のお話から、ここで、
理解を深めてもらいます。

世の中の99%くらいの人が、
おそらく誤解している、

マインドコントロールの
本質について、

です。

[もくじに戻る](#)

3、二種類のマインドコントロール

分かりやすさを優先して、
かなり乱暴に分類しますと、

マインドコントロールには、
2種類あると思います。

1種類目は暴力が前提のもの。

たとえば、国家が、敵国の
スパイなんかを洗脳して
手先にしようとした時に、

無理やりつかまえて、

6週間くらい監禁して、

外界とのやりとりを完全に
シャットアウトして、

いつ終わるともしれない、
原因も未来の予測もつかない、
覚悟するきっかけすら
与えられない、

恐怖と不安、孤独、

その中で、

意味も理由も分からないような

作業を、

例えば、石を部屋の右端から
左端に移動して、

それが終わったら、

同じ石を、部屋の左端から右端に
移動させて、

というようなルーティンワークを、

6週間の間、延々とやらせられて、

少しでも逆らおうものなら、

徹底的に人格を否定されて、
ボコボコに殴られて、

一切の口答えも許されず、

部屋には窓がなく、

食事やルーティンの時間すら
不規則で、まったく予測がつかず、

たとえば、30分後に食事が
運ばれたかとおもうと、

こんどはまる1日、なにも食べさせて
もらえなかったり、

呼び出される時間も
まったく不明、

起きる時間も寝る時間も

完全にバラバラ、

狂ってゆく、現実感覚。

部屋は寒く、食事の栄養も悪い。

狭くて傾いたベッドは
うっかり熟睡すると、
転げ落ちてしまう。

絶え間なく流される、

不愉快な音と、臭い。

で、こうやって極限状態まで
追い込んだ後に、

つまり、ぶつぶつと独り言を
言い始めるだとか、

壁に頭をぶつけはじめるとか、

そういう、人格崩壊の直前
になって、

やっと、「取り調べ」
を開始します。

で、この取り調べの一番恐ろしいのは、

「答え」を教えてもらえないこと。

ただ漠然と

「お前の罪状は何だ？」

と言われ、

紙に書かされます。

いったい、どこまで知られているのか
分からないままに、曖昧なことや

自分を弁護するようなことを書くと、

目の前でビリビリに破かれて、
もう1度書かされます。

当然、どこがダメかなんて
教えてはくれません。

書き直したときに、前に書いた
ものとの間に、少しでも矛盾があると、

怒鳴られたり、殴られたりして、

もう1度書き直しです。

その他、漏らすまでトイレに
行かせてもらえなかったり、

徹底的に人格を否定され続けたり、
する一方で、

自分の非を認める発言をしたら、

褒められ、タバコやコーヒーを
もらえます。

これを繰り返しているうちに、

書いている方は、事実なんて
いうものはどうでも良くなってきて、

何を「告白」すれば、相手が
気に入るのか、

そればかりを考え、

相手の反応の微妙な違いを読み取り、

進んで、嘘でも本当でも、

何でも書くようになります。

...

で、ここからがさらに
凄いのですが、

やがて、ご褒美と罰は
気まぐれになります。

これまで褒められていたような
言葉と行動でも、急にけなされ、
蔑まれたり、否定されます。

何をしたら褒められて、

何をしたら殴られるのかも分からない。

こうなるともう、

何が正しくて、何が間違いなのか、

完全に頭は混乱し、秩序を失い、

意思を失い、

相手の主張の首尾一貫性とか
まったく関係なくなり、

完全に言いなり、服従します。

…

恐ろしいことに、

こういった方向性のことは、

日本の警察とか検察でも
昔はあって、
(いわゆる国策捜査とか…)

自分がやっぺいようが
やっぺいなかろうが、

取調室という密室で、

「この永遠に続くと思われる地獄から
解放されるならば、やっぺいない罪も
認めよう！」

っていうか、あれ？
オレ、やったかも。

あ。やったわ」

みたいな流れで、無実の罪を
喜んで着てしまったりもします。

…

さて。

なんで、僕が今、こんなお話をしたのか？

っていと、

めちゃくちゃ不謹慎なことを
言いますが、

この話って面白くないですか？

社会の裏側、闇の世界。

ウソと暴力。

権力や圧倒的な力に
押しつぶされる日常。

…

そうです。

面白いんですよ。

こういうお話って。

オウム真理教の事件って
今の人、知っているかな…

あの時の報道のされかたも
とっても面白くって、

信者を外界から完全に
シャットアウトして、

自分の髪の毛や生き血を
売って飲ませたり、

部屋に閉じ込めて、

「修行するぞ。修行するぞ。
修行するぞ。修行するぞ」

っていう音声が延々と流れ
続けるヘッドギアをつけさせ
られたり、

人はさらうは、

地下鉄にサリンはブチまくはで、

もう完全に漫画の世界です。

で、これも、あえて不謹慎な
言い方をしますが、

マスコミを筆頭に、

僕たちは、

「これはヒドイ！！」
「たへんな事だぞ！！！」

とかって大真面目な顔して、

実は心のどこかで、

面白がっているわけです。

...

新興宗教に対する報道って、

だいたい、こんなもんですよね。

ここに、死後の世界とか、
その世界の滅亡とか、
救世主とか、
霊魂とか前世とか、

なんか、そういう、

漫画みたいな部分を
切り取って、

実はみんな、面白がっています。

テレビも新聞も、
視聴率さえ取れば、
それで良いかのごとく。

...

だから、アブナイ。

面白いせいで、真実が
見えづらくなっています。

僕は別に、社会活動家でも、
ジャーナリストでもないので、

視聴率云々とか、

マスコミのありかたがどうか

そういうお話は置いていて、

僕がここで、一番取り上げたいのは、

非常に不謹慎な表現を
何度も使って恐縮なのですが、

こういう、「面白い」部分って
いうのは、

新興宗教が行う
マインドコントロールの中では、

ごくごく、ごくごく、ごくごく
一部でしかなく、

せいぜい、全体の10%~20%
くらいじゃないだろうか。

ってことです。

で、本当に重要なのは、

残りの80%から90%の部分。

メディア的にはけっして
面白くないので、

それほど重要視されない部分。

つまり、面白くない部分。

こっちこそが、本質であり、
重要なんですけれども、

で、マインドコントロールが
上手くいっている、

ほとんどの成功している

新興宗教で行われている、

本当の80%~90%の部分。

これが、最初に、

おおざっぱに言って、

マインドコントロールには
2種類あると言いましたが、

暴力を入り口としない
2種類目の方です。

**マインドコントロールは、
非常に、おだやかに
優しく、穏健（おんけん）に行われます。**

そしてこれが、
先ほどお話した、

人間という動物が根源的に
生まれもっている、

『ある本能』

の部分のお話となります。

で、この部分は、

全ての人間にとって、

甘い甘い、誘惑です。

一度、その甘い蜜の味を
知ってしまったら、

やめられません。

というか、その味を求めて
人間は生き続けています。

また、これも批判を承知で
あえて言いきってみますと、

この『ある本能』にねざした、

新興宗教のマインドコントロール
の手口の80%~90%を占める
部分というのは、

・内容が非常に素晴らしい

です。

皮肉でも何でもなく。

本当に良いです。

だから、危ないですよ。

誰がどうみても怪しかったら、
誰も取り込めません。

オウム真理教の話とか、

前世とか霊魂とかについて
熱く論じる、新興宗教とか、

普通に怪しいですよ？

だから僕たちは、

「あれは特殊な人達が起こしている
まったく別世界の出来事」

「色々思うところはあるが、
自分たちには関係ない」

って思うじゃないですか。

でも本当は、同じなんです。

ほとんどの怪しい新興宗教に
ハマってしまう人達だって、

いきなり、あんな異常な世界観や
犯罪、もしくは犯罪まがいの
一面を見せられたら、

普通に引きますって。

でも、なぜ最終的に
あそこまで行ってしまったのか。

オウムで言えば、

なぜ、

外界と完全に切り離された
世界に閉じこもり、

教祖の生き血を有りがたがり、

「修行するぞ。修行するぞ。
修行するぞ。修行するぞ。」

というヘッドギアをつけ、

暴力的なマインドコントロールを
許す段階まで行ってしまったのか。

だって、彼らは、スパイとかとは
違って、

少なくとも最初は、

誰からサラわれたわけでもなく、

自分の意思で、足を踏み入れて
しまったわけです。

その原因が、

これ、話が戻ってしまう
のですけれども、

新興宗教のマインドコントロール
の手口の80%~90%を占める
部分というのは、

- 内容が非常に素晴らしい

からです。

これは、誰にとっても
素晴らしいものです。

僕にとっても。

おそらく、あなたにとっても。

『ある本能』を満たして
くれますので。

で、80%~90%が
内容的にも非常に

素晴らしいので、

「あれ？
ってことは、

残りの10%から20%も
もしかすると良いモノなのでは？」

と錯覚してしまうわけです。

プロの詐欺師の
ウソとかと同じです。

80%が真実だと、

人間は、残りの20%も真実であると、

つい、思いこんでしまうものなのです。

・自分の判断に自信がある人ほど

です。

そうやって、

最初に、前半の80%~90%を
与えて、

その密の味にすっかり

まいってしまった段階で、

少しずつ、

残りのヤバい部分ですね、

この10%とか20%を
受け入れさせていきます。

これは、受け入れます。

80%~90%まで
受け入れてしまった段階で、

もう、仲間も出来ていますから。

仲間との連帯感や、

密の味が根っこにあるので。

そうやって、いつの間にやら

前世とか霊魂とか、

世界の滅亡とか、

教祖の生き血とか、

受け入れてしまいます。

ゼロの場所にいれば

「完全にバカげている」

としか思えないようなものも、

最初の80%~90%を
受け入れてしまったがために…

…

さて。

僕は最初に、

会話には『目的』がある、

と言いました。

で、この会話術の目的は

・マインドコントロールの一步手前

まで持っていくことだ。

と。

つまり、この手法と言うのは、

メディアではあまり取り上げられない、

しかし、一般的にはこちらの方が
圧倒的に利用されている、

新興宗教のマインドコントロール
でいえば、

80%~90%の部分。

**ここを、会話術に特化させて
形にしたものです。**

**なので、実はとても
危険な方法論です。**

この80%~90%を
飲み込んでしまった人間に対して、

外界の情報を完全に
シャットアウトすれば、

つまり実際的には、

- ・両親や友人と連絡を取らせないようにする

とか、

- 仲間内以外とは接点を無くしてゆく

とか、

ですね、

そのようにしむけていくと、

人間は、通常では受け入れられないような
ことも受け入れてしまいます。

たまに、いますよね。

完全にヒモにされちゃった女性とか、

宗教じゃないけど、ちょっと異常な
文化を持った集団に所属しているとか。

そういう、とても危険な一面を
持っているのですが、

しかし重要なのは、

- マインドコントロールの一步手前

まで持って行った後、

あなたはどうするのか？

です。

あなたの中に、

これを徹底的に実行した後、

目当ての女性に対して、

あの手、この手で、情報制限を行い、
その閉じられた空間の中で、

奴隷になるように教育してやる、

みたいな黒い感情が
渦巻いているとか、

あなたが、そういう種類の
人間で無いのであれば、

僕は、全然大丈夫だと思います。

あと、ちょっと逆説的な気もしますが、

この手法には、

**人間に対する根源的な『愛』が
必要ですので、**

小悪党には再現できないと思います。

ゆがんだ狂気をまとった、
激しい憎しみを裏返したような
『愛』を心の内に育ててしまった、

それこそ、テロ活動や集団自殺を
起こしてしまうような、ホンモノの
悪の教祖とか、

究極の自己否定が、そのまま
『愛』のようなものに
引っ繰り返ってしまった、
ホンモノの大悪党とか、

明確な悪意と目的を持った、
サイコパスなら別ですが…

そんな人間が、この会話術を
手に取る確率はねーだろ。。。

と思い、とにかくこのまま
書き進めます。

[もくじに戻る](#)

4、本当の孤独ってなんだろう…

さてさて。

暴力や薬物を使わない、
マインドコントロールの
80%~90%を占めるもの。

人間の根源をなす、

『ある本能』の正体。

…

それは、

・承認欲求

です。

人間は、これを満たさずには
生きられません。

食事をしなければ死ぬし、

睡眠を取らなければ死ぬのと

同じように、

誰からも『承認』されなければ、

おそらく、人間は正気を保てません。

ある人が、ブログやSNSに
文章や写真をUPして、

いいねボタンを嬉しく思ってみたり、

友達の数に気にしてみたり、

ホストに行くのも、

整形するのも、

絵を書くのも、

歌を歌うのも、

自己表現全般がそうですし、

出世したがるのも、

お金を稼ぐのも、

スポーツの応援とかも、
「頑張れ」という言葉よりも、
応援者の存在と、承認が本質です。

全てのことがらが、

どのようにして『承認欲求』を満たすのか？

という問題と深く結びついています。

ちなみに僕が、こうやって教材を
書いてみたりだとか、

コンサルをやってみたりだとか、

メルマガを配信してみたりだとか、

こういうのだって、『承認欲求』が
満たされるからやっているわけですね。

僕はたまに、メールマガジンの感想なんかを
みなさんからいただいたりして、

そこで、みなさんが、僕の文章について
ベタ褒めしてくれるんですよ。

それを読んでいると、快感がやばいんです（笑）

脳内麻薬がドバドバでてる感じ。

僕はそういう形で自分の『承認欲求』を
満たしているし、

これを読んでくれているあなたにも、
何か、あるはずなんです。

ホントに人間って、食って寝るだけでは

心を保てない生き物ですので。

ところで、

『承認』

という考え方は、とても

奥が深いのですが、

僕は3段階あると考えています。

1つずつ、丁寧に理解してください。

まずは、1段階目。

それは一番原初の、

根本中の根本で、

**誰かから、自分という存在を、
認識してもらうこと**

です。

例えば、

一生、部屋に閉じ込められて、

一生、誰とも連絡を取ることが

できない状況になったとしたら、

その部屋に、何万冊のマンガや
小説やDVDがあったとしても。

一生、温かい部屋と暖かい食事が
約束されていたとしても。

「あなたはもう一生、他のどのような
人間ともかかわることは出来ません」

といて、その部屋に閉じ込められて、

以降、生き物の気配を永久に
感じる事が出来なくなったら。

「いつかは人間と接することが出来るかも」

という希望を完全に断たれて、

人間の代わりとなる、ペットの類も
また、そういった他の生物の気配も

全て、断たれてしまったら。

たぶん人は、自殺します。

それか、自我が崩壊します。

気が狂います。

引きこもりというのが
社会問題になっていたり
しますが、

彼らが「引きこもり」として
やっていけるのは、

インターネットを通じて、

掲示板とか、SNSとか、

レビューサイトとか、

質問サイトとか、

チャットとか、

オンラインゲームとか、

そういう場を通じて、

**見知らぬ第三者と
コミュニケーションが
取れるからです。**

僕も若い頃、半年間くらい
引きこもっていたことが
あるのですが、

それだって、

厳密に言うと、社会に参加して
いなかった、

というだけで、

普通にコンビニやスーパー

には行っていました。

そこで、人間の空気を感じる
ことが出来ていましたし、

引きこもっていることは
両親にはナイショだったので、

彼らには電話とか出来ません
でしたが、

たま〜に弟とは、連絡を取ったりは
していました。

心のどこかで、
「一生このまま引きこもっている
つもりはない」

という希望も持っていました。

...

こういった全てを断られた、

完全な孤独

の中では、人は生きてはいけません。

**人間は、自分1人で自分を満たす
ことは出来ないようになっているんです。**

孤独の寂しさというのも
あるとは思いますが、

それ以上に、

人間が持つ、

自分が自分であるという感覚を
確認するためには、

他の誰かが必要なので、

つまり、

人間ってやつは、

誰かに指摘してもらい、

誰かに認識してもらい、

誰かに認めてもらわないと、

自分が自分であるという
感覚を維持できない生き物ですので、

だから、1人では生きられませんし、

そういった、強い承認欲求を
本能として、生まれ持って

いるからこそ、

『無視』というのが、残酷な
イジメとして成立しますし、

『ネグレクト』というのが
冷酷な虐待として成立して
しまいます。

**人間は、誰かから、自分という存在を
認識してもらうこと無しには、生きられません。**

おもちゃだらけの部屋に、
たった1人、孤独にしているのは絶対に得られない、

「他人」という存在を通してしか得ることのできない、
心の栄養。それが『承認』です。

この点は、あとで重要になって
きますので、

心に留めておいてください。

...

次に、承認欲求の2段階目のお話。

こっちの方が、みなさん
分かりやすいと思います。

2段階目の承認欲求とは、

誰かから、自分を肯定的に
受け入れられたいという欲求

です。

これが、3段階目になると、

自分が、『自分のまま』
『自然体である自分自身』
を、受け入れてもらいたいという欲求

という所にまで発展します。

ところで、

今、これを読んでくれている
あなたは、男性である、

という前提でお話しますと、

「アダルトビデオを見て
オナニーするだけでは
満たされない」

「風俗に行って女の子と
エッチするだけでは満たされない」

っていう感覚はお持ちでしょうか？

これなんかも、

あなたの中に、
たしかに存在する、

『承認欲求』

の問題なんですよ。

極論、性欲を満たすためだけ
であれば、

アダルトビデオを見て
オナニーしていれば
済むお話ですよ？

「アダルトビデオを見て
オナニーするだけでは
満たされない」

っていうのは、第1段階の

- 誰かから、自分という存在を
認識してもらうこと

を満たしたいからだし、

風俗に行って、お金と引き換え
という形では、

第2段階の、

- 誰かから、自分を肯定的に
受け入れられたい

という欲求を満たせないという
種類の男性が、

「風俗に行って女の子と
エッチするだけでは満たされない」

という感覚を持ちます。

たまに、

「自分はあまり性欲がありません」

とか言いながら、

すごいナンパをしまくって
いるような男性にお会いする
ことがあるのですが、

彼が満たしたいのは、性欲ではなくて、

第2段階の承認欲求なのでしょう。

さらに、第2段階の承認欲求が
満たされているうちに、

女の子にあわせて

色々と神経を使ったり

自分にウソをついたり、

演技したりするのは疲れた、

『自然体である自分自身』

を、受け入れてもらいたい

という欲求が強くなって来ると、

一時的な遊び相手ではなくて、

一生涯をともにすごす、

人生のパートナー的な
女性が欲しくなるんだと
思います。

だから、

アダルトビデオだけじゃあ
物足りないし、

風俗だけじゃあ、
満たされません。

...

さて、ところで、2段階目と
3段階目になると、

これらを満たすことは、

急に難しくなります。

第2段階でも、十分に
満たすというのは、

**若いうちほど、誰にとっても
非常に難しい問題です。**

おそらくですが、

この第2段階を健全に
満たしていくことが、

そうして、これを第3段階
にまで高めていき、

第3段階を健全に満たすと
いうことが、

人間として成熟する、

ということなのだと思います。

大人の器とか、大人の魅力
というやつのは正体です。

魅力的な大人は、

だいたいみなさん、

第3段階までしっかりと
満たしています。

「ありのままのオレは、
ありのまま愛される」

という自信を持っています

精神の発達が若い人ほど、

この点が難しく、

必死に色々な仮面をかぶって

世間に対して取りつくろって、

「本当の自分が知られたら
嫌われてしまうかも」

という根っこを抱えたまま

第2段階の承認不足で
悩んでいます。

[もくじに戻る](#)

5、幼少期の親との関係性

さて。

この第2段階の承認欲求を
満たすことが難しい原因の1つとして、

- ・ 幼少期の親との関係性

があります。

...

子どもというのは、

小さいときほど、

大人から見ると、

無意味とも思えるような
承認を求めます。

用もないのに、ただただ

「お母さん！」

「お父さん！」

って呼んで、

「はい」

とか、

「なあに？」

という返事を求めるとか。

逆に、

「ねえ。〇〇（←自分の名前）
って呼んで」

と、名前を呼んでもらいたがったり。

特に変わったことをする
わけでもなく、

例えば、おもちゃの自動車を
手で走らせて遊ぶとか、

積み木を積むとか、

その程度のことについて、
いちいち、

「見てて！」

って何度も何度も、その単調な
動作を見ることを要求してきたり。

絵やおもちゃを指さしては

「これは何？」

って質問してきて、
「これは車の絵だよ」

って答えると、
「はい〜ん。車か〜」

って言う。

その質問と回答は、
過去に何度もやっており、

そして当然、目の前の子どもは、

その絵が車の絵であることを、
十分に理解しているにもかかわらず、

この質問と回答を、延々と
繰り返して続けてみるとか。

これが、最初にお話した、

第一段階の承認、

- ・存在を認識してもらうこと

であることは、ここまで
読んでくれていれば、

もう大丈夫ですね？

意味があるかどうかとか、
用があるかどうかなんて
関係ないんです。

ただ、存在を確認してもらいたい
という根源的な欲求。

また、第2段階についても、

例えば、

一緒にご飯を食べて、

一緒に「美味しいね」

って確認し合うとか、

転んで痛い時に、

「痛かったね」

と気持ちを共有するとか、

楽しいときに、

「楽しいね」

悲しいときに

「悲しいね」

と、

幼少期に親から、与えられる、
こういう小さいことの積み重ね、

小さな小さな『承認』の
積み重ねが、

「ああ。自分のこの感覚は
正しいんだ」

「自分が楽しいと感じている
この感覚は、間違っていないんだ」

「自分が悲しいと感じている
この感覚は、その通りなんだ」

という**根源的な『自己肯定感』**
というやつを育てます。

これが、将来の、

- ただ自分が、自分であるという事実
そのものに対する自信

つまり、

あなたが、『あなたのまま』

『自然体である、あなた自身』

を、受け入れてもらえるという自信

の『種』となります。

・・・

ところが一方で、

当たり前のことではありますが、

親は完璧ではありません。

子どもの時は、大人とか親とか
先生とか、そういったものに
対して、

ある種の完璧さを求めて
しまうものですが、

自分が20歳くらいに
なってみると、分かります。

「え。オレもう20歳だけど、
まったく不完全だし、
ぜんぜん心が少年なんですけど…」

って。

そうして、30歳くらいに
なってみても、

「え。オレもう30歳だけど、
まったく不完全だし、
ぜんぜん心が少年なんですけど…」

40歳くらいになっても

…

(笑)

20歳だろうが30歳だろうが、
40歳だろうが50歳だろうが、

不完全なまま、

とりあえず一生懸命に
親をやろうとします。

それでも、未熟な僕たち

大人は、親は、

一生懸命ではあっても、

子どもに対して、完璧な承認
などというものは、

与えることができません。

疲れていれば、

ついつい、繰り返される
子どもの承認欲求が
面倒くさくなって、

いい加減な返事や対応
をしてしまうし、

「疲れているから、後でね」

って言って、その『後で』
はいつまでたっても来ない
ものだし、

面倒になれば、ほったらかしで
1人でスマホやテレビを見せておくとか。

つい、テキトーにしてしまいます。

1歳違いで、下の子が生まれれば、

その子の面倒だけで手いっぱい
になってしまって、

上の子が「見て！」と主張しても
かまってあげられません。

さらに、心が未成熟な親になると、

その日の気分で、

子どもに対する態度を変えて
しまったり、

例えば、

ある時は、子どもが歌を
歌っていると、

「すごいね～。
上手だね～。」

って褒めるのに、

別の日になると、

「うるせー。
大きな声だすんじゃねー！」

と、一貫性ない『承認』を
与えたりだとか、

ずうっと鬱（うつ）っぽい
気分で弱気な親になると、

逆に、子どもの方が
一生懸命になって

親に対して『承認』を与え
続けようとするだとか、

あと、若い頃に挫折（ざせつ）して
夢がやぶれた親とか、

強烈な劣等感や引け目を
抱えたまま育てしまった
親とかになると、

子どもを、自分の代用品として、

自分がやりたかったことを
やらせたり、

自分に出来なかったことを
やらせようとしたり、

自分がやぶれた夢に
挑戦させたりします。

この場合、

極端に子どもをコントロール
しようとする傾向になり、

それが

・ **条件付きの『承認』**

となります。

つまり、

テストで100点とれたら
お前はいい子。

褒めてあげるし、愛してあげる。

でも、それ以下なら、

お前なんか、うちの子じゃない。

とか。

こういうのは、けっこう
ありますね。

親が子どもを芸能人にしたいとか、

スポーツ選手にしたいとか、

そっち系も原理は一緒です。

で、こういうのは例えば、

親が自分の学歴に対して
強いコンプレックスを持って
いたとして、

そのため、子どもには
何とかして有名な大学に
行かせようと強く仕向けたとします。

その場合、子どもは

親に認めてもらうためにも、
何とかして期待に応えようと
するのですが、

残念ながら才能が足りずに、
親が望んだような成績は取れず、
受験にも落ちたとします。

こういう時、子どもは

親の期待に応えられなかった苦しみから、

心に大きな不安や
自己否定をかかたま
ま年齢を重ねたりします。

なかには必要以上に感情を殺して

「親はどうすれば僕を認めてくれるのだろう」

「先生は私にどうしてほしいのだろう」

ということを、いつも気にしながら
生きている人もいます。

自分を殺しながら生きている子どもは、

親や先生の顔色を見て、

自分の行動を決めるのが
習慣になっているため、

ホンネを言ったり、したいことを
したりするのが苦手です。

また逆に、

常に親の期待に応え続け過ぎた場合であっても、

中学で一番、

高校で一番、

大学で一番、

一流企業に就職して、

エリートの彼氏と付き合っ…

と、親の期待に応えれば応えるほど、

周囲の人間からの憧れや羨望（せんぼう）
とは裏腹に、心の奥底では、

「いつか失敗して、周囲の人間を
ガッカリさせてしまうのでは」

という恐怖を膨らませて
いたりだとか、

大きな承認不安を
抱えていたりするものです。

親の期待に応えられている
うちは愛してもらえる。

周囲の期待に応えられている
うちは愛してもらえる。

でも、期待を裏切ったとき
私はどうなってしまうのだろう…

と。

あとは…

子どもの力ではどうにも
ならないような無力感を
味わったとか。

例えば、

幼少期の親の離婚やケンカ、

親が亡くなったりとか、

うつ病になったりとか。

こういうの、

大人になれば別ですが、

幼い時ほど、それは世界の
崩壊と同じですので、

その無力感の中で、

圧倒的な承認不足に
陥りやすいです。

他にも、

仕事に夢中で、仕事に逃げちゃう
両親とか。

父親は一部上場企業のエリートで、

母親はエステサロンの社長。

2人ともいつも、「忙しい。忙しい」
で、子どもは他人に預けられっぱなし。

すると、

「私のことを愛してくれているのは
よく分かる。

でも、2人には私よりも大切な
ことがあるんだ」

で、そういう寂しさを根っこに

抱えた子が社会や学校で問題でも
起こそうものなら、

一時的には心配してくれるが、

その状況と本質に向き合えない
父親と母親は、

ますます仕事にのめり込む、
という形で現実逃避する、

とか。

こういう感じのやつも、
けっこうあります。

他にも、過保護すぎる親とか。

こういう、子どもを支配する親は、

「子どもにとって何がよいかは
自分だけが知っている」

と考えており、

親の意図から少しでも外れたなら、

拒否・拒絶という罰を与えるが、

言うことさえ聞いていれば、
『承認』してあげる、

という感じで、何から何まで

親がすべて指示して、決めて、

その決められた枠組みの中
でしか『承認』を与えない
みたいな事をやらかします。

あとは、

常に比較するっていうのも
ありますね。

お兄ちゃんと比べて、

お姉ちゃんんと比べて、

弟と比べて、

妹と比べて、

で、優秀なほうだけ『承認』するとか、

その延長として、家庭内で、

スケープゴート（いけにえ）
にされちゃう子も、います。

「この子はいつも、私たちに困らせて」

という形で、

1人の子供が問題児として、

あらゆる家族間の問題を、

- ・親を困らせる

という形で引き受けて、

実は、なんとか、その崩壊しかけた
家庭を維持していたりとか。

そうしたときに、例えば、

姉妹なんだけれども、

いつも姉だけがチャホヤされていて。

自分はいつも、愛を与えてもらえない。

すると、その女性の外見が
美しくても、

そして本人も自分が男性から
人気があることを知ってはいても、

根本的に、自分の魅力を
信じられずに、

自分の外見にも内面にも
自信が持てなくなり、

それが将来の恋愛に
大きな影を落としたりもします。

実はこれ、

同じことの裏と表なのですが、

問題児ではなく、

- ・良い子

として、崩壊しかけた家族の維持を
ぜんぶ引き受けてしまう子もいます。

こういう子たちも、

親から『承認』をもらう
どころではありませんね。

むしろ、いかに自分をゆがめて
家族っぽいものを維持するための
犠牲を一手に引き受けている
わけですので。

他にも病的なところだと、

- ・アルコール依存症の親
- ・ギャンブル依存症の親
- ・言葉による暴力

- 肉体的な暴力

- 性的な暴力

なんてのも、普段は表に見えてこないだけで、

実際にはけっこう多いです。

例をあげれば、まだまだいくらでもありそうですが、

要するに、そういうパッと見では分からないような、

- 親からの承認不足

が、世の中にはあふれ返っているわけです。

これも、程度の問題ですので、

「どのくらいの人が」

とは言えないわけですが、

最初にも言いましたように、

完璧な親など存在しませんので、

それこそ、

程度の差は色々だけれども、

基本的に人間というのは、

みんな、こんな感じで、

『承認』に傷をかかえていたり

ゆがんだりしながら、

体だけは大きく成長していきます。

それでも、今の自分でなんとか
せいっぱい生きている、

あなたから、あるいは他人からみたら
誰が、どんなに、うらやましく見えようとも、

隣の芝（しば）がどんなにあおく見えようとも、

どんなにリア充に見えようとも、

実際はみんな、そんなものです。

みなさん、それぞれが、それぞれの
立場で、何かしらと比較しながら、

「承認」に、何かしらの傷を
抱えているものです。

...

さて、ここまでのお話で、
あなたに意識して欲しいことは、

『承認』をめぐる問題になると、

美女だとか、そうでないだとかは、

全く関係無くなる、

ってことです。

親と子の間で発生し、
作られていく問題ですので。

美女だから、たっぴりと
健康的な『承認』を受けられて、

そうでないと、虐待されるとか、

そういう話ではないですよ？

一般的な親は、

子どもの顔が整っていると
そうでないとかを理由に、

『承認』したり、しなかったり
ということはしませんので。

なので、ここ、今回の会話術に
ってはとても大切な
ポイントです。

特に家族の中においては、

**その女性の外見と、その女性が受けられる
『承認』との間には、あまり関係がないんです。**

そして、今回の会話術は、こういう部分に対して
アプローチしてゆくものです。

[もくじに戻る](#)

6、他人と比べた自分を見てみると

さて。

ちょっと親のせいにしすぎました（笑）

もちろん、それだけでは
ないですよ。

人間が生まれ育っていく中で、

どのようにして承認欲求を
満たしていくのか？

次は、子どもが成長とともに
社会＝幼稚園とか学校とか会社とか、

に出ていく中で、

どのようにして、承認が満たされ、
また満たされないのかについて

見ていきましょうか。

・・・

ところで、社会に出る、

ということは、

自分と他人を比較し始めること

だと思えます。

子どもは、幼稚園や小学校、
中学、高校へと通う中で、

他の子どもたちとの比較を通じて、
『自分』という意識を強めてゆきます。

そうして比較というのは、

上下関係を知ることもあります。

誰が一番、美人か。

誰が一番、オシャレか。

誰が一番、人気があるか。

誰が一番、絵が上手いか。

誰が一番、走るのが早いか。

誰が一番、ケンカが強いのか。

誰が一番、勉強ができるか。

誰が一番、面白いか。

誰が一番、モテるか。

誰が一番、歌が上手いか。

誰が一番、先生から好かれているか。

誰が一番、知っているか。

誰が一番、持っているか。

...

この時、面白いのが、

何かで一番であったとしても、
それ自体は、

承認欲求にとっては、
あまり重要ではない、

ということです。

問題は、ただ優れているかどうか
ではなくて、

本人が重要だと思っている分野で
優れているかどうか

です。

これは例えば、

・モテる

なんていう、恋愛にとっては
かなり有利なジャンルでも同じで、

たとえ「モテる」女の子
であっても、

「好きな人からモテなければ
意味がない」

と感じていたりするし、

それは、モテない僕らから
してみれば、

「いやいや、そんだけモテる
んだから別にいいだろ」

って思ってみても、

そんなものは、本人からして
みれば、

何の価値もないわけです。

たまに不特定多数の男性から
チヤホヤされたい！

っていう子もいますが、

そういうのはむしろ、少数派です。

特に、女の子は、男よりも
肉体的に弱いので、

男よりもずっと、

「特定の男性にだけモテたい。

そうでない男から言い寄られても
その男をふらなきゃならない、

そんなのストレス以外なにもの
でもないし、

ストーカーっぽいとか、ホント
重たいし、気持ち悪いし、

下手にふって、相手のプライドを
傷つけて、

それで恨みとか買うの、
メンドウすぎるし…」

っていう感性がリアルです。

で、だいたいこういう子が
好きな男にフラれたりすると、

「どうして自分ではダメだったんだろう…」

っていって、

胸の大きさを気にしてみたり、

自分とは全く違った系統の美人に
強くあこがれてみたり、

年齢を気にしてみたり、

自分は会話が下手なんじゃないかとか、

中身が空っぽだから、
外見のイメージで好きになられても、

本当の私を知ったらみんな
私から離れていくに決まっている、とか。

そんなメンタリティも
よくあります。

だいたい、外見で好きになられてもね、

「じゃあ、私より若くて可愛い子が
現れたら、私は捨てられるんでしょ？」

って思うじゃないですか。

...

ちょっと話がズレ始めましたので
戻しますね。

僕が一番言いたいのは、

重要なことなので
何度も繰り返してしまいますが、

要するに、

承認欲求にとって重要なのは、

**本人が重要だと思っている分野で
優れているかどうか**

ですので、

美人だから満たされているとか、

可愛くないから満たされていないとか、

そういう問題ではない、

って事です。

まあ、だいたい皆さん、

自分が既に持っているもの、
その時点で既に優れているもの、

については、

- 空気みたいな当たり前

になってしまいますので、

それほど、承認を満たすことには
役に立たないものです。

持っていないものを、

努力によって、後から
獲得したほうが、満たされますよね。
承認欲求が。

なので、世の中には、

承認不足によって、自分に
自信を持ってない、

イケメンや美女がうようよいます。

一般的に言えば、自分は可愛くて
美人でモテる方だ、

と知りつつも、

それは自分の外見がモテているだけで、
本当の自分はモテてはいない、

という無意識・無自覚の欠落感を
抱えているものなんですよ。

努力によって何かを勝ち得た経験が
少ない女性ほど。

[もくじに戻る](#)

7、それでも劣っている自分

今回の教材のコンセプトは

- ・ 美女を落とすための会話術

ですので、

『美女』の部分について、
もう少し踏み込みます。

まずは、

承認欲求が十分に満たされるか
どうかは『主観的』である、

ということから。

前回の、

問題は、ただ優れているかどうか
ではなくて、

- ・ 本人が重要だと思っている分野で
優れているかどうか

とも深くつながります。

つまり、

例えば、あなたが、

目の前の女性について、

どう感じるか——

美しいとかモテそうとか
可愛いとか、スタイルいいとか、

——

そんなことは、本人にとっては
どうでもよくて、

重要なのは、

**その女性自身が、
自分自身をどうイメージしているか。**

他者イメージではなく、

自己イメージ、

の問題なんです。

特に、自分の外見については
どれほど美しい女性であっても、

意外と自信を持ってません。

例えば、自分の顔。

あなたは鏡で自分の顔を見るときに、

「オレってイケメン〜っ！！」

って感じないと思うんですよ。
普通は。

どちらかというと、
嫌いじゃないですか？

写真とかも。

何枚とっても、だいたい

「写真映り悪いな〜」

って感じると思うんです。

思春期に、一時的に
自分の顔が大好きで
鏡の前で見とれたりする
という現象も、

人によってはあるのですが、

大人になると、たいていは、
そういうのは消えます。

そして、
多くの場合、女の子のほうが
自分の外見に対して敏感で、

だから、写真用のキメ顔とか、
少しでも自分が綺麗に映る
ための角度とかを研究しています。

そのうえでさらに、

デジカメで何枚も撮った写真のうち、
自分の映りが良いものを厳選して
あとは消したりします。

プリクラなんかも凄いですよね。

普通に撮影するだけなのに、

異様に肌が白く、

目が大きく、

キラキラした感じに

自動的に加工されます。

思い出として残したいのは、

『良い写真』ではなくて、

『自分の映りが良い写真』

これって、裏をかえすと、

やっぱり嫌いなんですよ。

自然なままの自分の姿が。

「お金がありすぎると
思っている人はいないし、

自分はやせすぎていると
思っている人もいない」

とは、ウォリス・シンプソン
という女性の言葉ですが、

あなたや、他の誰かから見て
どうかなんてことは関係なくて、

やはり重要なのは、

・ **本人がどう思っているか**

であり、

ほとんどの人は、どんなに何かを手に入れてみても、

「何かを手に入れる」

というだけでは、

安定した自信を持つことは難しいものです。

話はややズレますが、

そういえば、

ノーベル文学賞を受賞したヘミングウェイが、

その絶頂期に自殺したとき、

「大切なのは私が書いたことではない。
私が書けたはずのことだ」

と書き残したそうです。

才能のある人間ほど、そのことが原因で、

自信を失ってしまうことの一つの典型でしょう。

他には、例えば、

マラソンの才能に恵まれていて、

日本で2番目に早い選手が
いたとします。

49, 195キロを誰よりも
早く走り抜ける。

たった一人を除いて。

そして、そのたった1人に負けたこと、
それだけが重要で、絶望したりします。

逆に、近所を3分も走ったら
息がゼイゼイいってしまう人なら、

そのような屈辱感とは無縁でしょう。

そもそも、早く走る、ということに
興味がないのですから。

高すぎる願望は、

完璧すぎる理想は、

求めすぎる「本当の私」は、

客観的で冷静な他人の評価とは関係無く、

自信を奪い続けます。

自信って、とても主観的なものなんです。

そうして、

自分を周囲の人間や、
テレビ・雑誌なんかと
比較してしまうこと

が、この現象を加速させています。

これ、昔ちょっと流行った、
アドラー心理学の考え方なんです
けれども、

人間っていうのは、

「他者と比較して、自分はマイナスである」

という認識から、

「じゃあどうやって、プラスになろうか」

という方向に生きているんです。

どのような地位にあって、

どのような才能に恵まれていて、

どのように外見が美しくて、

どんなにお金を持っていて、

どれほど、他人よりも恵まれて
いるように見えたとしても、

そもそも、どのような人間も、
前提として、

「他者と比較して、自分はマイナスである」

というものを抱えて生きているんです。

だれもが、誰かと比較しながら、
何かと比較しながら、

「自分はまだ劣っている」

と感じているものです。

だから、基本的には、全員が悩んでいるし、

だから、基本的には、全員が何かしらの
劣等感を抱えているものです。

この教材のコンセプトは、

『美女を落とす』ですので、

例えば、女性のスタイルに関して言えば、

ファッションや広告業界に
よって、

あらゆるところに、完璧な
スタイルのモデルさんが
登場して、

「やせていなければならない」

という強迫観念を作っています。

テレビや雑誌に登場する
芸能人はいつも完璧で、

——もちろん、監督やカメラマン
スタッフなどが全員で協力して

そのように映しているわけだし、

雑誌やCMなんかは一度
撮ったものを、

さらに美しく加工している
だけなのですが——

化粧品業界から、美容整形、
フィットネスクラブにいたるまで、

「もっと美しく！」

とって、毎日毎日、

洗脳のように情報を送り
続けます。

抽象的な美に反する、

1ミリのスキだって許しません。

また、この傾向は加速して止まりません。

1998年の時点での
お話なのですが、

イギリスの化粧品会社によると、

1975年時点では、

モデルの平均体重は、一般女性の
平均と比べて、8%しか少なく
なかったそうです。

ところが、1998年の時点で
平均すると、23%も少なく
なっているそうです。

ちなみに、僕がこれを書いて
いるのが、2017年の5月
なのですが、

現時点で人気絶頂の、

桐谷美玲さんの

BMI値

※体重(kg) ÷ (身長(m) × 身長(m))」

は、14,6だそうです。

これがどのくらい
凄いかっていうと、

21～22で健康体重

20で美容体重

19でモデル体重。

18未満だと痩せすぎで、
摂食障害とかの人がこのくらいで、

17未満だと入院施設がある
病院を勧められるレベルで、

15未満だと、高度医療を提供できる
救急病院や研究施設のある大学病院を
進められるレベルだそうです^^;

で、こういうレベルの人が
美しさの『正解』として
メディアでもてはやされるわけです。

そうすると、周囲がそれに
合わせるようになります。

何事もそうなんですが、
追及しはじめると、

どんどん極端になってきて、

別に、お金や美容に限りませんが、

全てにおいて、

世の中ってというのは、

「お金がありすぎると
思っている人はいないし、

自分はやせすぎていると
思っている人もいない」

ものですから、

で、繰り返しになっちゃいますが、

こういうプレッシャーの中で、

他人がどう思うかなんて
関係無いんですよ。

・本人の主観の問題

・あなたがどう思うかではなくて
その人自身が、どう思っているか

それだけが重要

です。

この辺のプレッシャーって
というのは、

なかなか、男には分かりづらい
部分があるのですが、

そうやって、世の中からですね、

・美しさ

という価値がもてはやされれば
もてはやされるほど、

女性は、自分を

「美しくなろう」

「美しくあろう」

と意識します。

そうして、こういう意識
ってというのは、

高くなればなるほど、

許せないことが増えてきます。

人間ってというのは、

1つの事に対して意識が高まれば
高まるほど、

他人には気が付けない、
細かい部分まで見えてしまう
ものです。

で、美しく修正・演出された
「スーパーモデル」とかと
比較して、

コンプレックスを膨らませます。

鼻がもう少し高ければ。

肌がもう少し白ければ。

まつ毛が。背が。胸が。
お尻が。髪が。アゴが。
目が。笑顔が。表情が。
シワが。爪が。脚が…

細かく、細かく、

でも強く、

自分が許せなくなっていくます。

...

さて。

このようにして、外見に対して
意識が高まってしまった女性が

『恋愛』というステージで
抱えやすいメンタリティは何か？

っていうと、

本当のわたし

です。

美しく成ろうとすればするほど、

美しく在ろうとすればするほど、

それは、

- ・ありのままの自分

とのギャップを意識せざる
をえません。

世の中が女性に対して
美しさを求めるから、

美しいことは正義だから、

可愛いのは正義だから、

だから頑張って美しく
自分を磨いている。

でも、磨けば磨くほど、

頑張れば頑張るほど、

美しく、可愛くと自分を
意識すればするほど、

その一方で、

「本当の自分は…？」

という無意識も膨らみます。

で、『承認』が不足している
女性ほど、

「本当の自分が知られてしまったら
きっと嫌われる」

的な漠然とした不安を
抱えています。

で、どうするかっていうと、

外見で好きになれること
に対する恐怖を強めたり、

つまり、外見で好きって
言ってくる男と付き合っても、

本当の私を知られたら、

嫌われるか、

私の性格を思い通りに
修正しようとしてくるか、

幻滅されるか、

っていう、そういう種類の
ストレスから、

相手を拒絶したり、

あと逆に、

ぱぱっと付き合っ、

良いところだけ男に見せて、
自分の欠点がバレる前に
自分から、その男のもとを
立ち去って、

っていうことを繰り返すとか。

逆に、

「男は私の外見が好き」

って割り切っ、

その外見を武器にし過ぎる、

その外見に頼り過ぎている女性も
なかなか怖いものがある、

こういう女性は、付き合うと
非常に嫉妬（しつと）深いです。

彼が好きなのは、外見の良い女なんだ、
ということが分かっていますので、

若くて綺麗な女性が彼に
近づくのが極端に許せません。

一方で、外見云々ではなく、

根源的な自信を持っている
女性であれば、

「自分が沢山の男性から美しいと
言われるのは分かる。

多くの男性を引き付ける外見を
持っていることは、頭では分かる。

でも、だから何？

私よりも若くて美しい女性は
いくらでもいる。

そんな外見で好きになられても、
私はあなたの所有物にはなれない。

あなたが押し付けてくる、
そのイメージを演じ続けることは
できない。」

という感じでしょうか。

この辺は男側の責任も
大きくて、

男って、こういう種類の
女性のプレッシャーに関して

ほとんど無知だし、

理解していないじゃないですか。

で、都合の良い理想を
押し付けちゃいますよね。

本当は、生まれつき髪が
サラサラで、

唇がぷるんってしてて、

肌が白くてつやつやで、

目がぱっちりしている、

ドラマや漫画、映画に
出てくる、

男の理想を絵に描いたような
ヒロインなんて存在しない
わけです。

女の子が頑張って、
演じてくれているだけ

なんですよ。

男が、そうして
社会が求めるものだから。

でも、男にはそれが分からない。

女の子のメイクや日頃の
努力を、

ナチュラルなんだと
勝手に思い込んでいる。

思いこんだまま、

分からないまま、

女の子の外見を見て、
勝手に内面まで理想化して、

そいつを押し付ける。

そのギャップが、
恋愛においても、

沢山のすれ違いを生みます。

• •

まあ、これはイケメンとかも

同じなんですけれどもね…

イケメン。

僕のコンサルに来る人の
3割くらいは、イケメンです。

残りの7割のうち、
4割くらいも、

ファッション含め、
総合的な雰囲気を見て、

どう見てもモテそうな
男性です。

僕のコンサルってメチャクチャ
高額なんですよ。

でも、それを支払ってでも
恋愛相談したいほど、

深く悩んでいます。

イケメンと美女に多いのは、

やっぱり、

「長く付き合えない」

とかですかね…

外見で惚れられるんだけど、

付き合い始めると、

「期待してたのと違う…」

的な感じでフラれる
みたいです。

外見が良いっていうのは、

恋愛の場において、

短期的には非常に
メリットが大きいのですが、

その分、相手からの期待値も
高いみたいで、

そんな理想化された期待に
なんか応え続けられるはずは
無いのですが、

でも、応えられないことに、

「自分は中身が空っぽなのは…」

的な悩みを抱きやすい
のかもしれない。

...

色々言いましたが、

これらだけが真実だとは
思わないでくださいね。

沢山あるなかの
パターンをいくつか
挙げたに過ぎませんから。

上記の全てが絶対的な
真実であり、正解ですよ、

という意味ではなくて、

なんでこういう話をして
いるのかっていうと、

人間が、本当に深い部分で、

『承認欲求』を満たそうと
考えたときに、

男でも、女でも、

外見の良し悪しは、あまり関係が無い、

ということを、あなたに
知ってもらいたかったからです。

恋愛において、

美人が有利に見えたり、

美人だから落とすのが難しい

ということに、ほんの少しでも
事実があるとすれば、

それは、

- 入り口の部分だけの問題

です。

非常に短期的、瞬間的な一部分での
お話です。

男女として、

お互いが自分にとって
ふさわしい相手であるかを

テストし合う、

確認し合う、

そういう恋愛のテーブルに
着くまでであれば、

たしかに、外見が良い方が有利です。

でも、一度テーブルについて
しまえば、

つまり、

2人でお茶するとか、

2人で食事するとか、

『会話術』のようなものが
本格的に求められるような
ステージになってしまえば、

その先は、

外見は、ほとんど関係無くなるし、

特に今回、

僕がお伝えしようとしているような

承認欲求に根差した、

「本当のわたし」

の部分にアプローチするとなると、

外見なんてのは

まったく関係無くなります。

なので、入り口の部分だけ見て、

美人だから…

イケメンだから…

とか言っていると、
『本質』を見失いますよ、

ってことと、

じゃあ、ここで言う、
重要な『本質』とは何か？

っていうと、それが、

今まで何度か出てきましたが、

「本当のわたし」

というキーワードであり、

承認欲求の話であり、

自分という存在そのものに
関する、根源的な自信の話
となります。

...

まあ、人間なんて、

結局みんな、

老人になっちゃいますからね。

よくよく考えてみれば、

人生って、オッサンやオバサンに
なってからの方が長いし、

日本人の平均寿命がすっかり
伸びた現代、青年である時間よりも、

おじいさんやおばあさん
でいる時間のほうが、長いわけです。

で、女性の方が、

自分の外見や若さに関して

男性よりもずっと敏感ですので、

当然、

自分はあるという間に歳を取るし、

若くて美しい女性が他に続々と
表れ続けるなんてことは、

切実に、分かり切っているわけですので、

やっぱり、

外見のイメージで好きに
なれることは恐ろしいことだし、

最後は、

ありのままの、本当のわたし。

美しくなくても許してもらえる、

美しくない部分も許してもらえる、

嫌な部分も受け入れてもらえる、

そんな恋愛を欲しがっていたりします。

[もくじに戻る](#)

8、無能なスパイとは？

さてさて。

その他大勢の男性のみなさんが、

「美女を落としたい」

だとか、

「外見レベルが高い女が欲しい」

とかいって、

一生懸命に、モテ本なんか
書いてあるような、

変な小細工やら、

上から目線の会話術やら、

実は使えないテンプレートやら、

そういった、

本質的に女性が求めているもの
とはちょっとズレた、

あるいは、求めている女性も
いるんだけど、

求めていない女性もいるよね、

みたいな、

そういう偏ったステージで
物事を考えて、

戦いに挑む中、

僕らは、まったく別の視点である、

そうして、

ほぼ全員の女性が根源的に
求めている、

その女性にとっての、

「本当のわたし」

というものに対して
どのようにアプローチして、

受け入れ、

女性の中の、深い深い
部分にある承認欲求を
満たしていくのか？

というやり方で、口説きます。

...

さて、このやり方を今から
あなたにお伝えするわけですが、

具体的な方法論に入る前に、

それらの方法論を根っこで
支える、

1つのマインドセット
についてお話しします。

このマインドセットが
出来ていないと、

これからお話しする技術は、
すべて空回りします。

全部が全部、薄っぺらくなります。

なので、どうしてもここだけは、

最悪、次にお伝えする技術体系は
全部忘れてもいいんで、

このマインドセットだけは

忘れないでください。

オッケーですね？

薄っぺらくならないために。

・・・

で、結論から言いますと、

そのマインドセットというのは、

会話で一番重要なのは、

目の前の『その人』を、

「もっと知りたい」という気持ち

です。

この事を分かりやすく説明
するために、

ある相談者さんとの
やり取りを見てもらいます。

彼は最初、

「サバサバ系の女性を落としたい」

というメールをくれました。

自分としては、サバサバ系の女性を
落とした経験が無いので体験してみたい。

だが、彼女達は心を開いてくれず、
冷たく、

いつまでも心を開かない態度に
自分がイラついてしまう。

話を聞いて、共感して、内容を突っ込み、
内面を褒め、いじったり、プライドを
くすぐったりもする。

しかしいっこうに、崩せない…

こういった女性と接していると
疲れるのだが、

経験として、落としてみたい
という気持ちもある。

と、そんな悩みです。

これについての、
僕の回答が以下。

「サバサバ系」

みたいなくくり方で
女性を見ない方が良いです。

警戒心が強かったり、
自分に自信が無い女性で

心を開くまでに時間がかかってしまう
女性であれば、絶対的に時間が必要だし、

デートした後に
連絡が取れなかったなら、

それは、単にそのデートが
つまらなかつただけだし、

2度、3度とデートしても、
態度が冷たく見えたなら、
それは、そういうスタンスの
女性ってことです。

「経験として落としてみたい」

というその気持ちは、

口説かれる女性側からすると
「知ったことでは無い」です。

「それは、あなたの都合でしょ？」

と。

こういう本音って、

「色々言ってるけど、なんか、
こいつ薄っぺらいな～」

みたいな印象になって、
伝わってしまうものですよ。

女性って鋭いんで。

もっと鋭いと、

「こいつ、ほんとは私に興味ないんじゃない？
なんでこの人、私といるんだろ??」

とか。

女性の感性を甘く見積もっていると
空回りしちゃいますよ。

●●さん（相談者さん）の発想って、

「サバサバ系を口説きたい」

じゃないですか。

これって、

「ナースとやりたい」

「女子高生とやりたい」

「モデルとやりたい」

「ナンバーワンを落としてみたい」

「美人とやりたい」

みたいな感じで、

属性とかレッテルに対する興味なんて、

口説かれる側の女性からすると、

「それって私じゃないよね？」

ってのが感じられてしまうんですよ。

サバサバ系でもなく、

ナースでもなく、

女子高生でもない、

モデルでもなく、

ナンバーワンでもなく、

ただの外見でもない、

目の前の、その個人に対して
ちゃんと意識がいつているかどうか？

「ああ。私を見ていないな…」

ってのは、分かってしまうものです。

と返信したところ、

(前半省略)

「目の前の女性をちゃんと見る」
というくせをつけます。

ナースとやりたい、
若い子とやりたいとか、
外見がいい女性とやりたいとか
確かにおなじですよ。

逆の視点で言えば、

女性が

「お金を持っている男性を落としたい！」

も同じ意味になる気がします。

その人の人格を見ているのではなく、
「ナース」とか「外見がいい」
カテゴリーに対して興味がある。

人格無視をしてるという感じですかね。

(以下略)

という返事を頂きました。

..

この男性なんかは、

会話の技術（テクニック）が

空回りというか、

上滑りして、

薄っぺらくなってしまっていた

典型だと思うのですが、

なぜ、この男性が、

>話を聞いて、共感して、内容を突っ込み、
>内面を褒め、いじったり、プライドを
>くすぐったりもする。

と、なんだか有効そうな
技術をあれこれと使ってみても、

女性からの反応がいまいち
良くなかったのかっていうと、

この男性が、

「サバサバ系を落としてみたい」

という、女性に貼り付けた
『属性』というか『レッテル』
のようなものを見ていて、

目の前の女性、その個人を
見ていなかったからです。

そうして、これはホントに
多いです。

たぶん男ってというのは、

そういう生き物なんですよ。

原始時代からの本能ってやつですね。

人間がウハウホ言っていた
原始時代から、

戦国時代とか、

力や武力がモノを言った時代、

『女』って戦利品でしたよね？

『モノ』だったんです。

村や国を略奪して、

食料と一緒に奪う『モノ』

その本能を引きずったまま

女性を見ているから、

『女子高生』とか『巨乳』とか
『ナース』とか『モデル』とか、

それは、『サバサバ系』みたいな
レッテルも本質的には同じなんです
けれども、

やっぱり、男はいまだに、
この本能を引きずっています。

というか、本能ですので、
ぶっちゃけもう、どうにも
ならない、

というのも正直な意見では
あるのですが。

一方で、日本ってのは
それなりに成熟した
文明社会ですから、

本能の逆を実行したやつから
大きな成果を手に入れます。

• 本能の逆

これキーワードですよ。

分かりやすい例で言うと、

ダイエットとかそうですよね？

食事制限をするとか、
完全に本能に逆らってます。

そういうのと同じで、

恋愛ってのも、ほぼ全般的にですね、

• 本能の逆

をやったヤツが勝ちます。

純粹に本能にしたがったならば、

動物のように、

ムラムラしている時に
メスと出あったら、

その場で、いきなり
求愛行動に出ること
なるかと思いますが、

これ、不正解ですよ。

僕たちは文明人なんで。

ちゃんと手順を踏みます。

出会って、少し話して、
まずは1回お茶してみて。

とか。

で、そこで男は、様々な
『工夫』をします。

その『工夫』が、本能の逆を行く
ってことだし、

そういう『工夫』を

『理論』とか
『方法論』とか『技術』っていいです。

これ、ちゃんと本能の逆を
行ってますよね？

『理論』も『方法論』も『技術』も

本能の対極にある考え方ですので。

そういう意味で、

- 本能の逆

を行ってください。

で、それを今回の話に
当てはめるのであれば、

本能の逆を行くとはつまり、

女性を『モノ』として扱わない

『属性』とか『外見』で扱わない

とことん、目の前の個人を
見つめていく、

という結論になります。

...

さて、こういう話になると、

次のような質問をもらったりします。

「目の前の女性、その人に興味を
持たなければならないことは
分かりました。

でも自分は、どうしても、
女性の人間性に興味が持てません。

自分が好きなのは、女性の『属性』
なんです！！」

と。

たしかに本能ですからね。

この意見は、ある意味いさぎよい（笑）

で、僕は、こういう男性には

次のように説明することに
しています。

例えば、

あなたがボクサーだったとして、

ボクシングの世界チャンピオンと
戦うとします。

その時、実は、

「世界チャンピオン」という

『属性』と戦う

という戦い方は、無いはずですよ。

輪島功一と戦うとか、

具志堅用高と戦うとか、

辰吉丈一郎と戦うとか、

亀田興毅と戦うとか、

そういう事はあっても、

実は、世界チャンピオンとは
戦えません。

世界チャンピオンっていうのは
単なるカテゴリーなので。

それは、どういう事かっていうと、

例えば、

亀田興毅と戦うときに
分析するのは、

過去の亀田興毅の試合です。

同じ世界チャンピオンだから
とって、

輪島功一の過去の戦いの
ビデオを見まくって、

亀田興毅との戦いに
備えるとか、ありえません。

ましてや、

『世界チャンピオンに勝つ方法』

なんていう、マニュアル本を
購入するとか、あり得ませんよね？

亀田興毅に勝つためには、

ひたすら、亀田興毅の情報を集め、
分析するはずです。

目の前の女性を口説くためには、

その女性から、どれだけ
情報を引き出せるのか？

それってつまり、

目の前の女性、個人に注目して、
集めた情報から、

攻略法を考え出すってことですよね？

これが、

女性を『モノ』として扱わない

『属性』とか『外見』で扱わない

とことん、目の前の個人を
見つめていく、

ってことです。

ちょっと話が飛びますが、

アンミカさんという、
モデルさんが、

国際スパイと付き合い
たという、有名なエピソードが
あります。

要するに、どこかの国のスパイが
アンミカさんを利用しようとして、

上手いこと彼女に近づいて、
ある期間、付き合いだしたんですが、

その時、スパイの彼は、

事前にアンミカさんの経歴から
好み、趣味嗜好まで全て
リサーチして、

何を言われたら嬉しいか、

どのように接せられたら
嬉しいかを、

分析しまくってきて、

うまいこと、アンミカさんは、
落とされちゃったそうです。

それがまた、中年で小太りの、
まったく顔に特徴の無い
冴えないオッサンだったんだとか。

スパイってのは、仕事で
女性を口説いてますので、

本当にその女性の人間性や
人格に対して、

それほど興味があるのか？

っていうと、かなり疑問なのですが、

でも、それはそれとして、

少なくとも、

美女を落としたいだとか、

モデルを落としたいだとか、

そういう『属性』を落としたい
なんていう、

そんなズレた感性のスパイが
相手であれば、

アンミカさんは騙されなかった
はずだし、

逆に、

『属性』でしか人間を分析しようと
しないスパイって、

すっげー無能な感じしません？（笑）

攻略したい個人を、

とことん分析するはずです。

ともあれ、

やっぱり真剣に女性を口説こうと
考えを突き詰めていくと、

最後は、どう考えたって、

あなたが、目の前の女性の
人間性に対して、

興味があろうが、無かろうが、

やるべきことは、

女性を『モノ』として扱わない

『属性』とか『外見』で扱わない

**とことん、目の前の個人を
見つめていく、**

以外にありえない、

っていう結論になります。

で、実際にこれが出来ている
男性と、

出来ていない男性だと、

どのような差が生まれるのか？

っていうと、

例えば、

「美人はその外見について
褒められ慣れているのだから、

逆に、

『〇〇ちゃんってさ、可愛い顔してるよね
トドの赤ちゃんみたい』

って、軽くけなしてイジってみましょう」

的な恋愛ノウハウがあったとします。

で、このノウハウには、

>美人はその外見について
>褒められ慣れているのだから、

っていう前提があるわけですが
けれども、

で、僕に言わせると、

そうなのかもしれないし、
そうじゃないのかもしれない
のだけれども、

いずれにせよ、この主張の
根拠って、

美人は～

っていう『属性』じゃないですか。

でも、実際に美人の、
目の前のその女性と
会話してみると、

実はすごい自分の外見に
コンプレックスがあって、

エステとか髪型とかメイクとかに

膨大なお金と時間をかけていて、

本当はプチ整形した過去を
隠している…

とかだったとして、

さて、あなたは、

この美人に対して、

『〇〇ちゃんってさ、可愛い顔してるよね
トドの赤ちゃんみたい』

って言うことが、

本当に正解だと思いますか？

っていう。

他にも、

これも実例なんですけれども、

ある相談者さんが、

20代のシングルマザーを
好きになって、

付き合うことになりました。

で、その後に、

「やっぱり女は、

付き合ったら、少し冷たくして
追いかけてさせないとダメですか？」

って僕に聞いてきて、

たぶん彼は、

「女と付き合ったら、
少し冷たくして追いかけてさせること」

って書いてある恋愛マニュアルを
読んで、その影響で、

こういう質問を僕にしてきた
と思うんですけれども、

これも、前提が

女は～

なんですよ。

個人ではなく、属性。

で、その相手の女性について
よくよく聞いてみると、

前の男に裏切られて、
ずいぶん心がガタガタに
乱れた苦い経験があって、

でも、今はシングルマザーとして
自分の子どもが最優先事項で、

男に依存して、裏切られて、
自分の気持ちが乱れることを
一番恐れている、

なによりも、子どものために。
安定した、ちゃんとした母親で
あり続けることが、

今の人生の最優先事項。

ということが分かってきました。

ということですよ、

ここで、彼女を追いかけさせよう
として、

彼女の心を不安定にさせるような
行動を取ってしまうと、

どう考えたってマイナスです。

そんなことをしたら、

「あ。やばい。そっち系の男だ」

と考えた彼女は、

この男性と距離を置くでしょう。

何よりも、子どものために。

...

さて、この女性を口説くために、

追いかけさせようと冷たくする
ことは、本当に正解ですか？

って話です。

こういう例は

挙げだせばキリが無いのですが、

恋愛コンサルをしていると、

例えば、呼び捨てとかもよくありますね。

「女はなるべく早い段階で
下の名前で呼び捨てにしろ

その方が親密感が増す」

っていう恋愛ノウハウが
あるらしくて、

よく、

「女性はなるべく早い段階で
下の名前で呼び捨てに
した方がいいんですか？」

って聞かれるんですけども、

僕の答えは、

「人によります」

なんですね（笑）

普通に、

「いきなり下の名前で呼び捨て
にされるとカチンと来る。

っていうか、ひく」

っていう女性は沢山います。

中には、たとえ相手が彼氏
であっても、

呼び捨ては嫌。ちゃん付けが良い。

とか。

で、こういう話をすると、

「じゃあ、どうやって判断すれば
いいんですか？」

って聞かれるんですが、

普通に聞けばいいです。

「友達からは何て呼ばれるの？」

でも、

「呼び捨てとちゃん付けどっちがいい？」

でも、

「前の彼氏からは何て呼ばれてたの？」

でも、なんでもいいんです
けれども、

とにかく、本人に聞けばいいんです。

マニュアルを調べるとか、

コンサルタントに聞くとかじゃなくて、

目の前の女性本人に、直接、聞く。

恋愛マニュアルに頼りすぎたり、

女はどうだとか、

美女はどうだとか、

そういう『属性』とか『レッテル』とか
『カテゴリー』みたいなのに意識が
いってしまう男性って、

だいたいみなさん、

「女性に対して質問をする」

「分からないことは、ちゃんと聞く」

という文化がありません。

実際多いんですよ。

恋愛相談とか受けてると、

「え？ それをオレに聞くの？」

っていう質問が。

「女の子が〇〇というセリフを言いました。

女の子が〇〇というリアクションをしました。

それは、どういう意味なんですか？」

って。

いやいやいや。

僕は超能力者じゃありませんから（笑）

分からなかったら、
女の子に聞けばいいんです。

それがコミュニケーション
というものです。

それを、分かったフリして、

陰でマニュアルなんかを
調べて、

「なるほど、女はこういうものか」

なんて納得しているから、

おかしい事になるんです。

「でも相沢さん。

そういうのを聞かなくても
分かってしまうのが、

恋愛の上級者なんじゃあ
ないですか？」

って言われると…

う～ん。。。

正直なところ、
それはあると思います。

数をこなしていると、

「ああ。このパターンね」

みたいなのが、経験的に
身についてしまって、

ほんの少しの言動で、

分かってしまうことは、
確かにあります。

が、

僕は、こういうのは

ある種の『油断』だと
思うんですよ。

よくない種類の慣れだし、

こういう慣れ方をすると、
だいたい、スランプに落ちます。

女性というのは、

100人いたら、100人分の、

1000人いたら、1000人ぶんの

違いがあって、

毎回初めて、

いつも、まっさらな気持ちで、

目の前の個人に向き合おうという

『前提』でないと、

過去の経験をもとに、

うっかり分かった気になる
ってのは、

やっぱり、『油断』だし、

経験を積みば積むほど、

自分を戒めなければ
ならないと思ってます。

...

少し話が広がりすぎましたが、

とにかく、

会話において一番大切なことは、

目の前の『その人』を、
「もっと知りたい」という気持ち

です。

[もくじに戻る](#)

9、理解とは勘違いである

会話において一番大切なことは、

目の前の『その人』を、
「もっと知りたい」という気持ち

で、

『属性』とか『カテゴリー』
ではなくて、

目の前の女性、その人を
しっかりと『観察』しましょうね、

というのが、ここまでのお話でした。

とことん、目の前の女性、

その人間性を『観察』する。

女性を『モノ』として扱わない

『属性』とか『外見』で扱わない

とことん、目の前の個人を

見つめていく、

ナースでもなく、

女子高生でもない、

モデルでもなく、

ナンバーワンでもなく、

ただの外見でもない、

目の前の、その個人に対して
ちゃんと意識がいつているかどうか？

キーワードは、

- ・観察

です。

ところで、『観察』って
どうやればよいのでしょうか？

僕は今まで、

この部分について、
ちゃんと解説してあるものを

見たことがありません。

会話術の一番の根っこであり、

最重要キーワードであるにもか
かわらず。

美人であるとか、

モデルであるとか、

そういう、属性ではなくて

ちゃんと目の前の個人を
観察しましょうね、

ここまでは、特に問題なく
受け入れられるんじゃないかな

って思ってます。

「そうですよね。

やっぱり『観察』ですよね！！」

って。

で、じゃあ、『観察』って何だろうか？

具体的にどうやればいいのか？

っていうと、

案外、誰も説明できません。

なので僕が書きます。

まず、女性を『観察』する
ということは、

地球の上から、

宇宙にある月を『観察』することと
同じだと思ってください。

あなたなら、

どうやって月を『観察』しますか？

夜になったら、月を眺めて

「わ～キレイ～！」

それも良いのですが、

たぶんそれだと、

「キレイだな～」

くらいの情報しか得られません。

じゃあ、どうするのか？

っていうと、

道具を使います。

- 望遠鏡

です。

望遠鏡を使って、月を『観察』
してみると、

肉眼では、

丸くてキレイな光のカタマリ

くらいにしか見えなかったものが、

クレーターがあって、
実はけっこう、デコボコしている
ことが見えてきます。

もっと性能の良い望遠鏡を
使えば、

月には、実は山とか谷まで
あることに気が付きます。

もっともっと性能の良い
望遠鏡を使えば、

水が無いこととか、

岩石や砂まで見えるかもしれません。

...

結局のところ、

**『観察力』というのは
道具の性能に大きく左右されます。**

より高性能な望遠鏡を
持っている人ほど、

より具体的に、細かな部分まで
見えてしまいます。

月を『観察』するための道具が
望遠鏡である。

じゃあ、女性を『観察』するための
道具とは…？

...

...

...

なんだと思います？

...

...

...

...

...

答えは、

・共感

です。

『共感』とは、

女性を観察するための

手段であり、道具です。

そうして、

『観察力』 = 『共感力』

です。

わりとみなさん、

無目的に、ただ漠然と、

『共感』というものを
考えていますが、

今日からハッキリと、

その意識を変えてください。

**『共感』とは、女性を『観察』
するための道具です!!!**

なので、

ついつい、何も言われなくても
分かった気になってしまいがちな、

・共感

というものについて、
ここでしっかりと、
理解を深めてもらいます。

たぶん世の中の、99.9%くらいの男性は、
全然分かっていません。
まったくダメです。

ひどい場合は、

「うん。うん。分かる、分かる」

って相づちのタイミングを合わせれば
それで『共感』は出来ていると
勘違いしている人もいますし、

マシな場合でも、

「分かるよ～。じ～ん……」

って同情すれば、それが『共感』の
全てだと思っている程度です。

また、『共感』の能力を上げていくことが

そのまま、『観察』の精度を上げていくこと

と直結しますので、

『共感』については、

徹底的に解説します。

まず最初に、

『共感』というものを一言で
表すならば、

・他人の中に自分を見つけること

です。

だからあなたは、女性の中に
自分を探さなければなりません。

これをどうやれば良いのか
っていうと、

1、自分の感情を客観的に保った、

そのうえで、

2、相手の主観的な世界・感情を理解すること

です。

つまり、過度に同情をしてはいけないし、

過度に相手と自分を同一視しすぎてもいけない、

というルールを守ったうえで、

その時々、相手の『主観』を理解しようとする事。

です。

なぜこれが、『共感』なのかっていうとですね、

そもそもなんですが、

人間は、自分の中に無いものは
理解できません。

例えば、脳みその一部が変形
しているとかで、

生まれつき、「悲しい」という感情を
持っていない人間がいたとします。

そうすると、

おそらく彼には、

どうやったって、

他人の「悲しい」という感情は
理解できないわけです。

基本的に、人間というのは、

「想像力」でもって、

自分を相手の立場に
置き換えることでしか、

相手の感情を理解できません。

例えば、あなたの目の前に、
母親を亡くして、

「悲しみ」に暮れている人間が
いたとします。

そうしたら、

あなたは、どのようにして
その「悲しい」という気持ちを
理解するのかっていうと、

超能力とかで、

直接に、目の前の人間の気持ちを
感じ取るのではなくて、

想像力でもって、

自分に置き換えているんです。

「もしも自分の母親が、
死んでしまったら…」

って。

で、自分の母親が死んだところを
想像して、

「ああ。悲しいな…」

今、目の前の人には、
これと同じような感情なんだな」

って、「想像」するんです。

だから、あなたがもしも、

生まれつき、「悲しい」という
感情を持たない人間で、

自分の母親が死んだところを
想像しても、何も感じないように
出来ていると、

あなたには、どうやったって、

目の前の人間の「悲しい」
という感情を理解することが
できないわけです。

ここまで、オッケーですね？

人間は、自分の中にある
「材料」を使って、

自分を相手の立場に置き換える
という「想像」をすることでしか、

相手の感情を理解することが
できない。

...

すると次に、こんな疑問が生まれます。

「悲しい」という感情は
確かに持っている。

でも、例えばですね、

同じ「母親が死ぬ」という体験を
したA君とB君がいたとして。

A君は、生まれたときから
母親にひどい虐待を受けて
育ってきた。

何度も殴られ、けられて、

「オレが大人になったら、
いつかこいつを殺してやる！」

そんなふうにして育ってきた。

一方のB君は、

生まれた時から、お母さんっ子で、

大切に大切に育てられ、

母親に対して、深い感謝と
愛情を持っていたとする。

さて、この2人は、

『共感』という、つまり、

自分の中にある「材料」を使って、

自分を相手の立場に置き換える
という「想像」をすることによって、

お互いの感情を理解することが

出来るのでしょうか？

難しい問題ですよ

…

…

虐待の場合や、

お母さんっ子

を例に挙げましたが、

じゃあ、母子家庭だったらどうか？

養子縁組だったらどうか？

いや、そもそも虐待だって、

虐待されたまま、
家を飛び出して逃げた子と、

その後色々あって、

虐待していた母親を
既に許している子とでは、

本当に、

自分の中にある「材料」を使って、

自分を相手の立場に置き換える
という「想像」をすることによって、

相手の感情を理解することが
出来るのでしょうか？

自分を相手の立場に
置き換えるという、

「想像力」によって、

同じ感情を体験することは
どこまで可能なのか？

...

これは、『共感』を理解するうえで、
とても大切な矛盾です。

人間は、自分を相手の立場に
置き換えるという「想像力」
によってしか、

相手の感情・主観的な世界を
理解する手立てが無い。

にもかかわらず、

同じ人間は一人もないわけだから、

どんなに「想像力」を鍛えて
みたところで、

おそらく、100%一致するような

完全な形で、

相手を理解することは不可能である。

..

これが、『共感』なんです。

不可能だけれども、

他に手は無いつていう（笑）

だからですね、

最初に

>つまり、過度に同情をしてはいけないし
>過度に相手と自分を同一視しすぎてもいけない、

>というルールを守ったうえで、

>その時々、相手の『主観』を理解しようとする事。

って言ったんですけども、

100%理解することは、

おそらく不可能という、

謙虚さをしっかりと
自分に言い聞かせたうえでですね、

やっぱり、

他に手は無いから、

・理解しようと頑張るしかない。

このスタンスが重要なわけです。

そうすると、

次の2つの事が言えます。

1つめ。類推する

完全に理解することは不可能
なのですが、

「近い感情」とか「近い主観」

を探していくことは出来ます。

例えば、

学生時代にテニス部をやっていた
女性が、

その時の、メチャクチャ厳しかったり
苦しかったりしたときの思い出話を
したとして、

あなたは、必ずしも、テニス部で
なければ『共感』できないのか？

っていうと、そうではないですよ。

あなたが野球部とかで、

やっぱりスゲー厳しかったとしたら、

その時の体験から、類推して
彼女の気持ちを『共感』できます。

部活をやってなくても、

何か、

- 体育会系のメチャクチャ厳しい集団

に所属した経験があるならば、

それは、ブラックなアルバイトでもいいし、

社会人経験だって良いわけです。

他にも例えば、

ペットの話とかで、犬を飼っていた
女性に『共感』するのに、

絶対に犬でないといけないか？

っていうと、

- 大切なペットに対する気持ち

という意味で言えば、

猫でも、ウサギでも、類推はできます。

その他にも、「価値観」みたいな
枠組みで見ると、

「お店で出された料理は残さず食べるのが

マナーだと思う」

「お店で出された料理は、自分がお金を払って
注文しているんだから、残しても良い」

だとか、

「歩くのが嫌いだから、ワンメーターの
距離でもタクシーを使う」

「タクシーをワンメーターの距離で使うなんて
もったいない」

だとか、

「占いやスピリチュアルって新しい自分が
発見できるから好き」

「占いやスピリチュアルなんて、非科学的で
信じる人間はバカだと思う」

だとか、こういう、

「私はこう思う」

「私はこれが好き」

みたいな、価値観や好みの問題
なんかだと、

必ずしも同じ経験をしていなくても、

- ・自分と違う価値観を受け入れる

という冷静さと、少しばかりの
思考力があれば、

『共感』はできます。

「そっか。そういう考え方もあるんだな」

って。

「お店で出された料理は残さず食べるのが
マナーだと思う」

であれば、

「そっか。残さずに食べるのは、
作ってくれた人への感謝という意味があるんだ。」

この子は、そういう考え方をするんだ」

とか。

「お店で出された料理は、自分がお金を払って注文しているんだから、残しても良い」

なら、

「なるほど。たしかに、無理してお腹いっぱい食べてもかえって健康に悪いし、最後の方はせっかくの料理をマズく感じてしまう。それじゃあ本末転倒だよな」

とか。

「歩くのが嫌いだから、ワンメーターの距離でもタクシーを使う」

なら、

「そういえば、この子はかなりヒールの高いクツをはいているぞ。このクツでワンメーターぶんの距離を歩くのって実はかなりシンドイかも」

とか。

「タクシーをワンメーターの距離で使うなんてもったいない」

なら、

「節約家なんだな。こういう感性の子なら、
付き合っても浪費しなそうで安心だ」

とか。

「占いやスピリチュアルって新しい自分が
発見できるから好き」

なら、

「そっか。占いやスピリチュアルは、ただ
思考停止して信じるとかじゃなくて、

そういう、余裕を持った楽しみ方もあるんだ」

とか。

「占いやスピリチュアルなんて、非科学的で
信じる人間はバカだと思う」

なら、

「合理的な考え方が出来る子なんだな。

なら、しっかりと理論的に話せば

色々と分かってくれそうだな」

とか。

こういう価値観の問題的なやつは、

100%どちらかが正しいみたいな
ことはありませんので、

頭を柔らかくして、
しっかりと想像力を働かせれば、

どちらの立場からでも
『共感』できます。

それは、同じステージで
女性の話を聞くのではなく、

あくまでも、観察ですので、

一步距離を置きます。

例えば女性が、

「男ってみんなバカだよな」

って言ったとします。

そういう時に、

「いやいや。バカな男もいれば
そうでない男もいるでしょう」

とか

「女だってバカばかりだろ」

とか、

「オレは男だぞ？
ケンカ売ってんのか??」

とか、

そういうふうには考えずに、

「この女性が、『男はバカ』と
感じたのはどうしてだろうか？」

と考えるんです。

そうしたら、

「どうしたの？
何かあったの？」

とか、

「どんなバカがいたの？（笑）」

って聞けますよね。

この質問ができれば、

この女性の体験だとか考え方だとか
価値観だとか、ぐっと分かって
くるじゃないですか。

女性が、
「わたしはこう思う。こう感じる」

と言ったときに、同じステージで

「自分はこう思う。こう感じる」

というのではなくて、

特に、その女性の考え方や感じ方が
自分とは違った場合、

そこで反発しあったり、
心の中で密かに、目の前の女性に
対して否定的な感情を持つのではなく、

一歩、突き放した視点から、

この女性は、なぜ、そのように
感じたのだろうか。考えたのだろうか。
考えるようになったのだろうか？

そこには、どのような体験があって、
どのような育ちがあって、
どのような価値観があるのだろうか？

と、あくまでも分析的に聞き、
質問を重ねてゆくと良いです。

さらに。

このスタイルを突き詰めていくと、

女性を口説けば口説くほど、
あなたの趣味は幅広くなります。

なぜかっていうと、

女性が「好きだ」といった
映画でも小説でも漫画でも音楽でも、

を、積極的に見たり、聞いたり
するようになるからです。

なぜこの女性は、この物語が
好きなんだろうか？

この女性はこの音楽のどこに
魅力を感じているんだろうか？

女性が、
「わたしはこう思う。こう感じる」

と言ったときに、同じステージで

「自分はこう思う。こう感じる」

というのではなくて、

つまり、物語や音楽そのものを
あなたがどう感じるか？

という視点ではなくて、

いま口説いている、この女性は
この物語や音楽の、どこに感動する
んだろうか？

また、それほど理屈っぽい
話ではくとも、

・体験の差

というのは非常に大切に、

それはなにも、映画や音楽でなくとも、

旅行でも、スキーやスノボでも
ヨガでも、買い物でも、

なんでも同じなのですが、

自分で体験してみるとより、

その女性の「好き。嫌い」の
感覚に近いモノが理解できます。

「ああ。こういうことね」

って、あなたの『共感』の精度が上がります。

例えば、いま口説いている女性が
ヨガが好きだとして、

そしたら、まずやってみれば
いいんですよ。ヨガを。

ヨガをやってみたあなたは、

その体験を

面白いと感じるかもしれないし、
つまらないと感じるかもしれない。

どちらでもいいんです。

面白いと感じたならば、
どう面白かったのか、

やっている最中の気分とか、

やった後の調子とかを共有しあえば良いし、

かりにつまらなかったとしても、

自分の疑問点を素直にぶつけて
みればよいんです。

それは、いわゆる『良い質問』
となって女性に響きます。

『良い質問』っていうのは、
体験していないとできないんですよ。

やってみないと気が付けない
具体的な部分ですので。

で、そうやって真剣に質問
していると、けっこう哲学的であったり

思いもよらない深さがあったりして、

面白いものです。

昔、僕がお世話になっていた
ある出版社の社長さんがいて、

彼からよく、

「誰かが面白いって言っているならば、
そこには必ず『面白さ』があるものだ。

自分の好き嫌いにこだわらずに、

誰かが言った『面白い』を理解しなさい」

って言われてて、

実はこの考えたかが、そのまま

女の子を口説くときの僕のスタンスに
なっていたりします。

あなたがどう感じるかなんて
どうでもイイんです。

目の前の女の子が、どう感じるのか？

これを、「想像」して、理解しようと
全力を尽くすこと。

全ては女の子が中心です。

話のついでですので、

思い出話をもう1つ。

学生時代、僕は女装をしたことがあります。

これ、すごい女性の気持ち分かるんですよ。

なんか、自分が変わっていくドキドキ感。

僕が言うちょっと変態っぽくて
恐縮なのですが、

「キレイになりたい！」

っていう欲求がくすぐられます。

メイクもそうで、知れば知るほど、

「キレイになりたい自分」

を発見してしまったり、
一方で、

「キレイになれない自分」

つまりこれ、生まれつきの問題ですね。

どんなにやっても、元が元なんで、
限界があって。

で、その時、僕以外にも女装した
男が何人かいたんですけれども、

やっぱ、気になってしまう。

比べてしまう（笑）

女目線ですね、

来ているものとか、メイクとか
アクセサリーが、

他人のそれが気になるんです。

おかげで、女性がどこを褒められ
たがっているか、

けっこう分かるようになりました。

あと、ヒールをはいてみたのも
衝撃でした。

あれ、めちゃくちゃ歩きづらいんです。

あんなんでも100メートルも

歩いてられるかっ!?

っていう。

それからは、なぜ高いヒールをはいた女性を歩かせてはいけないかってのがよ〜く分かって、

なるべくタクシーを拾ったりだとか、

歩くコースだとか、かなり気を使うようになりました。

やれる人は、ぜひやってみてください。

ここまでやれなくてもですね、

最低限、

女性の趣味とかを、チラっと体験してみるなんて超簡単じゃないですか。

そうやって、目の前の女性を理解することに、

1人1人に対して真剣に当たっているうちに、

自然と、知識や体験の引き出しが増え、

あなたの、共感力がみがかれるんです。

「自分は会話が苦手です」

という男性ほど、これが出来ません。

せまい自分の世界に引きこもって、

結局最後は、

「自分がどう思うか。自分がどう感じるか」

ばかりに閉じこもってしまい、

女性が好きだと言った、嫌いだと言った、

その「何か」を理解しよう、体感しよう、

という意図がありません。

僕はよく、

「あなたが口説いている、目の前の女性に
ちゃんと興味を持ちましょうね」

って繰り返しているのですが、

それは、こういうことです。

- 目の前の女性に興味を持つ、

というのは、

その女性の「好き、嫌い」に
興味を持つということだし、

その「好き、嫌い」をどうやって
理解するか、感じるか、

つまり、どうやって『共感』するのか、
を追及してゆく作業なんです。

とはいえ、

最初にお伝えしました通り、

相手の主観的な世界・感情を
『共感』するには、

自分の中の「材料」でもって
何とかするしかないわけですから、

その場、その場で、

自分が持っている「材料」

それはつまり、

『感情体験』の元となるなにか、

なのですが、

そういうものを、

自分の引き出しの中から
探し出してくるしかないんです。

なので、最後は、

- ・ 人生経験が豊かな人間

が一番強いです。

楽しいという体験も

悲しいという体験も、

なんでもかんでも、材料が
多ければ多いほど

深ければ深いほど、

豊かであればあるほど、

より、相手の感情に近い
『共感』を

自分の引き出しの中から
探し出してこれますし、

様々な価値観を味わって、

どちらとも決めきれない、

人生の複雑さや割り切れなさを
知っている方が、

より、相手の世界観に近い
『共感』を

自分の引き出しの中から
探し出してこれます。

だから、より幅広い女性を
理解できます。

なので、引きこもってでは
ダメだし、

同じことだけを繰り返して
いてはダメだし、

家と会社を往復しているだけの
毎日だとダメだし、

好き嫌いが多くてもダメです。

失敗を恐れて動かないとか最低です。

動かなければ、感情の元となる
体験を集められませんから。

逆に、たくさん失敗したり
悲しい思いや辛い思いを
した方が、

自分の中に、「材料」が
たまっていくので、

『共感力』が高まります。

それはつまり、女性のことを
理解しやすくなる、

ということです。

そして、2つめ。

1つめとは真逆の事を言いますが、

・分からない事は分からないと認める

も重要です。

なんとか理解しようと、

一生懸命に、自分の中の「材料」
から、

相手の体験との共通点らしき
ものを探して、

相手の価値観で、自分にも理解
納得できそうなものを探して、

『共感』するという努力は
必要なのですが、

一方で、例えば、

「子どもを死産で失ったことがある」

っていう女性がいたとして、

「うん。うん。その気持ち分かるよ～」

とは、言えないと思うんですよ。

基本的に、女性側も、

全部を理解してもらおうなんて
思ってません。

「ただ話してみたかっただけ」

って事だってあります。

以前、

僕は「女性の気持ちに共感すること」
が苦手です。

なるべく女性の気持ちに立ち、
女性の気持ちを代弁してあげる、
というのを心がけていますが、
なかなか上手くできません。

女性「~~~~てことがあったの。」

自分「わかるわかる、△△、って思っちゃうよね」

女性「いや、そういうことじゃなくて・・・」

という事がよくあります。

という相談を受けた事があります。

そこで、

ふと思ったんですけども、
よく分かっていないのに、
とりあえず「そうだよね～」とか
言っちゃうクセ、ありますか？

僕の場合、

分からないときは、ちゃんと質問します。

絶対に、分かったフリとか、
分かったふうな返答はしません。

そういうの、見抜かれますから。

相手の話の意図が分からない、というのは
全然はずかしいことじゃあないです。

分からないなりに、
もっとちゃんと理解しようと、

真面目に質問を重ねた方が、
態度としては誠実ですし、
好感も共感も得られます。

と回答したところ、

分かったフリ、確かによくしてます！

心のどこかで、1を聞いて10を知る、
という人間がモテると考えていたところが
あったからかもしれません。

相沢さんの言う通り、わからないことは聞く、
という姿勢をもっと取り入れようと思います。

という答えが返ってきて

その後、この男性は

「分かったフリはしない」

というふうに、意識を切り替えただけで

その女性と付き合うことになりました、

という報告をくれました。

...

2つめの矛盾が出てきましたので、

頭が混乱しないように、

1度整理しましょう。

『共感』に関する1つめの矛盾

人間は、自分を相手の立場に

置き換えるという「想像力」
によってしか、

相手の感情・主観的な世界を
理解する手立てが無い。

にもかかわらず、

同じ人間は一人もいないわけだから、

どんなに「想像力」を鍛えて
みたところで、

おそらく、100%一致するような

完全な形で、

相手を理解することは不可能である。

2つめの矛盾

自分の中の「材料」を増やし続ける
ことでしか、

『共感力』というのは上げることが

できない。

一方で、世界中の全ての出来事を

1人の人間が体験しつくすことは
不可能なので、

誰かに対して、100%の

『共感』を実行することは出来ない。

...

これが『共感』です。

僕たち人間は不完全ですから、

『共感』という道具も不完全です。

でも、女性を観察する道具は
これしかありませんので、

最大限、謙虚に、誠実に、全力で、

一人ひとりと向き合うしか無いんです。

で、こうやって、

女性の様々な過去についてですね、

なるべく謙虚に、誠実に、

自分を相手の立場に置き換えながら、

あなたが可能な範囲での、

・部分的な『共感』

を積み重ねていくと、

「ああ、この女性はこういう体験をしていて、

そうしたら、こんな感情になって、

そういう体験と感情が積み重なって、

今、こういう世界観を持っているんだな」

っていうふうにして、

目の前の女性を『理解』
していくわけです。

ここまでの流れ、オッケーですね？

『共感』という道具を使って、
女性を『観察』することによって、
目の前の女性、その人を、
『属性』とか『カテゴリー』ではない、
その人、個人を、
『理解』してゆく。

これを繰り返してゆくと、
大きな副産物が得られます。

人間には、根源的にかかえる
承認欲求があるので、

・理解されたい

という本能があって、

こちらが適切に『共感』を
積み重ねると、

その「理解されたい」本能が、

その欲望に従って、

イイ感じに勘違いが起こります。

それはつまり、

「あっ、この人とは本当に感情が
通い合っている。

私が悲しいときは、この人も悲しんでくれる

私が嬉しいときは、この人も喜んでくれる

人間としての強いつながりを感じられる

自分たちは深い所では、似た者同士かもしれない。

本当の私を理解してくれるのは
きっとこの人なんだ」

と。

こうして『共感』は
次のステージへと進みます。

補足：共感が苦手ですか？

最初に僕は、

「そもそも共感とは何か？」

に対して

「他人の中に自分を見つけること」

だと言いましたが、これは

- ・他人の感情を体験すること

とも言い換えられます。

例えば、映画を見ているうちに、

登場人物に共感して、
泣いてしまったりしますよね？

登場人物A＝主人公

登場人物B＝主人公の親友

いくつもの問題を、
沢山の喜びと苦しみを共有しながら、
一緒に乗り越えてきた2人。

ところがある日、登場人物Bは
病気に倒れ、

登場人物Aの尽力もむなしく、
ついに、Bは亡くなってしまふ…

絶望にうちひしがれるA

この映画を見たあなたは、
Aに『共感』して泣いてしまった…

…

冷静に考えてみるとこれ、
不思議じゃないですか？

あなたはAではないし、
Bとは直接会ったこともない。
Bと一緒に、沢山の喜びと悲しみを
共有したのは、あくまでもAであって、

あなたではない。

というか、そもそもこれ、映画なんで。

そういう脚本ですから（笑）

っていう。。

それでも、あなたは、

Aという人物の感情を体験した。

だから、泣いてしまったわけです。

これが『共感』です。

こうやって、自分ではない誰か、

恋愛であれば、目の前の女性を

『体験』することによって、

女性を『観察』し、女性を『理解』します。

ところで、

この『共感』が得意な人と、
苦手な人がいます。

おおざっぱに言って、

**女性と比べると男性は、
苦手な人が多いです。**

この理由は、

男性の方が、働きアリとして
縦社会での命令系統に慣れて
しまっている、

というのがあと僕は思ってます。

**男性の方が、判断の基準を
「ロジック」に求めて、**

**女性の方が、判断の基準を
「好き、嫌い」に求める傾向があります。**

だから女性の方が

『共感力』が高い人が多いです。

ちょっと難しい言い方をして
しましたが、

女性に比べると、

男性の方が、

「好きか嫌いか」

よりも

「正しいか正しくないか」

という基準に縛られる傾向があります。

たぶん、子どもの頃とかは
普通に

「好きか嫌いか」

っていう感情で生きていた人も、

社会とか組織、それも『縦』の
感覚が強い場所、

上司の命令だから従う、

お客さんが言うことは絶対

的なやつ、

その空気にどっぷりとつかって
適応してしまっているぶん、

——男は働きアリなので、
女性よりもそういうのに
適応しやすいんだと思いますが——

よく組織社会に適応している男性ほど、
場合によっては、社会的に優秀な男性ほど、

自分の感情、

本来であれば、

**行動基準の底にあるはずの
「好き、嫌い」が、**

**自分でも、よく分からなくなっている
傾向をみかけます。**

こういう男性は、例えば
恋愛相談してきても、

「A子はこうです。

B子はこうです。

僕はどちらを口説けばいいでしょうか？」

とか、

「C子から告白されました。
自分はどうすればいいでしょうか？」

みたいな、

「そもそもあなたは、どうしたいんですか？」

という部分をすっ飛ばして、

「どうするのが正解でしょうか？」

みたいな質問をしてきたりします。

他にも、

「結婚したほうが良いんでしょうか？
独身を貫いたほうが良いんでしょうか？」

「みんなはどうしているんですか？」

みたいな感じとか。

何か、僕に『正解』を聞こうとして
くるんですけども、

よくよく質問を掘り下げていくと、

そこには、その男性が無い

って感じとか。

つまり『好き・嫌い』よりも
『正解』を求めているひと。

自分がどうしたいかよりも、
どうするのが正しいかを重視するひと。

こういう人は、だいたい
『共感』が下手です。

なので、もしもあなたに
心当たりがあるならば、

「自分は何が好きなのか？」

「自分は何が嫌いなのか？」

「自分はどうしたら快樂なのか？」

「自分はどうしたら不快なのか？」

みたいな感性をもっともっと
強く意識してゆくと良いと思います。

[もくじに戻る](#)

10、逆らえない魅力

人間には、根源的にかかえる

承認欲求があるおかげか、

- ・理解されたい

という本能があって、

こちらが適切に『共感』を
積み重ねると、

その「理解されたい」本能が、

その欲望に従って、

イイ感じの勘違いを起こしてくれる。

それはつまり、

「あっ、この人とは本当に感情が
通い合っている。

私が悲しいときは、この人も悲しんでくれる

私が嬉しいときは、この人も喜んでくれる

人間としての強いつながりを感じられる

自分たちは深い所では、似た者同士かもしれない。

本当の私を理解してくれるのは
きっとこの人なんだ」

と。

この段階、つまり、

「この人なら私を理解してくれるに
違いない！！」

という状態の女性は、

自分の感情や価値観について

グイグイと、自分から話をはじめます。

この時、男がやるべきことは

いかにして「優秀な聴き手」

となるか。

ちなみに、

この段階まで来てしまうと、

「うん。うん。分かるよ。分かるよ」

だけでも十分に強力ですし、

いかにして、この段階まで、
女性を気持ちよく
導けるかどうかってのが、

「聞き上手」としての
ファーストステップなのですが、

あなたは、さらにその上を
目指してください。

せっかくこうして、
会話術の勉強をしているのですから、

十分に強力、程度ではダメです。

カルト宗教の、教祖レベルに、
圧倒的な魔力を身につけて
もらわないと。

で、これよりも、さらに上を
目指してもらうために、

聞き手としての5つの
『凶器』を手に入れてもらいます。

人間は、

『共感』をベースにして

この5つを与えてしまうと、

その人の魅力に逆らえなくなります。

人間という動物の性質上、

この条件を全て満たす相手には
誰も逆らえません。

べったりと依存してしまうし、
完全に人生を預けてしまいます。

..

さて、さっそくですが。

聞き手としての、5つを紹介します。

1つめ：自己重要感を与えること

2つめ：理想側であること

3つめ：同じであること

4つめ：衝突者であること

5つめ：鏡であること

それぞれについて、
詳しくお伝えします。

[もくじに戻る](#)

11、もっともシンプルで根源的なもの

まず、

1つめ：自己重要感を与えること

ここを基本にして考えます。

いちばん分かりやすい形をした、
承認欲求のお話です。

自分は立派な人間だと思われたい

自分は素晴らしい人間だと思われたい

自分は優れた人間だと思われたい

自分は重要な人間だと思われたい

自分は価値のある人間だと思われたい

自分は愛される人間だと思われたい

...

要するに、

「褒められない」「注目されたい」

「大切にされたい」「価値を認められたい」

こういうものが根本にあって、

で、これらって、冷静に考えて
みますと、

・他の誰かが必要

なんです。

自己満足だけでは成立しません。

勉強するのも、ジムで体を鍛えるのも、
オシャレをするのも、

必ずそこには、

「誰かに褒めて欲しい。
認めて欲しい」

という願望があります。

もし人類が絶滅して、

最後にたった一人だけ、

世界に残されてしまった
人間がいたとしたらば、

その人は、

テストで100点を取る意味も、

オシャレな洋服を着て、
化粧をする意味も、

仕事で良い成績を出す意味も、

全部、なくなりなります。

SNSで「いいね！」をもらう
ために写真や文章を工夫したり、

リア充をアピールするために
旅先の風景の写真をとったり
することも無くなるでしょうし、

長期的に見たら、

絵を書いたり、小説とか
映画を作ったりみたいな

表現活動も無くなるんじゃないかな、

って思います。

生命活動に必要なぶんを除いた

一切の、努力、

他人から、

「褒められたい」「注目されたい」
「大切にされたい」「価値を認められたい」

という欲求に基づくような、
活動は、全部止めてしまうでしょう。

そのくらいに、

「誰かから認められたい」

という欲求は確かにあって、

生命維持が簡単な

文化的な先進国ほど、

これは強くなります。

で、注意して欲しいのが、

もちろん、

不特定多数の沢山の人々から、

「褒められたい」「注目されたい」

「大切にされたい」「価値を認められたい」

というのもあるのですが、

**この欲望が本当に強く、
深く満たされるのは、**

「この人なら私を理解してくれるに
違いない！！」
という人物からの承認であって、

幼少期で言えば、それは両親で
ある可能性が非常に高いし、

大人になると、

『共感』を一定レベル以上に
感じられる、その人からの承認
が、根源を満たします。

その他大勢ではなく、

『あなた』に認められたい！！

『あなた』から肯定されたい！！

『あなた』が褒めてくれれば、
それだけで良い！！

という感情が、特に、恋愛においては
最も重要です。

なのでこれ、

好きになった女性を目の前
にすると、

無条件に与えまくろうとする
男性がいるんですけれども、

順番が大切で、

1つめ：自己重要感を与えること

が恋愛的に、本当に強い力を
持ち始めるのは、

女性が、男性に対して、

「この人なら私を理解してくれるに
違いない！！」

という感覚を持った後です。

このレベルに達したのであれば、
特に難しいこともなく、

とりあえず思ったままに
褒めておけば大丈夫です。

ところが、逆に、早い段階で与えようと
しすぎてしまうと、

けっこう媚びている感じとか、

薄っぺらい感じとか、

悪い感じのチャラさになりやすいので、

よく覚えておいてください。

...

さて、それじゃあ実際のところ、
どのようにして、これを与えて
いけば良いのでしょうか？

早すぎると、媚びてる感じとか
薄っぺらい感じになる。

じゃあ、いつ、どのようにして
与えるのが良いのか？

って話なんですけど、

これは、

女性の方から明確に、

「今、私は、あなたに対して、

この人なら私を理解してくれるに違いない！！

という感覚を抱きましたよ！！」

って教えてくれる事はありませんし、

女性自身が、必ずしもそれを
自覚できるのかっていうと、

そうでもありませんので、

まあ、ぶっちゃけ、

・勘（カン）

ですね（笑）

どういう相手に対して、

どういう空気になったら、

どの程度まで伝えて良いのか？

慣れてくると、空気で分かるようになります。

ただ、それだとノウハウになって
おりませんので^^；

いくつか、コツを伝えます。

まず1つめ。

**信頼関係が浅いうちは、あまり
ストレートな褒め方はしないほうが良い**

これ、重要です。

「褒める」というのは、実は
上から目線なんです。

なので、あなたが既に、
目の前の女性から依存されていたり、
深く信頼されていたり、
強く尊敬されていたり、

とかでないうちは、あまり
ストレートな表現で褒めないほうが無難です。

意外と、感じ悪くなります。

特に、プライドと自己意識が高い女性ほど、
そういう上から目線の「褒める」を不愉快に
感じます。

じゃあ、どうすれば良いのか？

っていうと、

目の前の女性について、

客観的な評価をするのではなく、

**あなたの、主観的な感じ
をそのまま伝えてください。**

例えば、

「〇〇さんって話がうまいよね」

は、客観的な評価。

これを主観的にすると、

「〇〇さんと話していると、（自分は）すっげー楽しい！」

とか。

「〇〇さんって頭いいよね」

は、客観的な評価だけど、

これを主観にするなら、

「〇〇さんの頭の良さが（自分には）うらやましいです」

とか。

「〇〇さんは癒し系だね」

が客観なら、

「〇〇さんと一緒にいると（自分は）幸せな気分になる」

が主観。

「あ～。なんだろう。今おれ、すっげー楽しいんだけど。
なんだこれ？（笑）」

とか

「こんなに安心して楽しい気持ちになるの久しぶり ^^」

とか、僕はよく使います。

客観的に評価するのではなくて、

今、この瞬間、自分はどう感じているのか？

それをそのまま、言葉にして伝えるんです。

例えば、

あなたから見て、いつも前向きで明るく見える
女性がいたとして、

「〇〇さんは前向きで明るくて良いですね」

って褒めたときに、

この女性が自分のことを

「本当はネガティブだし、根暗なんだけどな…」

って認識してたりすると、

表面上は、

「ありがとう^^」

って振る舞う事もありますが、

心の中では、居心地の悪さを感じたり、

「この人は分かってくれない」

って思ったりすることもあります。

そもそも褒めるというのは、
「あなたが、自分が褒めた通りの
人間であり続けるなら、認めよう。

しかし、そこから外れたら、否定しよう」

というニュアンスがありますし、

「褒めてあげるから頑張れ」というのは、

頑張らせたいだけ、自分が思うように
操作したいだけ、

という無意識の心理が働いている
場合もあります。

繊細な女性は、それらを感じとりますし、

あるいはこちらに、そういった意図が
無かったとしても、

女性側の方が、そのように
受け取ってしまうこともあるんです。

特に、信頼関係がまだ出来上がって
いないときほど。

だから、褒めたことで、

**かえって居心地の悪さを感じられて
しまったり、心の扉が閉まってしまう**

ってことは、あります。

余談ですが、実は僕も、かなり警戒心が強い性格です。

なので、初対面のひとからストレートに褒められると、心を閉じます。

だから、ある種のキャバ嬢とか苦手です^^；

...

どうでもいいですね。はい（笑）

...

でもまあ、やっぱりですね、

初対面とか、お互いが良く知らない状態で、

あんまり自分を褒めてくる人とかって

うさんくさくないですか？

「いや、お前、オレのことよく知らないじゃん。
なに分かったふうな感じで言ってんの？」

とか。

自分のコンプレックスとか、

心の核心に近い部分になればなるほど、

信頼関係の無い相手からの褒め言葉
ってのは、気持ちが悪いものなんです。

なので、

客観的な評価ではなく、

「オレがそう思うんだから、
そのオレの気持ちは誰にも否定できないだろ？」

もちろんお前にだって否定はさせない」

っていうノリで、

「自分の感情・気持ち」

として伝えましょう。

**これだと、初対面くらいの浅い関係性でも
スルリと、相手の自尊心に滑り込めます。**

2つめ。

アイテムを指摘して、一言だけ共感する

これも、相手が否定できないやりかたで、
しかも受け入れざるを得ないんで、
地味なのに強力です。

**信頼関係が薄いうちでも、スッと
相手の心に滑り込めます。**

アイテムっていうのは、

ネイルとか、鞆とか、ストラップとか、
ピアスとか、ネックレスとか、時計とか、
クツとか、髪留めとか、洋服のワンポイントとか。

こういう、間接的なやつ。

アイテムってのは、その人本人じゃないんで、
信頼関係が薄い状態でストレートに褒めても、
わりとすんなりと受け入れられます。

だいたい、大丈夫です。

なので、それに気がついて、一言、
褒めても良いのですが、

さらに上を目指すのであれば、

褒めるよりも、共感するほうが強いです。

「自分も、その色好き」

「自分も、そのデザイン好き」

「自分も、その形が好き」

とかですね。

この応用版として、

「髪切ったんだ」

「メイク変えた？」

「メガネの色変わったね」

みたいなのも、指摘すると良い、

という意見を聞いたことあるかと
と思いますが、

これは、ちょっと注意が必要です。

少しだけ重たいんで。

友人同士くらいの信頼関係が必要です。

あと、指摘だけにとどめたほうが
安全です。

重たい部分なので、指摘だけでも
十分に原初的な承認欲求を満たします。

そうそう。

ついでに。

こっちは重たくない方の指摘ですが、

ちゃんと女性を観察して、

指にケガしてたりとか、

どこかに絆創膏をしてたりとか、

そういうのは、ちゃんと指摘してください。

他には、

「字が綺麗なんですね」

「いつも遅くまでありがとうございます」

「いつも助かっています。」

みたいなのも、重たくないんで、
指摘しやすいうえに原初的な承認欲求に
アプローチできます。

3つめ。

変な褒め方はしない

これ、オジサンが若い女性に対して
やりがちなヤツなんですけど、

「洋楽聞くんだけー。オシャレだねー」

とか

「バイトしてるんだ。エライよねー」

とか

分かるかな？

これ。

この褒め方、かなり気持ち悪いんですよ。

ぞわぞわ～ってしません？

うわ～……

って（笑）

で、どうしてこれが気持ち悪い
のかっていうと、

洋楽を聞くのはオシャレじゃないし、

バイトしているのはエラくはないから。

でも、何とか気に入られようとして、

無理やり褒めているんです。

あとこれ、普通に考えて

バカにしていますよね？

子どもがご飯を全部食べられたときに、

「ご飯を全部食べられたんだ～。
エライね～」

っていうのと同じノリです。

いくら自分よりも若いとはいえ、

あなたが付き合いたいと思うような
年齢の女性に対して、言っていること
ではありません。

ところがこれ、

人によっては信じられないかも
しれませんが、

コンサルしてると、多いんです。

とくにオジサンが、若い女性を
口説こうとするときとかに。

気を付けてください。

4つめ。

セクハラっぽい褒め方しない。

これまた、低レベルな話で恐縮なのですが、

コンサルをしていると実際にいるので、

念のため。

女性になれていないオジサンとか、

あと、緊張して頭がハイになって
少し混乱してしまった男性とか、

やりがちです。

セクハラっぽい褒め方の定義は2つ。

女性の体について、直接的に褒める。

胸が大きいね。

とか、

脚が綺麗だね。

とか。

スタイルいいんだね。

とか。

これを言っているのは、その女性との間に、
かなり深い信頼関係が出来上がってからです。

間違っても、酒の勢いに任せて
口を滑らせないでください。

それから、属性を褒める。

これもダメです。

女子大生！

とか。

ナースなんだね。

とか。

若いよね～。

とか。

なんだろう。アダルトビデオのタイトルに
ありそうな属性に、興奮するのは、ヤバいです。

属性を褒めるのは、セクハラです。

5つめ。

努力している部分に尊敬を示す

**これが一番、効果があって
受け入れられます。**

男はだいたい、女性の外見を見て、
好意を抱きますので、

どうしても、

女性の外見的な要素を褒めたく
なるのですが、

そういうのよりも、

女性が褒められて本当にうれしいのは、

・ **自分が努力して手に入れたもの**

です。

- ・ その女性にとって価値の高い部分

を褒めてください。

こういうのこそ、ちゃんと女性を観察して、
ちゃんと女性と向き合ってみないと
分からない部分なので、

ここで、具体例を挙げるのが
難しいのですが、

こういうのは、

「その女性が何に対して、
時間とお金と労力を支払っているのか？」

ってというのは、ひとつの

判断基準にして良いと思います。

キャリアアップを意識して、

資格を取ったり、

仕事に打ち込んでいるならば、

その部分をちゃんと見て、

尊敬を示せば良いし、

他には例えば、

絵を書いていたたり、

音楽をやっていたり、

ダンスをやっていたり、

といった、

何かしらの自己表現に打ち込んで
いる女性とかも分かりやすいです。

こういうの。ヒマつぶしとか
出会い目的とかでなく、

真剣に打ち込んでいるならば、

そこはねらい目です。

まあ、そういう意味ではですね、

ちょっと王道からは外れますけれども、
熱心にエステに通っていたり、
人並み外れて、美容に気を使っていたり、
こういうのは、お金のかけかたとかで
分かりますけれども、
高額な美容マシンとか、
美容外科に通っていたりとか、
目の前の女性が、
そういうタイプであるならば、
もちろん、外見をしっかりと
褒めてあげて良いんです。

24時間のうち、その女性は、
何に対して真剣な時間を使っているのか？

何が頭を埋め尽くしているのか？

どんな価値観が上位を占めているのか？

こういうのをちゃんと見て、
聞いて、観察して、

頑張っている姿、

頑張っている、その姿勢を、

頑張っている、その瞬間を、

指摘してあげる。

共感してあげる。

承認してあげる。

尊敬を伝える。

誰も気が付いていない、
「頑張っているわたし」

にちゃんと気が付いてあげる。

結局のところ、褒めるというよりも、

分かってあげる、

という表現の方が適切なのかもしれません。

これ、効きます。

6つめ。

外見を褒め得るなら『質』を。

これは、2人きりで食事に行って
打ち解けてきてからにして欲しいのですけれども、

「可愛いよね」
「美人だよね」

みたいなものよりも、

その女性の外見を褒めるなら、『質』を
褒めたほうが良いです。

「髪質キレイだよね」

とか

「爪がキレイだよね」

とか

あと、声とか姿勢を褒めるのもアリです。

「ステキな声してるよね」

とか

「姿勢良いよね」

「立ち姿が美しいよね」

とか。

そうそう。

こういう、ちょっと他人とは違った
視点で褒めていくのは、有効で、

「一緒に話していると、力が湧いてくる」

とか

「〇〇さんって生命力が輝いているよね」

とか

「〇〇さんの空気感が好き」

みたいな言い方もあります。

使ってみてください。

[もくじに戻る](#)

12、教祖の役割

次。

2つめ：理想側であること

「この人なら私を理解してくれるに
違いない！！」

という人物から与えられる
自己重要感とは別に、

人間は、

生き方の方向性だとか、

根源的な安心感と
いったものを求めます。

宗教でいうならば、教祖の役割です。

「自分もこんなふうになりたい」

といった、生き方の目標だとか、
そういう理想像に対する信頼と安心。
頼りがいと尊敬。

未来を知ることの出来ないこの世界で、

「大丈夫だよ」

と言って安心させてくれる存在。

そもそも人生において、

絶対的に「正しい生き方」とか、
「失敗しない選択」など
ありえないわけですが、

その、ありえない部分に
人は大きな不安を抱きます。

不安だから、

宗教や占いに頼るし、

そうでない日本人の多くは、

国家というシステムや、

集団の常識に依存します。

「この会社にいれば大丈夫だよね」

「みんなが、そうしているから
安心だよね」

「だって、みんながやってるじゃん
だから大丈夫なんだよ」

って感じ。

で、そういう、

そもそも人生において、
絶対的に「正しい生き方」とか、
「失敗しない選択」など
ありえない、

という部分について、

そこを、あえて、

「大丈夫！」

って断言してあげられるかどうか。

安心や保証、方針を与えて
あげられるかどうか。

**これも、幼少期には両親が
その役割をはたすことが多いです。**

で、例えば、

子どもがいじめられて帰ってきたら、

その子をひざの上に乗せてあげて、

「だいじょうぶ。
お前は何も悪くないし、
間違っていない

堂々としていればいいんだよ」

って言ってあげるとか、

自分の生き方に不安を抱いた時に、

「大丈夫だから。
好きなようにやっごらん

結果よりも、いま頑張っている
ことが大切なんだよ」

って言ってあげるとか、

大人になると、

憧れの有名人であるとか、

身近な尊敬できる先輩であるとか、

自分が「なりたい」と思っている
その理想像を実現している人であるとか、

で、そういう立ち位置で、

「この人なら私を理解してくれるに

「違う！！」

っていう所まで『共感』を与えられた
うえで、

「オレが付いているから大丈夫！」

って、優しく力強く断言されちゃうと、

もう、満たされすぎちゃって、

信者になるしかなくなっちゃう
わけです。

この

「大丈夫！」

が言えるかどうか。

あなたの

「大丈夫！」

が信頼されるかどうか。

依存されるかどうか。

これは、どんなセリフを言えば良いのか？

とかではなくて、

あなたの「在り方」が問われます。

集団の中には、

なぜか周囲から信頼される人物。

なぜか周囲から頼りにされる人物。

なぜか周囲から相談される人物。

というのがいるかと思いますが、

このポジションをあなたが取れるかどうか。

また、このポジションの人間が持つ
雰囲気、あなたが持てるかどうか、

が問われます。

こういう人物で在るために
必要な条件は2つです。

1つめ。

心が安定していること。

どんなときも冷静で安定している。

これが安心感です。

人間って、同じ集団の中で
毎日、顔を合わせていると、

けっこう気分によって、

機嫌が良かったり、悪かったり、

イライラしたり、うろたえたり、

無気力だったり、明るかったり

暗かったり、

ってのがあつるものです。

こういうふり幅が極力少なくて、

どんな時でも、

どのようなトラブルに見舞われても、

わりと、いつものノリでいられる人が

集団の中では、信頼や尊敬を集めます。

まあ、一言で表すと、

大人

ってことなんですけれども。

トラブルの時ほど、試されます。

2つめ。

責任を負えること。

上記、「心が安定している」

という条件をクリアしたうえで、

何事にも責任を負えるかどうか。

...

...

というか、そもそも、
責任を負わない人の方が

誰かのせいにしていただけるぶん、
安心していただけるんで、

でも、それだと、ここでいう、「理想」を
請け負う立場にはなれませんので、

厳密に言うと、

責任を負い、様々な心配事やトラブルを
請け負う立場にいるという条件のもと、

いつでも心を安定させていただける人、

が求められます。

最初の条件と、この条件は2つ同時に満たさなければ成立しないのですが、

説明の便宜上、分解して考えますね。

何事においても、責任を『負える』かどうか？

これが出来る人も、実際にはかなり少ないです。

なぜかって、

これ、逆説的なんですから、

そもそも、誰にも責任は『取れない』からです。

責任を取ることは不可能です。

起こってしまったできごとについて、

人間が出来ることと言えば、

「謝ること」

くらいです。

会社であれば、地位が下がったり、
給料が下げられたり、

民事裁判とかであれば、慰謝料が
発生したり、

と、ありますが、

そういうのも、厳密に言うと、

責任は取れていません。

時間は巻き戻せないんで。

誰かを、実際にケガをさせたり、
心を傷つけたとして、

あなたが、そのことに対して
賠償金を支払おうが、

刑務所に入ろうが、

ケガをさせたという事実、

心を傷つけたという事実、

は消えません。

金銭的に損害を与えてしまった、

とか、

時間と労力を無駄にさせてしまった、

とかも同じです。

損害を賠償してみたって、

損害を与えたという事実は消えませんし、

時間や労力を無駄にさせた、

その時間と労力が消費されたという
事実はどうしたって消えません。

時間は一方通行で、

どうやったって取り戻せないんです。

なので、

責任は『取れない』んですよ。

誰にも。

だからみなさん、

責任を『負う』ことを避けます。

そうやって、ものごとの中心から

逃げます。

誰かに押し付けようとしています。

「いやいや。自分は力不足ですから」

「いやいや。自分には責任が取れませんから」

って。

つまり、人間にとっての
一番のストレスっていうのは、

・未来を決断する立場を『負う』こと

イコール

・責任を『負う』こと

だと言えます。

本質は、占いとか新興宗教と一緒にですね。

科学的な根拠を抜きにして、信者の将来を
「オレの言う通りにすれば、大丈夫」

と断言してあげる。

信頼できる人物に断言してもらえると、

これが、人間にとって、
凄い楽チンというか

とんでもない快樂なんです。

優秀な人間はいくらでもいます。

頭の良い人間もいくらでもいる。

でも、コントロールしようの無い未来について、

「これで大丈夫」

と断言できる人間は、かなり少ないです。

優秀な管理職とか、プロデューサーとか、
占い師とか、教祖様とか、

ま、いわゆる

カリスマ性

の正体とも言えますね。

ちょっと話が大きくなっちゃったんで、
もっと身近に戻しますが、たとえば、

女性と2人でお昼を食べに行った時、

オシャレなパスタのお店と、
雰囲気の良い居酒屋。

どっちに入りますか？

って選択を迫られたとき、
その女性に、

これといった好みや
主張が見られないようなら、

どちらに入るかは、
あなたが決断するべきで、

でも、どっちのお店に入った方が良いか、
そんなのは入ってみないと分からないし、
保障もない。

そういう時、そういう不確実な未来についての
『決断』は、あなたがするんです。

すべての『理想側』とは、この延長です。

この場合は、居酒屋か、パスタ屋か、
程度の判断だから、請け負っても、
それほど強いストレスには、ならないでしょう。

でもこれが、人生において
重要な判断であればあるほど、

その判断が、その後の未来を大きく
変えてしまう可能性のあるもので
あればあるほど、

誰も、その判断を下したがりません。

恐ろしいから。

不安だから。

それがストレスだから。

そこを、

- 代わりに決断してあげる
- 自信を持って断言してあげる

で、1回でもこの決断のおかげで、その後の物事が上手く行ってしまったなら…

その女性はあなたにドブプリと依存します。

一部の占い師や、新興宗教の教祖のやり口です。

女性「AとB、どっちがいいのかしら」

って時、

「う～ん。Aを選べばこういうメリットとデメリットがあって、Bを選べばこういうメリットとデメリットがある。

あとは君が判断しなさい」

だと、公平な態度だとは思うけど、

同時にあなたは、『理想側』である
ことを放棄することになります。

女性「AとB、どっちがいいのかしら」

って時に、

「Aがいいに決まってるじゃん。絶対に
そっちの方がお前に向いてるよ」

って、あえて男が断言できるか。

で、この判断が1回でも当たっちゃった場合、

そして、このことが、
その女性の人生にとって

大きな影響を及ぼせば及ぼすほどに、

「この人の言う通りにすれば大丈夫」

という実感となって、女性はどんどん
自分の頭で考えることを止め、

あなたの言いなりになります。

「あなた無しでは生きられない」

とはこういう事です。

じゃあ、そうやって、

責任を負っている人達は、

そんなに、なんでも出来る
スーパーマンなのか？

未来を見通していて、

その決断には完璧に間違いは無いのか？

っていうと、そんなことは無いわけですよ？

でも彼らは、責任を『負う』わけです。

責任は『取れない』のだけれども。

で、そういう立ち位置にいる人物が、
この「理想」と「安心感」を与られます。

なので、極論ですね、

彼らはみんな、詐欺師なんです（笑）

僕は最初に、この項目は、

宗教で言えば、教祖である、

と言いましたが、

例えば、教祖様が、

「この経典を信じれば、あなたは来世で救われますよ」

って言って、責任を負うとして。

それ、補償できませんよね？

「来世ってあるんですか？」

とか

「救われるの定義って何ですか？」

とか、

突っ込みどころは色々ありますが、

ともかく、

仮に来世があるとして、

仮に、信じても救われなかったとして、

じゃあ、教祖様には、来世で救えなかった責任が取れるんですか？

みたいな話になるわけです。

これ、宗教じゃなくても同じです。

親だろうが、先生だろうが、

会社だろうが、政治だろうが、

誰にも責任は取れません。

決断だって、よく間違えます。

しょーがないですよ。

だって、誰にも未来は見えないんだから。

で、よく間違った決断をした、

親とか先生とか、会社とか政治家とかを
みなさん、興奮して断罪するわけですけども、

これ、しょーがないんです。

彼らだって、普通の人間なんで。

未来が見えない以上、ミスは
いくらでもします。

でも、それでもですね、

社会というのは、誰かが、

責任を負わなければ、成立しません。

神様やスーパーマン以外は
責任ある立場になってはいけない、

とかだと、社会が成立しません。

誰にも未来は見えない、

誰だって実力不足、

誰だって未熟、

それでも、

誰かが、負わなければ、

システムが動かないんです。

で、そのときにですね、

あなたが、どちら側の人間で
在れるのか？

責任を負って、全力を尽くす側なのか？

責任を誰かに押し付けて、そのひとの
ミスを攻撃する側なのか？

もちろん、

2つめ：理想側であること

を満たすためには、

**責任を負う側に立ち、全力を尽くす側で
いる必要があります。**

なのであなたは、今日からは、

- ・責任を負う立場を積極的に引き受ける

ようにしてください。

どうせ誰にも責任は取れないんです。

誰がやったって、どうせ実力不足なんです。
みんな、神さまやスーパーマンじゃないんで。

そのうえで、

引き受けるんです。そこを。

少なくとも、

上司が悪い。

先輩が悪い。

先生が悪い。

親が悪い。

会社が悪い。

社会が悪い。

政治が悪い。

みたいな言葉を吐き捨てて、

責任者のせいにして陰で悪口を
言っているような男にはならないでください。

安全な場所から、他人を叩く側にいたら

2つめ：理想側であること

は満たせません。

責任を負って、全力で取り組む側に
いてください。

[もくじに戻る](#)

13、人見知りの構造

さて。

ところで、自分ではけっこういい感じに『共感』しているつもりなのに、

なんか、あと一歩、

「この人なら私を理解してくれるに
違いない！！」

っていう状態を感じられない、

また、

1つめ：自己重要感を与えること

2つめ：理想側であること

も、なんか噛み合わないな～

っていう時があります。

その時に足りないのは、

3つめ：同じであること

です。

これは、

- ・自分は同じ人間の中にいるんだという感覚を持ちたい

という欲求に根差しています。

子どもの頃とか、学生時代
なんかだと、

- ・グループに所属している

っていう感覚あったと思うんですよ。

イケているグループとか。

不良グループとか。

いつも一緒にいるメンバーとか。

同じ趣味を持っている、

同じような服装をしている、

同じような境遇である、

同じアイテムを持っている、

などなど。

大人になっても、こういうのに
こだわる人はいますよね。

セレブの街に住んで、
自分もセレブになりたい、とか。

オシャレな若者の街で遊んで
イケてる集団に所属したい、とか。

有名企業に所属して、
勝ち組と言われる側になってみたい、とか。

同じ田舎出身の人達で
集まる、県人会とかも
そうだし、

社会人になってからも、
同じ大学出身でコミュニティを
作ってみたり、

もちろん、宗教もそう。

そういった、

同じであることを根拠に集まりたい
また、そういう集団に所属したい、

という願望。

好き嫌いの判断が早くて、

人間関係を敵か味方かみたいな
基準でとらえやすい傾向がある。

これが強い人ほど、

共感しても、

「無理して合わせてくれてるでしょ」

だし、

1つめ：自己重要感を与えること

に対しても、

「お世辞でしょ」

で、

2つめ：理想側であること

とは、「自分とは縁が無い」

と考え、かえってすねたり、いじけたり
ひがんだり、

逆に、

まったく違う凄い人だと
思われて、ずっと心の距離を
置かれてしまうだとか。

そういうふうになりやすいです。

**これ、基本的には全ての
人間が持っています。**

同じ集団に所属して従う、

というのは、

**知識や社会経験が少ない状態で、
自分の身を守るためには、**

**もっとも簡単かつ合理的な手段
であるからです。**

一種の生存本能なんです。

そうして、社会経験が少なかったり、
価値観の多様性みたいなものに対する
感性が未発達であったり、

異文化の人間と接した経験が

少ない人ほど、

なんというか、ざっくり言ってしまえば、

社会的に未成熟な人ほど、

夏目漱石が表現するところの『田舎者』
ですね、

都会に住んでいるとか、地方に住んでいる
とかではなく、

グローバルな価値にさらされた経験が
少ない人ほど、

この感覚が強いです。

逆説的な表現になりますが、

人間はみんな違うんだ、という
一面を冷静に受け止められないからこそ、

人間はみんな同じなんだ、という
一面も受け入れられない。

で、これって、どういう感覚かっていうと、

そうですね…

例えば、あなたが高校生だったとして。

あなたは、ごくごく普通の
学生です。

で、同じクラスに剃りこみ、金髪、
リーゼント、ダボダボのボンタンをはき、
ジャラジャラとシルバーのアクセサリーを
つけた、

タバコも吸っているし、

シンナーも吸っていて、

入れ墨も入っている。

まるで漫画に出てきそうな『不良』が
いたとします。

ある日曜日、近所の街を歩いていると、
たまたま彼と会いました。

彼とはほとんど話したことがありません。

あなたは、デパートで買った
わりとキレイめの、

ジーンズに、シャツにジャケット
スタイル。

彼は休日でも、相変わらずのゴリゴリの
不良ファッション。

着ているTシャツには、

「喧嘩上等」の4文字。

...

エレベーターで2人きりになりました。

一応、挨拶だけします。

...

気まずい雰囲気。

そんな時、ふと彼が、

「そのジャケットおしゃれじゃん」

と、一言。

...

さて、あなたはどう感じる
でしょうか。

価値観も生き方も違いすぎます。

で、何よりもファッションが
違いすぎる。

え？

どういう意味??

気まずいから、とりあえず
言ってみただけ???

というか、気まずいと感じて
いるのか?彼も??

あなた、絶対に、オレのカッコウ
好きじゃないよね？

ファッションの好み、
違いすぎるよね??

なんなんだ、このひとは。

どういうつもりなんだ…？

と。

(笑)

こんな感じでしょうか。

もしかすると、不良の彼には
聞いてみなければ分からないような
複雑な事情があって、

本当はごくごく普通のオシャレに
憧れているかもしれないし、

エレベーターで出会ったあなたと、
実は仲良くしたいと思っているかも
しれない…

でも、

一般的に人は、

「この人と自分は違う」

と認識している相手からの、

共感の言葉や、褒める言葉、
注目の言葉なんかは、

素直に受け取れない傾向にあります。

「どういうつもりで言ったんだ？」

みたいな混乱をまねきます。

また仮に、普通の学生時代を
送ったあなたが、

将来の不安を抱いたときに、

上記の不良から、

「そんなもの何とでもなる。
気にするな」

って言ってきたとして、

「ああ。そうだよな」

って、なかなか成りづらいと
思うんですよ。

「いやいや。お前に保証されても。
生き方が違いすぎるんで、

お前の大丈夫と、オレの大丈夫は
たぶん違うぞ…」

って。

この不良の子が、どんな
バックグラウンドを持って、

もしかすると壮絶な人生を
送ってきていて、

とてつもない深い体験を
してきてて、

本当は、そういう体験談とセットで
じっくりと聴けたら、

あなただって、思わず納得してしまう
かもしれない。

でも、

上記の不良から、

「そんなもの何とでもなる。
気にするな」

と、ただその言葉だけを聞いたあなたは、

少なくともその時点では
彼の言葉は受け入れられないでしょう。

…

それが良いとか悪いとかいう
お話ではありません。

他人を受け入れるためには

「同じである」

という前提が、思いのほか
重要なときがあって、

人間には、こういう一面があるんですよ。

ひとはパッと見の印象などで

「自分とは違う」と感じたものに

拒絶反応を示しますし、怖い、気持ち悪い、
話が合わないと感じて、心を閉じる
という性質があるんです。

この傾向が強いひとを

・人見知り

と呼びます。

なので、人見知りの定義は、
明るい性格とか、暗い性格とか、
ノリが良いとか、悪いとかでは

ありません。

ここ、重要です。

押さえておいてください。

なので、

3つめ：同じであること

ってというのが、個人差はありますが
けっこう引かかってくる。

ざっくりと言って、

人見知りが強い人ほど、

ファッションや年齢、

所属や出身、

話し方や、姿勢、

などなどがネックになって

『共感』を作るまでに時間がかかり
ますし、

逆に、それらを与えることが
出来るだけで、

急に『共感』が作りやすくなります。

いくつか、分かりやすい
実例を挙げてみましょうか。

僕の相談者さんの例ですが、

例えば、水商売の人とかって、

こういう感覚が強い人が
いるな～って思います。

キャバ嬢とか。

夜の世界が長い人とか。

昼間の職業の人に対して、

「一般の人」

っていう表現をしたり
する子、いますよね。

こういう子は、

「実は自分も、ホストやってた
ことがあってさ」

って、その男性が言ったとたんに、
急に仲良くなれたりだとか。

あと、田舎の方で、
昔、不良だった子とかだと、

「実は自分も、昔、不良だった」

的な過去をカミングアウトした
とたんに、急激に仲良くなるとか。

あとは、

風俗の子なんかも、いますよね。

ごくごく一般的な家庭で育った
サラリーマンの男性が、

風俗嬢に恋をして、

で、最初は外で会って
デートしたりしてたんだけど、

そのうち、女性の方から

「やっぱり、あなたと私は
住んでいる世界が違う」

って言って別れを切り出してきて、

結局、その女性は、DV彼氏の
元へ走ってしまったり…

だとか。

...

難しい問題ですよね。
こういうの。

やっぱりですね、

子どもの頃、親から毎日
ぶん殴られて育った人の気持ちを、

普通の平和な家庭で育った
僕たちが、

「分かるよ。その気持ち」

とは言えないわけで、

そういう違いってのは、

最初に例にあげた、

平凡な高校生と、不良学生の
エピソードみたいなもので、

『同じではない』

という前提からスタートして
しまうと、

共感も、褒める言葉も、
認める言葉も、注目の言葉も、

安心や保証の言葉も、

どこか、お互いに素直に
通りにくいところがあって、

「ん？ どういう意味だ??」

っていう、変な混乱を
招いたりします。

分かりやすい実例として、

不良がどうだとか、

水商売がどうだとか、

虐待がどうだとか、

あげてみましたけれども、

こういうのって、本人の主観の
問題ですし、

あと、感性の問題ですね、

年齢とか、

出身とか、

ファッションとか、

性別とか、

顔とか、

しゃべり方とか、

ノリとか、

文化とか、

その気になれば、

「違う」理由はなんでも
作れますので。

**女性側が、こういう部分で
あなたに対して違和感を覚えると、
『共感』作りに時間がかかります。**

相手の主観を大切にしながら、

とくに神経を使って、

きめ細やかに、
丁寧に丁寧に『共感』を
積み重ねるしかありません。

こういう時は、

分かった気になったり、

焦って、フライング的な
『共感』をするのが一番ダメだし、

序盤ほど、会話の中で、

「価値観の違い」が強調されるような流れは避けるべきです。

これは、実践編の方で詳しくお話しますが、

- 感性の一致

に対して、より注意深くなってください。

それから、

感性に一致に加えて、

- **いかにして共通点を見つけてゆくのか**

が勝負です。

人見知りほど、共通点をきっかけに仲良くなりやすいです。

その際、出身地とか出身校とか趣味とかでも良いのですけれども、

もっとクリティカルな威力を持つのは、

恐怖とか苦痛とか不幸とか、
強い負の感情を体験していて、
その境遇が似ていること。

です。

親が離婚しているとか、
激しいイジメにあったことがあるとか、
同じ種類の大きな病気を経験しているとか、

不謹慎かもしれませんが、

その辛い体験が似ていれば
似ているほど、強力なパワーを
持ちます。

...

ファッションも、違い過ぎないほうが
良いです。

そういう意味でですね、

僕は、無難なファッションっていうか、

あまり個性的でない、

それほどオシャレ過ぎない、

なるべく

「普通の清潔感あるファッション」

を、いつも皆さんには
お勧めしているのですが。

力技ですが、

- 共通点を見つける

のさらに上で、

- 無理やり共通点を作る

ってのも実はかなり強烈です。

例えば、

どうしても口説きたい女性がいて、

その女性がちょっと変わったファッション、

ゴスロリとか、あと、コスプレとか、

そういうのが好きなら、

あなたもそっち系の服装を教えてもらって、
着ちゃうと早いです。

個性的なファッションの子って
だいたい人見知りなんで。

そうそう。

ファッションとか外見って

3つめ：同じであること

に関しては、

すごいパワーがあって、

例えば、

ヨシダナギさんという、

有名な女性の写真家があります。

若くて綺麗な女性なんですけれども、

彼女は、南米とかアフリカとかにいる
少数民族の写真を撮るんです。

ところが、少数民族のみなさんは、

だいたい人見知りが激しくて、

普通に「写真を撮らせてください」

って言っても、全然良い写真が撮れません。

ガッツリと心がガードされてて、ちっとも良い写真にならない。

で、ヨシダナギさんは、

そこをどうやって崩すのかっていうと、

それぞれの民族のかたたちと同じ格好をして、同じものを食べます。

普通にパンツ脱いで、下は葉っぱとかで隠して、

その土地の女性たちと同じメイクをして、

もちろんおっぱいは丸出しです。

その状態で、少数民族のかたがたと一緒に、コウモリでも芋虫でも何でも食べるんだそうです。

そして、一気に彼ら彼女らと打ち解けて、

他の写真家には真似できない、

すばらしい写真を撮影します。

ファッションとか外見とか

雰囲気近づけるって
とてつもないパワーを秘めているんです。

・・・

あと、無理やり共通点を作る、
でいうと、僕なんかは、例えば昔、

どうしても口説きたい女性がいて、

その女性が、

『ドラゴンクエスト』の最新作
をやっていたんです。

有名なゲームのタイトルです。

で、僕はどうしたかっていうと、

その『ドラゴンクエスト』をやるために
ゲーム機本体と、ゲームをその日のうちに
買って、

寝る間も惜しんで『ドラゴンクエスト』
をやりました（笑）

で、やりながらお互いに、

「いま、どこどこまで進んだよ～」

「あそこは、ああだったね～」

とかって、LINEでやり取り
したんです。

僕はこういうの、よくやります。

本でも漫画でも、映画でも音楽でも、

その子の趣味を聞いたら、即、
体験します。

こういうベースがあると、

相手がどんなに人見知りでも
『共感』を作りやすいので、
その後の口説きが非常に
スムーズなんです。

それから、

・テンションやノリを合わせる

というのも無理やり共通点を作るとい手法の1つです。

具体的には、

- ・声の大きさ
- ・しゃべる速度
- ・姿勢

の3つを、相手に合わせて行って、

「同じである」

という状況に近づけます。

あ、そうそう。

人見知りが強い女性に対しては、

あえて、自分の弱みを見せてゆくと、

事態が一気に好転することが
あります。

自分のダメな部分、

コンプレックスの部分、

なさけない部分。

これも、「同じである」
を作っているんです。

完璧な人間っていませんので、

だいたいみなさん、

自分のダメな部分、

コンプレックス、

なさない一面、

なんかを抱えています。

なので、

「ああ。この人もわたしと同じなんだな…」

って感じの弱みが良いです。

これ、バランス感覚が
難しいんですけども、

特に、他人に対して心を
開くのが苦手な女性ってのは、

自分に自信が無いんですよ。

「本当の私を知られてしまったら
嫌われるにきまってる」

みたいな感じで。

なので、先に

「本当の私」

を自己開示して、

同類であることを
アピールするんです。

ただし、

ここで先にアピールする

「本当の私」

ってのは、

あんまり重たいのはダメです。

逆効果です。

「実はストーカーだった」とか。

「逮捕歴がある」とか。

絶対に言っちゃダメです。

あと、酒、ギャンブル、嘘、暴力系も
ダメです。

借金とか、お金にまつわるのもダメだし、

犯罪のニオイがするのもダメ。

それから、

・実は自分の中では解決できていないコンプレックス

・まだ受け入れることが出来ていない自分の弱さ

は注意が必要です。

こういうのは、決まればクリティカルだが
外したら致命傷になります。

例えば、僕が昔コンサルした男性で、

「ずっと片思いを続けていた女性に
フラれてしまった。
それが辛くて辛くてしかたがない」

っていう人がいて、

その人は、コンプレックスの塊（かたまり）で、

ずっとその失恋を引きずったまま、

どうしても結果が出ませんでした。

年齢もけっこういってる男性
だったので、

このままだと、この男性は
一歩も進めないまま終わる
可能性があるぞ…

と考えた僕は、僕は荒療治を
提案したんです。

それが、

「その失恋した体験、そこであなたが
思ったこと、考えた事を、今度は
今、狙っている女性に話してみてください」

というものです。

彼は2人の女性に話しました。

すると、一人の女性からは激しく
幻滅されて、ひどい言葉を浴びせられました。

ところが、もう一人の女性とは
そのことがきっかけで、

急速に距離が縮まり、そのまま
付き合うこととなりました。

..

なぜこうなったのか？

っていうと、

彼にとっての片思いと失恋話が、

まだ、彼の中できちんと受け止められて
いなかったからです。

この手の強いコンプレックスや
負の感情というのは、

心理学の専門用語だと、

・シャドウ

って言い方をするんですけども、

このシャドウが、

相手のシャドウを

大きく揺さぶることがあって、

これを受けた女性の感情が、
負の方向に揺さぶられると、

>すると、一人の女性からは激しく
>幻滅されて、ひどい言葉を浴びせられました。

というような事が起こり、

逆に、正の方向に揺さぶられると、
強烈な『共感』を呼び起こして
いっきに距離が縮まったりします。

一か八かですね（笑）

で、これ、どうしたらいいのか？

っていうと、

あなたのコンプレックスとか、

あなたが、あなた自身に向けられた
負の感情、

受け入れたくない、認めたくない弱み、

みたいなものと、

ちゃんと向き合って、

「これも自分なんだ」

「大切な自分の一部なんだ」

ってことを理解し、
受け入れられていると、

そのコンプレックスや弱み
ってというのは、

相手のシャドウを負の方向に
刺激することが無くなるんです。

あなたが見せた弱みは、

「この人も同じなんだな」

という感覚の方のみを
呼び起こしてくれます。

ですので、

自分に対して、強いコンプレックスがあって、
それを肯定的に受け入れられていない、

受け止められていない男性ほど、

「イイ感じ」に弱みを見せられずに、

3つめ：同じであること

に引っかかった他人との距離を
うまく縮めることができませんし、

逆に、

こういうコンプレックスや弱みを
自分の中でちゃんと受け入れられて
いる男性ほど、

**※コンプレックスを消すんじゃありませんよ？
コンプレックスをそのまま受け入れるんです。**

バランス良く、女性に対して
弱みを見せられます。

ちょっと難しい話になって
しまってますみません^^；

「よく分らんぞ??」

って人は、今は無理して
理解しようとしなくても
大丈夫ですので、

とりあえずは、

「実は人見知り」

とか、

「緊張しやすい」

とか、

「こんなミスをしちゃった」

とか、

「怒られて落ち込んでいる」

とか。

そういう、よくよく考えると

恥ずかしいから、誰も言わないだけで、

実は誰でもそうなんじゃね？

みんな一度は体験するよね？

実はみんな、思っているよね？

みたいなのを選ぶと良いです。

...

いずれにせよ、

相手の女性が、こちらに対して、

「自分とは違うひとだ」

と認識していて、

その女性が人見知りタイプ、

つまり、

「違う」という印象が
『共感』を作ることを拒否しやすい
タイプの人間であるならば、

・この女性を口説くためには時間がかかる

という前提を受け入れてください。

こういう相手に対して、

なにやら、テクニク的な
それっぽいモテ会話術とかを使って、

無理していききに距離を
縮めようとする

だいたい、心を閉じられますので。

もしも、あなたが、

「オレ、けっこう女を口説くには
自信ある方なのに、

なんか時々、おとなしいというか
クールというか、

こちらが何言っても、盛り上がらない
女っているんだよな〜」

とか感じちゃってるなら、

この、

3つめ：同じであること

に引っかかって、

空回りしている可能性、高いです。

そういう焦りは、完全に、

• あなたの都合でしかありませんので。

その女性とは、
相性が悪いんだと割り切って、

その女性とは時間がかかるんだ、

という前提をちゃんと
受け入れて、

じっくりと、丁寧に丁寧に

『共感』を重ねながら、

信頼を温めながら、

関係性を進めてください。

[もくじに戻る](#)

14、アドレナリンの恋

4つめ：衝突者であること

この4つめは特に、

「この人なら私を理解してくれるに
違いない！！」

をクリアしていることが前提です。

また、この特性には
かなりの個人差があって、

全体の1～2割は

そもそも『衝突』を望まない、

つまり、

この4つめを与えようと
してしまった時点で、

逆に引かれてしまうのですが、

そうではない、1～2割の
女性がいて、

彼女達はむしろ、

定期的な『衝突』を無意識、
無自覚に望んでいます。

この特性が極端に強くなってくると、

「口汚く罵り会って、
怒鳴りあって、

脳内麻薬をドバドバ出した後の、

仲直りのせっ〇スが一番気持ちイイ！」

っていう。

そういう女性も、います。
まじで（笑）

たしかに、この属性は
ある種の『性癖』なんだと思います。

が、そこまで極端でなくとも、

時々ケンカしないと気が済まない
女性ってのがいます。

その時の興奮、脳内麻薬が
恋愛の一部というタイプです。

いわゆる「ヒステリー」を
起こしやすいタイプ。

あと、ケンカして、衝突して
本音をぶちまけて、

そのぶんだけ仲良くなった
気分になれる、

というのも、本質的には
同じだと思います。

ところで、

なぜか、会話術の類で、

ケンカのやり方を教えている
ものって見たことがありません。

たぶんなんですが、

多くの日本人の常識としては、

ケンカ=悪

ケンカ=良くないこと

というのがあるんだと思います。

で、実はこれ、僕もおおむね賛成
なんですよ。

特に、男同士とか、社会人同士だと
避けたほうが良いです。

日本人には、
「ケンカもコミュニケーションの一部
ネゴシエーションの一つの手段」

という感性・文化がありませんので。

ところがこれが、日本人であっても、

男女関係になってくると、別なんです。

例えば、「吊り橋効果」って
有名だと思うのですが、

不安定なつり橋を渡ったときのドキドキを、

一緒につり橋を渡った相手へのドキドキだと勘違いし、

恋愛感情だと思い込んでしまう、

というアレ。

心拍数が上がるドキドキが、

男女のドキドキと隣接しているような感覚。

ジェットコースターに、

ホラー映画。

激しい運動に、スリル。

ストレスも含めて、

興奮するって、実は気持ちの良い
ことなんですよ。

興奮系の脳内麻薬って、
気持ちイイんですね。

アドレナリンとか、ドーパミンとか。

で、このハイな感情、ストレスを

恋愛にも求めてしまう女性
というのが、一定数います。

なので、

こういうアップー系の女性とは
付き合いたくない、

なるべく避けたい、

というなら良いのですが、

そうでないならば、

また、これは程度の問題でして、

そこまで激しいレベルで
ないならば、

彼氏や旦那さんとの、

たまにのちょっとした

「衝突」→「仲直り」

の流れを求めている女性って
それなりにいますので、

基本的にはみなさん、
出来た方が良いでしょうな…

って思います。

なので、

4つめ：衝突者であること

を求めている女性に対応
するために、

・ケンカのやり方

を教えます。

まず、2つのルールを
守ってください。

ルール1

こちらからは仕掛けない

ルール2

必ず最後は仲直りをする

順番に解説します。

1つめ。

こちらからは仕掛けない

これは最初に言いましたが、

この『衝突』の属性は

女の子によって、かなり
個人差があります。

極端に強い子もいれば、

極端に弱い子もいて、

あと、タイミングとかも
超重要です。

でも、それらをどう判断
するかっていうのは、

はっきり言って分かりません。

分からない上に、

間違うと、致命傷になります。

なので、基本、

受けて立つというスタンスでいてください。

『衝突』属性が強い子は、

必ず、その子のタイミングで、

その子の方から仕掛けてきます。

その上で、

2つめ。

必ず最後は仲直りをする

まで、ちゃんと事体をおさめてください。

ケンカして、お互いがヒートアップしたまま放りだしてしまうと、

その『ズレ』は蓄積されます。

蓄積された『ズレ』はいつか2人の関係を崩壊させます。

逆に、

「ケンカ」→「仲直り」

という、

マイナスの感情からプラスの感情へと

イイ感じに落としどころを決めてあげると、

こういうのを、『感情の総量』

というのですが、

位置エネルギーのギャップといたしますか、

プラスとマイナスを合わせた、
トータルの感情エネルギーが、

女性を満たし、

そのぶんだけ、あなたが
特別な男になれます。

マイナス100のエネルギーと、

プラス100のエネルギーを
合わせた、

トータルで200の感情エネルギーが、

最後は、「仲直り」という形で
女性の中に残る、

それが良いんです。

ケンカをしないことが常識の日本では、

基本、

プラス100のエネルギーしか
得られないじゃないですか。

でも、ケンカ出来る、あなただけが

トータル200の感情エネルギーを
与えられる。

だから、特別。

この、

「ケンカ」→「仲直り」

の流れを作るコツとして、

『衝突』属性の強い、弱いも含めて
どの女性にも対応するための、

全体のマネジメントのようなものを
お伝えします。

まずはステップ1

相手が仕掛けてくるのを待つ

仕掛けてくるっていうのは、

具体的には、

相手が、こちらに対して
怒り始めること、

あるいは、

わざと怒らせるような言動を
向けてくること、

です。

で、ステップ2：

まずは黙って聞いてください。

単に不満がたまっているだけ、

一時的なイライラをぶつけないだけ、

ってことがありますので。

そういう時は、黙って、真剣に
相手の主張、言い分を聞けば良いです。

女性側も、感情を吐き出しきったら、
気持ちが落ち着いて、

逆に謝ってきたりします。

この辺は、次にお伝えする、

5つめ：鏡であること

を参考にすると良いです。

で、問題は、女性側の、

怒りや挑発が、しばらくしても
一向におさまらなかったとき。

ステップ3：

この時、

「ああ。この女性は『衝突』属性だな」

と判断します。

要するに、

打っても打ち返してこないことに、余計に腹を立ててます。

なので、打ち返します。

話を聞いているうちに、

「あれ？

結局はAを選んでも

Bを選んでも、この子は怒るんじゃない??」

って感じたら、それも
打ち返して良いタイミングです。

打ち返す時のコツは、

1、怒鳴りつけても実は冷静

2、相手の言葉のスキを見逃さない

です。

1、怒鳴りつけても実は冷静

怒鳴るってのは、時に必要です。

なぜなら、基本、口喧嘩ってやつは、

正しい方が勝つのではなくて、

声の大きい方が勝つからです^^;

「朝まで生テレビ」とかって
見たことあるでしょうか？

識者と呼ばれる、
エライ先生たちが集まって、

一晩中、政治とか教育とか、

色々な社会問題について

ディベートをする番組なのですが、

あれを見れば、一発で分かります。

人の話なんか聞かない、

一方的に大声でまくしたてたやつが
一番、勝ってます。

学者とか、専門家とか、
偉い先生たちが集まって
議論しているはずなのですが、

結局あんなっちゃうと、

街のチンピラと同じだし、

どんなに上品ぶってみても、

ディベート=ケンカの

行きつくところなんて、

あんなもんなんだろうな…

なんて、思っちゃいますが。。

ただ、ずっと怒鳴っててもダメで、

2、相手の言葉のスキを見逃さない

の部分ですね、

「あ、こいつ今、言っちゃあいけない
こと言いやがった」

みたいなタイミングを
見逃さないで、

そこで、バシッと黙らせます。

相手は感情で、怒鳴ってますので、

だいたいね、

じっと聞いていると、

「それはいくら何でも言いすぎだろ…」

「ケンカのはずみとはいえ、それは
言っちゃあダメじゃないか。人として…」

みたいなタイミングって
必ず来るんですよ。

女性自身の感情が暴走して、
本人も、そこに飲み込まれている
ときほど。

で、相手もだいたい、もののはずみ
ってヤツで言っちゃってて、

指摘されると、自分でも

「確かにそれは、言っちゃダメなことだ」

って分かるんですね。

なので、そこをキッチリと攻めて
謝らせます。

謝らせて、相手の勢いを削ぎます。

ちなみに、ケンカ慣れしている女性は、

巧妙に論点をすり替えてきますが、

そこも、見逃したらダメです。

論点をすり替え続けられてしまうと、

ずっと相手のペースのまま、

結局こちらは、右往左往して
困るだけで終わっちゃうからです。

また、声を荒げる時のコツとしては、

実は極めて冷静は超重要です。

相手は感情でケンカしてきますが、

こちらも感情で乗っかると、

まず、泥沼化しますし、

「ケンカ」→「仲直り」

の流れを上手く作れません。

なので、子どもを叱りつける
時のような感覚がベストです。

「しつけ」として、

パフォーマンスで、あえて
声を荒げて見せるときの感覚です。

そうやって、バランスを
取りながら、

最後は相手の言い分を、

本当に言いたかったこと、

本当に主張したかったことを

しっかりと解釈してあげて、

こちらも、謝ってください。

オレは〇〇ちゃんを最大限、
尊重してみせる。

だから、〇〇ちゃんも、

めいっばいオレを尊重してくれ。

そして、大人として、
落としどころを見つけよう。

と。

で、落としどころを決めて
最後に仲直りします。

なぜケンカをしたのか？

それは、お前を愛しているからだ！
お前との未来を真剣に考えているからだろっ！

そして最後は、

「本音を言ってくれてありがとう！」

「愛している！」

っていう、

もう、そういう『ノリ』ですね（笑）

この落差を演出できるかどうか。

声を荒げるのが苦手な男性は、

代わりに、

超冷徹に、ディベートの手法で

徹底的に相手を論破する、

ってのも、アリです。

相手が感情的にメチャクチャに
取り乱し始めたら、

それは冷たい目で睨み付けて、

相手にせず、

「で？

〇〇ちゃんはどこに何しに来たの？

話し合いじゃないの？

そんなふうに一方的に怒鳴られても、
オレはしゃべれないよ？」

って感じで。

もちろんこれも、

「ケンカ」→「仲直り」

の流れに組み込まなきゃ
ダメですよ？

男は、こういうことやり始めると、

最後は、女性を叩きのめして
「スカッ！」として終わる人とか
いるんですけども、

それだと、ただの感じ悪いヤツなんで。

恨みが蓄積されてしまうようでは
本末転倒です。

あくまでも、

マイナス感情からプラス感情への
文脈の一部として、

「ケンカ」をしてください。

謝らせて、謝って、

最後は愛を伝えてください。

ケンカの本当の目的は、

マイナス100とプラス100で

トータル200の感情エネルギーを、

**「仲直り」という着地点に
持って行くことです。**

こうすることで、

「お互いがもっと分かりあえた」

「もっと特別な関係になれた」

という感覚を共有できます。

それと、もう1つ。

むやみに謝らないことも重要です。

**相手が怒っているから謝る、
というスタンスが一番、
問題をややこしくします。**

話をしっかり聞いて、

相手の主張をちゃんと理解して、

そのうえで、自分が謝るべきだと
理解・納得した部分のみ、謝る。

自分はどこまで譲れて、
どこまで譲れないのかを
はっきりと伝えて、

2人の着地点を話し合う、

↑このさじ加減が、その男性の個性です。

そういうつもりで臨むとよいと思います。

[もくじに戻る](#)

15、鏡に映っているのは誰ですか？

5つめ：鏡であること

最後の5つめです。

「鏡になる」

っていうのは、カウンセリングとか心理学なんかをかじると、出てくる

わりとメジャーな考え方なのですが、

僕のはたぶん、ちょっと違ってます。

あ、そうそう。

僕の話って、けっこう心理学なんかだとメジャーな言葉が出てきたりするんですけども、

それで心理学を学んだとは思わないでくださいね。

僕の場合、自分の考えを伝えるのにたまに心理学の言葉を使うと便利だから、

僕の勝手なイメージをもとに、
気ままに流用しているだけです。

実際に、それらの概念と学問的に
正確に一致するかっていうと、

全然分かりません。

むしろ怪しいです（笑）

かなりテキトーです。

「心理学用語事典」みたいな本を
開いて調べてみたら、全然違うこと
が書いてあるかもです。

なので、

「その言葉は使いかたが間違ってますよ」

みたいなクレームも受け付けません^^;

さて。

鏡であること。

これは1つの極論なのですが、

人間というのは、

自分が一番かわいい生き物である

と僕は考えています。

なので、本当はみんな
他人になんか興味はありません。

誰かを好きになる、という
感情も、

「誰かが好き」という部分、
この「誰か」は、

もうこれ、まぎれもなく、
自分なわけです。

親子、友人、同僚、恋人、

どのような人間関係であれ、

どのような喜びであれ、

どのような悩みであれ、

そこで

「感じている自分」

というのが一番根っこにありますし、

「他人の目が気になる」

というのも、

そこには、他人以前に、

「気にしている自分」

がいるわけですし、

あくまでも、

自分が気になるから、

他人が自分をどう見ているのかが
気になる

んだと思います。

なので人間は、

実は、

・自分の感情が最優先

だし、

・自分の感情が一番大切

です。

他人に興味は無いんです。

「誰かのために身を犠牲にして」

みたいな話もありますが、

そうですね、

例えば、ある人が、

自分の息子のために
命を投げ出したとします。

もちろんそれは、
とても美しいことだと思いますが、

一方で、

これだって、その「ある人」

というのが、

「自分が息子を助けたい」

という感情を優先して
命を投げ出したわけですが、

ここで、あえて冷たい言い方を
してしまいますが、

この「ある人」からすると、

命を投げ出すという形で
救われてしまった、

残された息子の感情とか
葛藤なんて、

二の次だったりします。

ブラック企業で過労死する
ような人だって、

自分の身よりも、

その企業を愛しているとか
では決してなく、

「責任を取れないのは恥ずかしい」

「途中で逃げ出すのは恥ずかしい」

「出来ないことは恥ずかしい」

みたいな、自分の感情を
自分の健康や命よりも優先して
いるからだと思いますし、

なんらかの事情で自殺して
しまう人も、

その人の死によって、

周囲の人間が感じる気持ちや、

その人自身の命よりも

優先順位の高い、

その時点で、本人が最も重要視
した感情があるわけです。

そういう、かなり極端な
立場から今、僕はものを
言っているのですが、

とにかく、結論としてですね、

人間は自分が一番かわいいし、

時には、健康や生命を上回るほどに、

自分の感情こそが何よりも重要

なわけです。

ですので、これ、

比喩表現として理解して
欲しいんですけども、

自分が一番かわいい人間は、

**そんな可愛い自分を『鏡』で
見ている時が最高に気持ちイイ。**

であれば、

あなたがやるべき事は

彼女との会話の中で、

彼女にとっての、

彼女の感情を映し出す『鏡』になること

つまりそこには、他の4つとは

違って、

- **自分（=あなた）という概念は
入り込む余地がありません。**

いかに、自分を消して、

彼女を映す『鏡』であれるか。

ここまで、オッケーですね。

そしたら、やり方を説明します。

具体的には、いくつか
ありますので、

思いつくままに
書き並べてみます。

1つめ。

質問に答えない。

女性はよく、意味の無い質問を
してきます。

具体的には、

「昨日バイトの先輩に怒られちゃってさ。
どう思う？」

みたいなの。

で、これに対する1つの正解が、

「あー。やだねー。」

です。

ただ、「怒られちゃってさ」を言っている
彼女のその時の感情を、なぞって言葉に
しているだけ。

これ、生真面目に考えてみると、

先輩に怒られたことについて
どう思うかなんて質問されても、
答えようが無いわけです。

どのような状況で、どのような
関係性の先輩に怒られたのかが
分からないのであれば、

意見のしようがありません。

でも、いいんです。

女性のこの質問からあなたが
感じ取ってほしいことは、

別に意見はもとめられていない

ってこと。

なので、テキトーに

「あー。やだねー。」

と、その時の女性の表情とか、
態度とかから読み取った

目の前の女性の感情をなぞっておけば、

「でしょー！

だってさ…（以下略）」

みたいな感じで、女性のほうが
勝手に話始めます。

この後に、

「〇〇君ならどうする？」

って聞かれても、

これだって、状況が分からな過ぎて
本来、答えようが無いわけですが、

そんなことはどうでも良くて、

「そうだね。どうしようかな…」

とかって考えている感じに
間を作ってあげれば、

「わたしは、その先輩に、私の
せいじゃないことをしっかりと
伝えただけだね」

とかって続けてくるんで、

「うん。うん。それで？」

って話をうながせば良いです。

僕が言う『鏡』っていうのは
こういう感じです。

女性側が、こちらに対して
質問はしていますが、

こちらは一切自分の色を
入れないで、

ただ女性の感情を反射させて
なぞっているだけ、っていうイメージ
分かりますか？

他には、

「うちは両親が共働きだったから
いつも弟の世話はわたしがしててね。

すごく大変だったの。

〇〇君の家はどうだった？」

みたいな流れがあったとして。

この「すごく大変だったの」

に強い感情が乗っかっている
ようであれば、

「〇〇君の家はどうだった？」
は無視して、

その女性の感情をそのままなぞって、

「それは大変だったよね～」

って言って、

この女性がいかに大変であったかの
話をそのまま促しても良いですし、

「〇〇君の家はどうだった？」

の方に

「母親は専業主婦でいつも
家にいたよ」

と、普通に答えたとして、

女性側が、

「いいな～。楽でうらやましい」

って来たとしたら、

その回答は、

「そうだよね」

とかが正解です。

で、女性がそのまま

「そうでしょ～。幸せものだよ～。

うちなんか、家事は全部わたしが
やらされて…」

みたいに続くのがベストです。

たとえば、あなたの家庭では
母親が専業主婦なせいで、

教育ママのお母さんが

いつもあなたに対して目を
光らせていて、しつけが超厳しくて、

毎日が息苦しかったとしても。

極端な話、母親のあなたに対する
DVがあったとしても。

そういう、あなたの事情や
あなたの色は一切持ち込まずに、

ただ、相手の感情をなぞって
映すのが『鏡』です。

これを間違えて、

「いやいや。うちの母親はものすごい
教育ママで、

いつも母親が家で自分を見張っていて
勉強ばかりさせられて大変だったんだから。

逆に、共働きで家にいないってのが
うらやましいよ」

とかって、あなたの色を持ち込んで
しまうと、

もちろん女性も、大人ですので、

「そっか～。それはそれで大変だよ～」

とかって返してはくれますが、

ここで『鏡』を放棄してしまうと

流れが切れちゃうんですよ。

女性が、どんどん自分の感情に
酔っていく感じの、

気持ちよく、気持ちよく
没頭していく感じの、

あの、ハイでトロンとした流れが
ブツッ！！って。

切れちゃいます。

とにかく、一度『鏡』として
女性を映し始めたならば、

女性の方から切ってくるまで
『鏡』を止めないでください。

これは、

ある程度コミュニケーション能力が
高い女性であれば、

途中で

「なんか。わたしばかり話しちゃって
ごめんね」

とか言って気をつかって向こうから
流れを切ってきます。

逆に、メンタルが幼い女性の場合、

延々に続けます。

ちなみに僕は、最高で、

8時間ぶっ通しで話され続けた
ことがあります（笑）

売れてるキャバ嬢だったので、
たまっているストレスも
半端なかったんだと思いますが。

アフターで雰囲気の良い
お店に行って、

その後、どうしようかな～って
思っていたのが、

女性の勢いがまったく
止まらなくて、気が付いたら朝…

もう自分はクタクタ…
眠さも限界…

っていう（笑）

ただ、その効果は凄くて、

帰り際に、べったりくっついて来て

「次いつ会える？

明日も会いたい

今からうちに来てよ」

って、ぐいぐいと言い寄られました。

.....

こういうの、

こうやって具体例とか
テクニックとして表現して
しまうと、

ちょっと難しく感じて
しまうかな…

っていう心配もあるのですが、

実際にやってみると、
意外と簡単です。

僕なんかも、

とりあえず、

「う～ん…」

「そうだね…」

「そうかもしれないね…」

「どうかな…」

「それで？」

「そしたら？」

「(相手のキーワードの繰り返し)」

などを使って、

1、間を作りながら

2、否定しないように相づちを打っている

だけです。

なので、テクニク的に難しいというよりも、
普通に、疲れはします^^；

2つめ。

同じ質問をそのまま投げしてみる

会話の中では自分の色を入れない、

女性が話している最中に
質問されても、
自分のことは話さない。

という意味で言いますと、

女性が質問してきたら、

その内容でそのまま質問する、

というのも『鏡』の基本です。

これは特に、

人間関係・悩み系のお話

である場合が多いです。

例えば

「最近、彼女とうまく行ってる？」

とか、

「今の仕事って好き？」

とか。

そしたら、自分が今の彼女と
どうであるとか、

今の仕事に対してどのような
思いを抱いているだとか、

そういうのはどーでもイイんで、

「まあまあかな」

「まあね」

くらいで充分なので、

その後すぐに、そのまま
同じ質問を投げかけて
あげてください。

「彼氏とはどうなの」

「今の仕事は好き？」

って。

**それがいま、一番彼女が
話したいことである可能性が非常に高いです。**

あるいは、彼女が一番話したい
内容に、話題が『展開』しやすいです。

相談とかも同じです。

女性が「相談に乗って欲しい」と
言ってきたときに、

相談に乗ったらダメです。

答えを提供したり、解決策を与えたり、
アドバイスしたら、ほぼ、

「ありがとうございました^^
〇〇さんのおかげで解決できそうです」

って笑顔で言われて、実際には
心を閉じられます。

なので、例えばこれも、

「わたし、この仕事に向いていないと思う」

なら、

「向いていないって感じたんだ？」

って、彼女の感情をそのままなぞって
あげれば、だいたい、仕事の愚痴とかが
どんどん出てくるんで、

ひたすらそれを、受け止めてください。

「同僚とどうしてもソリが合わないの」

とか、

「どうしても嫌いなお客さんがいて…」

とか来るんで、

そしたらこれも、

「あー。同僚とソリが合わないとキツイよねー」

とか、

「ああ。嫌なお客さんっているよねー」

です。

ここを間違えて、

「気が合わない同僚なんて、どこの会社にだって
いるものだよ」

とか、

「客商売なんだから、そんなこと言ってたって
しょうがないじゃん。
それよりも、そういうお客さんこそが、
自分を成長させるための、良いヒントを
くれたりするんだよ」

だと、そこで女性の心が閉じます。

途中で、

「それはこうしたら良いんだよ」

とか

「それはこうしてみたら？」

とか

「みんな同じで、君だけが辛いんじゃないんだよ」

とか、

こういう反応したら、アウトです。

何度でも繰り返しますが、

**『鏡』の仕事は相手の感情を
ありのまま、映すことです。**

アドバイスするのは、『鏡』ではありません。

あなたが、どれほど素晴らしい人間であれ、
そのアドバイスは99%、
女性を不愉快にさせるだけです。

そういうもの、なんです。

さらに、話が深まってくると、

・究極の質問

とかもあります。

「私はどうしたらいいの？」

「どう生きればいいのか？」

「幸せって何？」

みたいな、そもそも答えなんて
見つけられるはずのない疑問。

答えようがないやつ。

もちろんこれも、答えなくて良いです。

一緒に悩んでください。

そして、答えは出さないほうが良いです。

答えが無いはずの質問について、

答えを出すというのは、だいたい
薄っぺらくなります。

あなたが、彼女にとってのカリスマで、
彼女が明確に、明瞭に、答えを求めているのであれば、

あなたなりの結論を、簡潔に、
分かりやすく、バシッと伝えて
しまえば良いのですが、

それは、

2つめ：理想側であること

のジャンルです。

その自覚があってやるなら
アリなんですけれども、

僕のコンサルの経験上ですね、

たぶん、95%くらいの男性は、
こういう時は、

答えを出さずに一緒に悩んだほうが
良いです。

しかも、「一緒に悩む」といって、

それは、彼女にとっての、

「私はどうしたらいいの？」

「どう生きればいいのか？」

「幸せって何？」

を探す行いであって、

あなたにとっての、

「私はどうしたらいいの？」

「どう生きればいいのか？」

「幸せって何？」

を探す行いではありません。

あなたの役割は『鏡』です。

あなたのことなんてどうでも良い。

すると、自然と、あなたの役割は、

「〇〇さんはどうしたらいいと思うの？」

とか

「〇〇さんはどう生きればいいのかと思うの？」

とか、

「〇〇さんにとっての幸せって何？」

みたいな感じで、

相手の女性の思考を深めるための
質問を繰り返すことになります。

...

ちなみに、

「女性のほうからなかなか
深い話をしてくれません」

という男性は、だいたいここが
欠けてます。

女性は、

あなたに質問をする、という形で
自分が話したいことを、遠まわしに
主張してきます。

なので、あなたのどうでも良い
自分話はおいとして、

しっかりと、女性の質問を
『鏡』として、そのまま反射して
あげてください。

3つめ。

**あなたの感情を抜きにして、
丁寧に、1つ1つをそのまま受け入れる**

例えば、

「〇〇先輩ってすごく性格悪いんだよ」

って言われたとき、

そしてあなたが、この〇〇先輩の性格
について、けっして悪いとは思っていないとき。

あなたは、

「へ～。そうなんだ」

と聞けるかどうか。

これ、超重要です。

ここで、

「いや。そんなことねーし！」

って頭から否定したり、

「いやいや。〇〇先輩は全体のことを
見ているから～」

って情報を足していったり、

「会社の先輩をいきなり悪く言うなんて
良くないよ」

って説教したら、ダメです。

女性から、

「ですよね～。ごめんなさい^^」

って笑顔で心を閉じられて、終わります。

これも、あなたがどう思っているとか
あなたがどう考えているかなんて
どうでもいいんです。

重要なのは、この女性の感情。

なぜこの女性が、その感情を抱く
ようになったのか？

あなたが『鏡』になれるかどうか？

であれば、

「〇〇先輩ってすごく性格悪いんだよ」

に対する答えは、

「どうしたの？」

「何があったの？」

あたりでしょう。

あるいはそのまま

「へ～性格悪いんだ～」

って反射しとけば、

「そうなの。だってこの前ね…（以下略）」

と、なぜ彼女が、〇〇先輩のことを
悪く思うようになったのか、その経緯が

明らかになります。

例えばその内容が、

「そうなの。だってあの先輩って、
私と話しているときと、
〇〇さんと話しているときで、
態度が違うんだよ」

だとしたら。

「それは、君と〇〇さんでは
立場が違うじゃん」

とかではなくて、

もちろん、

「へー。態度違うんだー」

とか、

「どんなふうに違うの？」

が正解です。

あなたがどう思うかは関係無い。

**彼女がなぜ、その感情を持つように
なったのか？**

重要なのは、いつも「彼女の感情」
であり、

主役はいつも、「彼女の気持ち」

ただただ誠実に、1つ1つ、
彼女の感情を映し出してあげること。

そこに、あなたの考えは必要ありません。

それが『鏡』です。

[もくじに戻る](#)

16、恋愛感情を抱いてしまう仕組み

ここまで、

人間は、

『共感』をベースにして

この5つを与えられてしまうと、

その人の魅力に逆らえなくなる。

べったりと依存してしまうし、
完全に人生を預けてしまうようになる。

というお話でした。

今回の教材のテーマである、

・**マインドコントロールの一步手前**

という状態です。

この点について、

もう少し突っ込んで理解してみましよう。

僕がこの教材で紹介しているやり方
ってというのは、

ざっくりと言ってしまうと、

カウンセリングとかの技術である

『共感』とか『鏡』をベースにしています。

もちろん、この2つだけでも
極めてしまえば、非常に強力で、

これだけでも、たいていの女性を
恋愛感情にまで持ち込めるんです
けれども、

この2つっていうのは、当然ながら
目的はカウンセリングであって、

恋愛ではないわけですね。

なので、この2つだけでは対応しきれない
シーンっていうのが、あるんです。

カウンセリングと恋愛では、

前提も目的も全く違いますので。

ですので、僕の経験と実績をもとに、

これら、カウンセリング系・マインドコントロールの技術を
より恋愛の実践向けに作りなおそうとしたところ、

『自己重要感』や『理想側』、

『同じであること』『衝突属性』

といった、考え方が生まれました。

ですので、本当は、

『共感』をベースに、『鏡』である
ことに徹しただけでも、

心理学で言うところの、

- 転移（てんい）

という現象の延長として、

• 恋愛転移（れんあいてんい）

という現象が起き、一定数の女性は
これだけでも落とせます。

一方で、『共感』をベースにして
『鏡』であることだけを意識して
いたのでは、

うまく恋愛感情まで持ち込めない
こともあります。

その時に足りないのが、

『自己重要感』や『理想側』、

『同じであること』『衝突属性』

のどれかです。

あるいは、外見が生理的に
受け付けられない…

みたいな可能性もありますが…

それはもう、ファッションを
磨くとか、トレーニングするとか、

髪型を整えるとか、体質改善するとか、

そっち系の話になっちゃいますので、

今回は置いておいて。

…

あるいは、

・きっかけが足りないだけ

という可能性もありますが。

これについては、後ほど解説しますね。

…

さて。

ですので、

『共感』をベースにして『鏡』として
女性に接する

というのが、まずベースにあるんだ、
というところを、まずは押さえてください。

これは、分かりやすいところと言うと、

例えば、仕事にせよ、恋愛にせよ、

異性の相談に乗っているうちに、
恋愛感情が芽生えてしまう、

なんてことは、よくありますよね。

ここ、少し細かく分類してみましようか。

例えば、

パターン1：

男性が女性からの相談に乗っているうちに
女性は、その男性に対して恋愛感情を
抱くようになってしまった。

ありそうで、実は少ないのがこのパターン。

このパターンで上手くいくのは、

女性側が、相談相手の男性に対して
強い尊敬と憧れを抱いている場合のみ

です。

なので、相談の前提として、

男性側が、女性にとっての
強い『理想側』でなければ成立しません。

じゃあ逆に、どんなパターンが
多いのかっていうと、

これ、もしかすると、僕が恋愛コンサルタント
なんていう仕事をやっているから、

そのせいで、こういうパターンを
多く見てしまうのかもしれないんですが、

パターン2：

男性が女性からの相談に乗っているうちに
男性が、その女性に対して恋愛感情を
抱くようになってしまった。

です（笑）

あれ？

逆ですね（笑）

そうなんです。

逆。

むしろ、こっちが多いです。

なぜかっていうとですね、

ほとんどの男性は、

女性から相談されると、

大喜びで、

解決策を提案したり、

一生懸命にアドバイスしたり

するからです。

そうすると、これ、

**男性の承認欲求がぐいぐいと
満たされます。**

頼られる、オレ。

みごとな解決策をアドバイスする、オレ。

正しいことを説教する気持ちイイ、オレ。

目の前の女性は、そういう承認欲求を
どっぷりと満たしてくれます。

だから、目の前の女性を好きになっちゃいます。

こういうの、僕は、

- ・自己無価値観に根差した、救世主願望

って言っているんですけども、

相談されて心から満たされるのは
男性の方であって、

女性側は、だいたい、

「〇〇さんのおかげで目が覚めました！
ありがとうございます！！」

って理性ではとって感謝しながら、

本能はクタクタになっています。

だから、だいたいこのパターンの
男性は、最後はフラれます。

この教材をここまで読んでくれたなら
もう大丈夫だと思いますが、

本来、女性から相談されるっていうのは
大チャンスなんですよ。

ここで、しっかりと『共感』をベースにして、
『鏡』であることに徹すれば、

つまり、相手の承認欲求を満たして
あげさえすれば、

深い深い信頼関係が結べますし、

少なくとも、その女性にとって
特別な存在になれたはずです。

にもかかわらず、

相談された男性は、逆に、女性を利用して
自分の承認欲求を満たすものだから、
チャンスを台無しにしてしまうんです。

というわけで、

パターン3：

男性が女性からの相談に乗っているうちに
女性が、その男性に対して恋愛感情を
抱くようになる。

に持って行きたければ、男性側がちゃんと

『共感』をベースにして『鏡』で
あることを実行できた場合ですね、

このとき、一定の割合で、

・恋愛転移

という現象が起き、

女性は男性に恋愛感情を抱きます。

実はこれは、カウンセリングの世界では非常にメジャーな概念です。

そして、ちゃんとしたプロのカウンセラーは、

いかにして、恋愛転移を避けるのか？

恋愛転移が起きてしまったらどう対処するのか？

という方法論を学び、訓練を積み重ねています。

そのくらいに、

恋愛転移は、避けがたいものです。

こちらの意図と関係なく、

起こってしまいます。

患者から、いちいち恋愛感情を抱かれていたのでは、

カウンセラーの仕事になりませんので、

ここはみなさん、苦勞しています。

例えば面白いところだと、

フロイトっていますよね？

大ざっぱな言い方をすると、

いわゆる、「心理学」の創設者みたいな人で、
僕たちが今、普通に使っている、

「無意識」という概念を発見した天才です。

たぶん知っている人の方が多いんじゃないかな
って思うのですが。

彼は心のお医者さんですので、

現場で実践し続けた人なんですけれども、

「転移性恋愛について」という論文を
書いていて、これが別の意味で面白いんです。

なんていうのかな。

論文って言いながら、
ほとんど愚痴なんですね、これ（笑）

さんざん女性患者からの恋愛感情に悩まされて、

「っていうかさ、いい加減にしろよ、
おまえらさ、そもそも恋愛って何さ!？」

みたいな、ぼやき。

あのフロイト大先生の論文のはずが、

色々言っているんだけど、結局、
何を言いたいのかよく分からないんです。

よっぽどストレスが溜まってたんだろうな…

フロイトって真面目な人だなあ…

そうとうに悩まされたんだろうなあ…

って（笑）

逆に、もう1人の超有名な心理学の
大天才で実践家の、ユングなんかは、

これはこれで、すごくて。

彼は、自分の患者になった美しい女性とは
寝ちゃうんです。

さらに愛人になった女性も何人もいます。

ユングこそは、僕に言わせれば、

カルト宗教の教祖になって、

信者の中から気に入った女性たちと
次々の自分のものにしてしまった、

みたいな人です（笑）

本人が、どこまで自覚していたかは
分かりませんが、

ここで紹介している、

『共感』をベースに『鏡』であることを実践した、

カウンセリング的な手法を悪用して、

つまり、患者＝信者の承認欲求を深く深く満たすことで、

女性とやりまくった人ですね。

何が言いたいのかっていうと、

そのくらいに、

- ・恋愛転移

っていうのは、避けられないんです。

「恋愛感情を抱かせよう」

とかではなくて、

「恋愛感情になってしまう」

んです。

なぜ、こんなことが起きてしまうのかっていうとですね、

あんまり難しい説明したくないんで、

これまた、ざっくりとした言い方に

なってしまうのですが、

承認欲求を深く、深く満たしてゆくやり方というのは、

相手の存在そのものを、無条件に肯定してゆくわけですので、

女性の気持ちが緩んでくるんです。

緊張がほぐれて安心します。

で、これは通常の緩み方とはレベルが違っていて、

承認欲求という根源そのものに働きかけられるものですので、

・超自我

というのが緩んでくるんです。

これは、簡単に言いますと、

人間が生まれた後に、教育とか文化とかによって身につける、

倫理観とか道徳観とか、あと、いわゆる理性的な判断力みたいなものです。

こうしたら叱られるとか、

こうしたら笑われるとか、

こうしたら失礼だとか、

こういうことは言ってはいけないとか、

こういう時は、こうしなければならないとか、

そういう全ての、

自分を抑え込んでいたモノ。

この緩み方っていうのは、人によって違います。

なかなか緩んで来ない人もいれば、

それまで固かったのが、あるときパタッと
急激に緩んで、ドバーっとその人の内側が
一斉にあふれ出すとか、

まあ色々なんですけれども、

こうなると、女性の中から、

これまでの社会生活の中では、
はっきりと言えなかった自分勝手な願望だとか、

欲求、不満、ひがみ、愚痴、負の感情、
みたいなのがたくさん表れます。

女性の内面深くにある、
重たい悩みを聞いたり、

秘密を打ち明けられたりします。

強い強い、依存です。

このように、

超自我が緩む

とはつまり、

幼い子どもに戻ってしまう、

ということなんです。

あなたの承認によって、

あなたの前では、

幼い子どもに戻ってしまった女性。

あなたが、無条件で与え続ける承認欲求。

安心して、それをたっぷりと受け取る女性。

この人は頼れる、信頼できる、
自分のことを分かってくれる、

そうやって、幼少期の親のイメージが重なって
くるんで、

これはもう、親と子どもの関係なんで、

そこに、強い『依存』が生まれます。

ところが、親と子どもの関係なんだけれども、

現実には、あなたは親ではないし、
女性は子どもではないわけですので、

女性の中では、親子ではなく、
恋人として位置づけられます。

これが、恋愛転移です。

このとき、『理想側』であることが
足りなかったり、『同じ』であることや
『自己重要感』の与え方が足りなかったり、

あと、

・きっかけ

が欠けていたりすると、

恋人ではなくて、兄妹とか
父親とか親友みたいな方向に行っちゃったり
することもあるんですけれども、

それでもまあ、大丈夫です。

上記のような

・特別な男性

にさえなってしまうと、

あとは、足りていないモノや欠けているものを
付けたしていただけなんで。

それともう1つ。

ここまで読んでくれたあなたなら
お気づきかもしれませんが、

僕の会話術っていうのは、

あんまし、

「こういうセリフを言いましょう」

みたいながありませんよね？

『共感』をベースに『鏡』であることに
徹するのが基本。

あとは、その都度、与えられるところで、

『理想側』であることや『同じ』であること、
『自己重要感』などを与えてゆくわけですけども、

ほぼ、自分を主張しません。

ひとことで表すと、これ、

・究極の聞き上手

なんです。

主役は常に女性だし、

極論ですね、
男性側の感情など、どうでもイイ。

そういう男の自我やエゴは一切無視。

男の価値観とか、考えかたとか、
すべて置いておいて。

そういうスタンスで、

女性の超自我を緩めてゆくと、

ほとんど主張しない、男性のキャラクター
みたいなものを、

**女性のほうが勝手に、
良いように補足してくれるんです。**

あなたが、あなたの個人的な価値観だとか
考え方をほとんど示さないぶん、

圧倒的な承認欲求を満たしてくれる
目の前の男性を、

「きっとこういう人なんだろう」

と、**勝手に理想化してくれます。**

こちらで何かしなくても、

女性の方で、女性の好きな『色』を
男性に当てはめてくれるんです。

これを、専門用語では、

・陽性転移

と言うのですが、

この陽性転移が早すぎたり、
極端であったりした場合は、

期待値が高まりすぎて、反転する前に、
その女性と、積極的に関係を深めた方が良いです。

女性側が勝手につけた『色』ですので、
そうでない事が分かった場合の反動も
強いので。

[もくじに戻る](#)

17、友達を飛び越える

「きっかけ」の話をします。

その前に。

先ほど僕は、

『共感』をベースにして『鏡』として
接し続ければ、

一定数の女性は自然と

- ・恋愛転移

を起こして、男性に対して恋愛感情を抱く、

というお話をしました。

こう言うと、

「じゃあ、どのくらいの割合の女性が
恋愛感情を抱いて、

どのくらいが、そうじゃないんですか？」

という疑問が出てくると思うのですが、

その答は、正直なところ、分かりません。

・・・

今は、説明を分かりやすくするために

『自己重要感』

『理想側』

『同じであること』

『衝突属性』

『鏡』

というように別けて考えましたが、

これを実際に、会話術として運用するときには、

**常に、タイミングを見ながら、
全てを与えようとするのが正解だから**

です。

特に、『理想側』であるとか、
『同じであること』あたりは、

あなた自身の生き方と、
切っても切り離せないものですし、

また、この2つが無ければ、

そもそも、『共感』をうまく

作れない場合も多いです。

『自己重要感』なんかは、

ちゃんと、目の前の女性を観察していて、

「あ、ここだっ！」

っていうタイミングが来たら
すかさず与えるものですので、

逆に言うと、

こちらの都合やタイミングで
無理やり与えることは難しいです。

あなたが承認したいときに承認するのではなく、

**女性が承認して欲しい、その瞬間を見逃さずに
与えるというのが、『自己重要感』を与える
ときのキモだからです。**

『衝突属性』は、さらに、
女性側のタイミング重視で、

女性の性格によっては、

かなり早いうちから、求めてくる
場合もあれば、

しっかりと信頼関係が出来上がった後に、

特別なあなたに対してのみ、求めてくる
こともあります。

ですので、

実際に女性をデートをしたり、

2人きりで食事をしたりしながら

会話をしていると、

現実的には、

『共感』をベースに、

5つ全てを、与えていくこと
になりますので、

その結果、女性が男性に対して
恋愛感情を抱いたとしても、

その恋愛感情の原因を、どれか1つに
確定することは出来ませんし、

また、しようとする意味も
ありません。

なので、

『共感』をベースに、5つ全てを
与えよう、

という意識でいれば大丈夫です。

その上で、

最後に、「きっかけ」が必要な
ことがあります。

女性があなたに依存して、

特別な存在として受け入れたとしても、

『その感情』が何なのか？

『その感情』を女性自身がどう扱って良いのか？

分からないときがあるんです。

そんな時に必要なのが、

女性の中に芽生えた『その感情』を、
女性の中の「恋愛」というカテゴリーに
入れさせることであり、

そのための「きっかけ」は男性が
与えてください。

具体的には、

「オレは、女としてのお前に興味を持っている」

ということを伝えるんです。

ここは、そんなに難しく考えなくて
大丈夫です。

ここまでちゃんと、
女性の超自我がゆるゆるになるくらいに
特別な信頼関係を築き上げていれば、
だいたい何を言っても、
何をしても大丈夫です。

インターネットで検索してみたり、
本や情報教材に書かれているような
いわゆる、普通の「恋愛テクニック」
を使えば、受け入れてもらえます。

ストレートに、
「女として好き」
って伝えちゃっても良いですし、
いわゆる、ボディータッチとか、
スキンシップみたいなものを
入れていっても良いでしょう。

**異性としての意識を、
こちら側から先に示せば、進展します。**

が、それでもさすがに、

いきなり告白すると、

いきなりホテルに連れ込もうとするのは
避けてください。

ワンクッション挟んで、

彼女の脳みそを切り替えてからでないと、

あなたがのことが嫌いだからとか、

あなたとは付き合えないとか、

あなたのことは、そういうふうには見えないとか、

そういう理由ではなく、

ビックリされて、拒否されます（笑）

ですので、まあ、

いきなり告白

もしくは、

いきなりラブホテル

とかでないなら、本当に
何でも良いんですけれども、

そんなこと言われても、
困ってしまう男性も

いるかと思しますので、

現時点で、僕が、一番、

あなたが、どのようなタイプの男性であっても、

高い成功率と再現性を保証できるノウハウ

だと考えているものを1つ、お伝えします。

この方法で、

- ・男を『強く』意識させる

ことで、

『特別な男性』から『恋する人』へ、

ぴょんっ！

って飛び越えさせる仕掛けを
します。

それは、

- ・エロくないキスをする

です。

これ、色々と説明が必要かと思えます。

順番に解説しますので、
キッチリとおさえてください。

1つでも飛ぶと、

成立しなくなっちゃうので。

まずは、

条件1：特別な深い信頼関係が築けていること

しつこいようですが、

この前提は守ってください。

これは、そうですね…

女性が8対男性が2

もしくは

女性が9対男性が1

くらいの割合で、

楽しそうに、女性がおしゃべり
し続けられるような

そういう関係性になる、
というのを1つの目安にしてみてください。

あと、

ごく限られた人にしか話さない、
秘密の話

も目安になります。

女性が8対男性が2

もしくは

女性が9対男性が1

くらいの割合で、

楽しそうに、女性がおしゃべり
し続けられるような関係性、

だけだと、

たまに、誰に対しても、
そういう話の仕方をする女性ってのも
いますので。

・ **あなたの前でだけ**

ってのが重要です。

そういう意味ですね、

愚痴とか性的な話とかも
目安になりますよね。

あんまり、誰にでも話すことじゃあ
ないじゃないですか。

普通は。

まあこれも、たまに、
誰にでも話す子っているんですけども（笑）

とにかく本質は、

- ・あなたにだけ

って部分です。

ここを感じられたら、

僕が一番お勧めするのが、

帰り際に、エロくないキス
をすることです。

この、「エロくない」
ってのがポイントで、

キスしたときに、

男ってのは、ついつい、

女性のお尻とか胸とかに
手が行ってしまうでしょ（笑）

あと、舌を入れちゃったりとか。

そういう、性的なニュアンスが
入っちゃうと、

・体目当て感

が出ちゃうんですね。

なので、できるだけフレンチに。
ロマンティック寄りで。

具体的には、

ステップ1：

帰り際に手をつなぐ

ステップ2：

別れ際に見つめ合う

ステップ3：

女性の頭を引き寄せて
くちびるに軽くキスをする

ステップ4：

「またね^^」

って言って別れる。

です。

以下、解説つけます。

ステップ1：

帰り際に手をつなぐ

普通に2人で歩いていて、

体の距離を近づけてみてください。

で、相手が離れなければ、

そのまま、そっと手をつないで

みて大丈夫です。

こういうこと言うと、
必ず、

「何て言って手をつなげば
いいんですか？」

って聞かれるんですけども、

条件1と条件2を満たしていて、

さらに、2人きりでの帰り際で、

こちらから体の距離を詰めても
特に離れられたりしなければ、

ここで強く拒絶されることは
ありません。

どうしても不安なら、

「手かして」

とか、一言そえれば良いと
思います。

ステップ2：

別れ際に見つめ合う

手をつないだまま、

しばらく歩いてみて、

その後、見つめ合う状態に
持って行きます。

ここも、これまでの前提条件さえ
全てクリアしていれば、

とくだん、セリフが必要とは思いませんが、

まあ、不安であれば、

「ちょっと待って。

ね。

ちゃんと目を見せて」

とか言えば良いでしょう。

で、向き合って、しっかりと
見つめます。

この時、少し体の距離も
縮めます。

相手は、強く見つめ返して
くることもあります、

照れて、笑っちゃって、
目をそらす子とかもいますので、

そういう時は、

「照れんなよ^^」

とかって、

その感情を指摘してあげれば
良いと思います。

ステップ3：

女性の頭を引き寄せて
くちびるに軽くキスをする

ここまで来たら、

あとはキスします。

くちびるに、軽く。

このやり方ですが、

相手の頭の後ろに、

こちらの両手をまわして、

女性の頭を優しく
つつみこむように、持つ感じです。

で、そのまま引き寄せて、

キスしてください。

なるべく、フレンチで、
ロマンティックに。

ステップ4：

「またね^^」って言って別れる。

ここまで来たら、くちびるに軽くキス
以上のことは絶対にせず、

もう1度、しっかりと
見つめあった後に、

「またね^^」って言って別れる。

とかがバランス良いと思います。

これで、攻略完了です。

女性は、男性と会っている
その瞬間よりも、

会っていない、1人で色々と
考えている時間の中に、

男性のことを好きになりますので、

くちびるに、軽くキスしたまま
さわやかに分かれますと、

帰りの電車の中とか、

夜、ベットに入って寝る直前とか、

そういう時間に、

「あのキスは何だったんだろう…」

って、考えながら、

今まで、前提条件としては
確かにあったんだけど、

それが、はっきりと

意識はされていなかった、

・男と女

っていう感覚が、じわじわと
女性の心の中で急成長を始めます。

注意点として、

これ、繰り返しになっちゃう
のですが、

**キスは、エロい要素を入れたら
絶対にダメですからね。**

エロい要素を入れちゃうと、

女性が一人でじわじわと
考え込んで、

恋の芽を育てるはずが、

そこに、

「体目当て??」

的な疑いが混じって
しまうことがあって、

そうなる、

恋愛感情が、思うように育ち切らない
ことがあるんですよ。

なので、ここは、

男はしっかりと我慢です。

...

あとは放っておけば、

3日～1週間もあれば、

あなたの存在は、

『友達』から『恋する人』へと
変わります。

そうそう。

注意点なんですけれども、

あなたが、その女性と
特別な深い信頼関係を築いたなら、

このキスは先延ばしにしないで
ください。

これ、相手の女性に対して
慎重になりすぎて、

特別な深い関係になったのに、

いつまで経っても、

男性の方から、その先に
進めようとせずに、

そのまま、変な感じで

関係性が固定してしまうことがあるんです。

・タイミングを失った

ってやつです。

恋愛って不思議なもので、

この熱いタイミングを逃して、
なあなあな感じで、

関係性が固定してしまうと、

逆に、もう、お互いに
一歩も進めなくなってしまい、

ポンっ！ ってひと押しすれば
簡単に恋愛関係に行けたはずなのに、

今や、まったくそれが不可能に
なってしまった…

何もしていないのに…

いや、何もしなかったから…

っていうのが、あるんですよ。

こうなってから相談されても、

だいたい手遅れなんで、

最後は、男が勇気を持って、
男がリスクを負って、

男の方から、一歩、
踏み出してください。

[もくじに戻る](#)

18、到達点は洗脳です

理論編はこれで終わりです。

お疲れさまでした。

最後にまとめます。

ここまで読んでくれた人であれば
分かるかと思いますが、

この教材の会話術とは、

**聞き上手であることを、とことんまで
極めつくしたもの**

です。

承認欲求を満たすには、

聞くことです。

女性の話に真剣に、真剣に、耳を
傾けることです。

聞くとは、ただテキトウに相づちを打って、

「うんうん。そうだよね」

って聞き流すことではありません。

以前、ある男性の恋愛相談に乗ったとき、

「自分は聞き上手はもう出来てる。だから
もっと別のスキルが必要だと思う」

と言ったので、

「じゃあ、あなたには、あなたと一緒に
自殺してくれる女性がいますか？」

と質問したら、絶句されました。

・話を聞く

ってというのは、ただ相手の表面的な言葉
に対して、タイミングを掴って相槌（あいづち）
をうってあげればいい、

というモノじゃありません。

「自分は話を聞くのが得意ですが、

女性が深い話をしてくれません。

どうしたらもっと手っ取り早く
深い話ができるようになりますか？」

という質問をする男性も失格です。

この質問をしている時点で、

全然、『聞けて』ませんよね？

レベルが低すぎます。

あなたの持てる、全ての力、全ての集中力、
全ての注意力で持って、

目の前の女性を理解しようとする事、

目の前の女性の全てを知ろうとする事、

目の前の女性を分析しつくす事、

目の前の女性を理解しつくす事、

それが、本当の『聞く』です。

理解とは『共感』を通じて行われます。

頭をフル回転させて、

あなたの全身全霊を持って、

『共感』し、理解するからこそ、

相手が望んでいる承認を、適切な
タイミングで与えられます。(=自己重要感)

こんなの、セリフの問題じゃあ
ありませんよね？

セリフなんて、なんだっていいんです。

相手が認めて欲しい、褒めて欲しい、
そのタイミングで、たった一言、

「いつもありがとうね」

「〇〇さんのおかげだよ」

って言うだけです。

あなたの全身全霊を持って、

『共感』し、理解しようと専念するからこそ、

あなたの価値観を保留にして、

安定した心で、女性の気持ちを受け止められます。
(=理想側であること)

あなたの全身全霊を持って、

『共感』し、理解するからこそ、

相手が自分をどのような価値観で
認識しているのかが分かります。

だから、どこに合わせれば良いかが
分かります。

(=同じであること)

あなたの全身全霊を持って、

『共感』し、理解するからこそ、

その女性が、あなたとぶつかり合いたい
タイミングが見えます(=衝突属性)

あなたの全身全霊を持って、

『共感』し、理解しようと専念するからこそ、

あなたの考えや社会通念を無視して、

女性を映し出すことができます(=鏡)

聞く=信頼

聞く=理解

聞く＝尊重

聞く＝関係を育て深める

聞く＝心を開く

聞く＝依存

聞く＝いやし

聞く＝受け入れ

です。

会話で重要なのは、

『あなたが何を言うか？』ではありません

『女性が何を言うか？』

です。

それを、聞くんですよ。

命がけで。

よく、聞き上手はモテる、

と言われますが、

その聞き上手を極限まで
極めつくしたとき、

女性の心は完全に理性から離れて
無防備になります。

心が無防備になった女性は、

過去も、秘密も、悩みも、欲望も、

全てをさらけ出してくれます。

それは、あなたに対して、全ての弱点を
さらけ出してくれることになり、

ここに、深い信頼関係が生まれ、

強い依存心が生まれます。

女性の話を集中して聞き、

女性を癒し、女性の心を無防備にする。

こうして、女性の心を侵食します。

普通であれば、打ち明けられないようなことを
打ち明けることによって、

そこには、特別な関係が成立します。

女性の中に、助けて欲しいという
無意識の心理が働くようになり、

助けを求めるとい心理が、
あなたを救い手という優位な立場に立たせます。

だから女性は、あなたに全てを
ささげてくれます。

あなたのためなら、何だってしてくれます。

これが、

マインドコントロールの一步手前

です。

洗脳やマインドコントロールの基本は、

- 聞くこと

です。

べつに魔術的な、なにか特別な
技法があるのではなく、

『聞く』という行為を、
魔術的なレベルまで高めた結果です。

忘れないでください。

相沢蓮也

○おわりに○

この仕事を始めるまえ、当然のごとく
僕も色々な恋愛商材を買いました。

そして恋愛系のメールマガジンを何誌
も読んでいました。

もちろん、素晴らしい恋愛マガジンが
沢山あって、それらには本当にお世話
になりました。

ただ、それでも、全体的にちょっとした
不満があって。

その不満がずっと僕の中でくすぶって
いたんです。

その不満とは何か？

・全体的に、広告や売り込みが多すぎる

です。

もちろん、僕だってビジネスで書いています。

お金も欲しい。

でも、それにしても、恋愛系のメルマガには、内容10パーセント。残り90%はすべてアフィリエイトか商材の売り込み。

というのが多すぎる気がしてます。

毎回、アフィリエイトリンクを山ほど貼り付けて。

「あなたがモテない原因は●●です」
「●●を解決するには●●が必要です」
「好きなだけセックスできる方法です」
「続きはこちら…」

みたいな、ひたすら期待感だけ煽って買わせることのみを目的とする文章。

ちょっと、そういうのにウンザリしていたのも事実です。

メールマガジンとは、メールで配信される「雑誌」なわけで。

90パーセント広告の「雑誌」を誰が喜ぶのか？

そういう思いが日に日に積もったんです。

僕がメルマガを書くなら

内容9割。広告1割。

これで行こう！

利益が少なくとも、僕はちゃんとした
熱い「雑誌」を書き続けよう。

そうした思いで続けているのが、
独自配信のメールマガジン、

『初デートで何を話せばよいか分らない
という状況を克服する方法』

<http://rye-ex.jp/fx/33>

です。

「恋愛系のメルマガを何誌も登録しましたが、
結局ちゃんと読んでいるのは相沢さんの
ものだけですよ」

「相沢さんのメルマガさえあれば、他の恋愛
商材はいりませんね」

そういった声を沢山もらえる由縁です。

ぜひ、ご愛読ください。

『初デートで何を話せばよいか分らない
という状況を克服する方法』

<http://rye-ex.jp/fx/33>